

WIFE

女の言いたい放題誌

わいふ NO.220.



特集——野口とし子・勝浦恵美子他

家にいて出来るしごと

特別寄稿——日高あき子

後ろの正面ス・パ・イ

オニオン——山中宮枝

消費税を考える

ワンポイント情報——夫の道楽

農文協

東京都港区赤坂7-6-1
電話03(585)1141(代)

●内容見本呈 (Y係へ)
(●印は税込 ●印は税抜)



自然食は安全か

* 1100円

高橋昭正著 玄米、有機農業、自然塩、低温殺菌牛乳：など流行する「自然食」に科学の光を当てると、素朴つまみ食い自然主義の立場に堕しているかに見える現状を憂い、反つスリ公書運動の旗手が「安全性の科学」の視点から初探を検証。

★おもしろ学校公開授業(小6・家庭科)の記録
子どもと**原子力発電所**
話そう
名取弘文著 廃炉の時代を担う子らのマジンガ。大人はトキンノの本
★なぜかれらはつらいであつた農業を志すのか。10年に渡るルポ
写真ルポ**農民志願** 生活者としての自立
橋本結二写真十文 理想主義的で個性の強い生活実践
* 1900円

聞き書 山口の食事

日本・瀬戸内両海と、内陸山間、盆地、秋の食紀介●2800円
九十九里、房州、東京湾の海の幸
や各地の伝統食群●2900円

●第2期刊行開始

好評発売中!



日本の食生活全集第20回 配本 最新刊発売中
海、山川、田畑の豊かな愛知。尾張藩時代からの
伝統ある食へのと、江戸、上方の味覚が多彩に
おりなす食文化を写真とおぼさん方からの聞き
書で再現。名古屋、尾張水郷、濃美平野、知多半島、
奥・西三河など県内各地の食を地元の方が執筆
☆A5判・上製/カラリ口紙16頁付●2900円

聞き書 愛知の食事

いま聴える先達の知恵、大正・昭和初期の庶民の食文化、
おばあさんから受継ぐものは、こんなに豊かで素晴らしい!

父母と子の立場から教育・学校を考える月刊誌

母と子



年間家庭直送3,000円(税・干共) 1冊250円(税抜)

随時予約受付けます(TEL0424-74-9125)

10月号(発売中)

11月号(10月12日発売)

視点 再び家族・家庭を考える 視点 メディアのなかの暮らし

父母・教師に大反響! 好評発売中!

子どもの人権—立ち上がる父母・市民—

「子どもの人権と体罰」研究会 共編 定価1,545円(税込)
体罰と管理教育を考える会 四六版・並製

〒203 東京都東久留米市中央町5-4-8
電話0424-74-9125 振替 東京0-89701

母と子社

WIFE

わいふ NO.220.

いいたい放題 したい放題
書きたい放題 よみたい放題の
投稿誌が わいふです
人間 ほんとにやりたいことは やれるもの
ウジウジ・イライラふり捨てて
思いっきりやれば 気ははれる
いろんな人のいろんな時の
いろんな心を材料にして
二か月に一回 わいふが出来あがるのです
仕上げに適量の“ユーモア”と
“思いやり”のスパイスを！
ピリッとくるか まろやかになるか
それはあなたの“うで”次第！



WIFE

わいふNO.220

もくじ

書いてますこんにちわ⑤

神奈川県川崎市・十文字美恵
写真・佐々木恵子 文・本人

特集——家にいて出来るしごと

電算写植オペレーター

野口とし子

地域の英語教師

勝浦恵美子

ポップライター

北川時子

エッセイスト・クラブ

伊藤聿子・家守恭子・福田由利子

22

20

14

10

4

101

96

86

74

72

67

締め切り三〇〇号室・十文字美恵

生む・生まない・生めない

犬伏裕子・和田澄

座談会

親と子——このむずかしい関係——わいふ三一九号合評

稲岡幸子・上木千壽子・神谷紫津子

広瀬理枝・森本邦子・渡辺しほ

運動②

ながら坂越えて・吉原すみえ

女と男

並木勲・たかのようこ・岩田佳子・立花由利

オピニオン

山中宮枝・上野由紀子・芹沢茂登子・田辺佐智子・神山寿子

職場は多面体

岩見高子・近藤美子・吉沢真里子
中松ミナ子・大館美恵子・渡辺みどり

27

生きるが勝ち●無常知りたる

連載③

なま乳房・阿部美砂江

34

サーブレシーブ

匿名・田中慶子・佐藤玲子

43

後ろの正面ス・パイ・日高あき子

子ども中ども大ども

新井祥子・岡井美代子

53

ワンポイント情報

夫の道楽

56

酒井智恵子・花岡由美子・内海庸子・鶴留百合

原眞智子・阿部小枝・阿部史子・加藤君子

大味恵子・荒井照子・高松恭子

108

読んでみました
和田好子・宇野佳子

登校拒否の娘とともに・匿名

110

ブック情報

118

情報コーナー

120

連載⑤

シンガポール

122

との出会い・早川裕子

わいわいガヤガヤ

134

藤輝美・前田道子・広瀬サカエ

下田恵子・藤田みどり・中村道子

サークルだより

140

次号投稿募集

141

投稿規定

142

編集だより

144

表紙イラスト・小沢恵子

イラスト・岡田正子・カステラネンコ・小宅昌枝

角南有加・田井亮子・田沼千恵

西田淑子・堀切潤子・松本圭以子

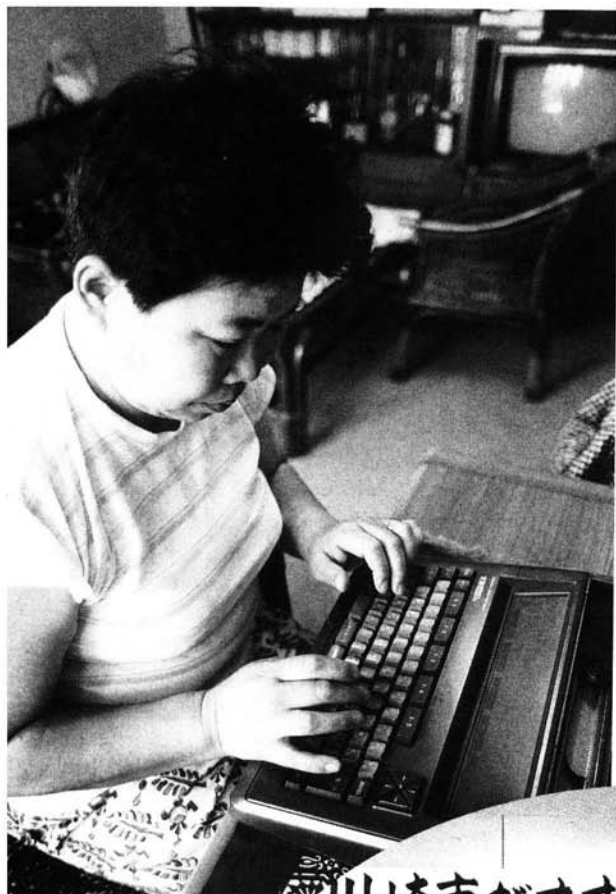
レイアウト・土房はやし A.D. 林佳恵

Writer Information

書・い・て・ま・す・こ・ん・に・ち・は ⑤

神奈川県川崎市 十文字 美恵





昭和十二年生まれの五十二歳、会社員の夫と三人の息子。暴走だ喧嘩だと親を泣かせた長男は、一円の援助も拒否して北海道に渡り、ついに四年連続特待生で大学を卒業する。この徹底したツツパリぶりが「お前そっくり」と夫は笑う。夫は一つ年下のバリバリの現役、そして私の最大の協力者。遅蒔ながら地域の「親父の会」や公民館の講座などにも出向くようになり、家事業、身辺業もしっかり卒業した。書きはじめた動機は、地域での活動を社会に問う意味で、懸賞論文に応募、狙った獲物は必ず射止め、賞金は児童図書や遊具、印刷機械やワープロなどの活動資金になった。

川崎市がすすめている “KIT構想”ってなんだろう？市民フォーラム





現在勤務中の病院

地域のバザー





修学旅行に同行



論文調の文章に飽きて右往左往していたときに、偶然出会った「わいふ」の文章講座が私の求めにぴったり(二〇六号)、以来二一九号まで十回ぐらい書いている。

地域活動二十余年、川崎市役所にはジューミン(住民)ジさんと言う人もいらしい。

三男の高卒を転機にこの春、再就職した週末は二一九号に詳しいが、老人看護に全力投球、今最高に充実している。職場からのレポートに乞うご期待。



読売教育賞を受賞

女性学年報

第10号

〈特集その1—日本の女性学〉

日本の女の20年	上野千鶴子
近代家族と日本文化—日本的母子関係を解き口に	落合恵美子
日本の女性学—その軌跡と課題	国信潤子

〈特集その2—世界の女・男・女性学はいま〉

社会主義経済改革と女のゆくえ	秋山洋子
中国の女性—経済改革のプラスとマイナス	C・ラマール
現代韓国における女性の位置と家族法改正運動	青柳優子
自立・自助・社会的パワーを求めて—ドイツの女たちの闘いの軌跡—	住沢とし子
スウェーデンの男たち—変わる男の役割	善積京子
英国女性学事情	藤枝渥子
フランスの女性学はいま	国領苑子

〈特集その3—自分を語る女たち・エッセイ6編〉

〈論文〉「ひとのみち」の女性政策	日野玲子
少女非行とは？—少女非行研究者の問題点からの考察	長谷川七重
セクシュアリティを語るアメリカ女性作家	渡辺和子
女のからだと医療制度—産婦人科・助産院アンケートを手がかりに—	田間泰子
母性イデオロギー形成試験	矢木公子

他 海外レポート4編、論文研究ノート4編

申込先：日本女性学研究会 日本女性学年報編集委員会
 振込先：日本女性学研究会 振込口座：京都6-14674
 〒612 京都市伏見区向島二ノ丸町1-1-905
 高橋静子 Ⅱ075-601-8431
 定価：1冊 2,000円
 郵送料：実費（10冊以上は当方で負担します。）
 バックナンバーご希望の方も上記にお問い合わせ下さい。



日本女性学研究会
 THE WOMEN'S
 STUDIES SOCIETY OF JAPAN

月刊

ゆたかなくらし

定価 500円(送料51円)
 年間購読料 6,000円(送料612円)
 御購読は直接当会へ御申込み下さい。
 郵便振替・東京9-57278

国民的課題としての老後をともに考える

●各号の特集テーマ●

- 9月号 松寿園惨事から2年
- 10月号 最低基準は最高水準？
—老人ホームにみる国の公的責任のとり方—
- 11月号 老人保健施設のその後
- 12月号 生協と福祉サービス

好評連載

- 消化管の雑字(鈴木陽一)
- 思いつき質問箱
- 居こころ住みこころ(望月彬也)
- 私と天皇制(各界の皆さん)(編集部)
- 情報コーナー

すいせんします

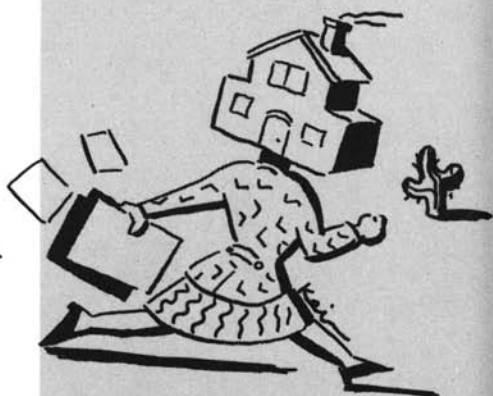
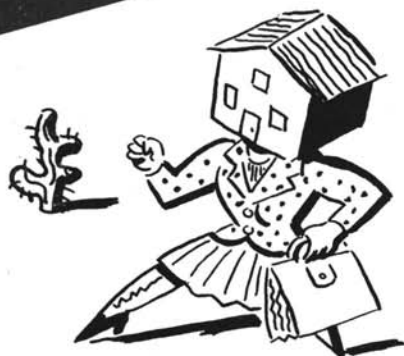
- | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 原田 正二 | 寿岳 章子 | 前田 甲子郎 | 早乙女 勝元 | 山田 洋次 | 木下 恵介 |
| 小川 長 | 真田 浦辺 | 中島 紀恵子 | 善教 | 驚谷 善教 | |
| 政亮 宏 | 是 史 | | | | |

編集・発行 全国老人福祉問題研究会

〒173 東京都板橋区大山東町59-8ドルメン
 大山101号 ☎03(579)8721

家にいて 出来るしごと

●
特集



- — 野口とし子
- — 勝浦恵美子
- — 北川 時子



電算写植 オペレーター

東京都文京区
野口とし子

電算写植のオペレーターになって、今年で九年目になる。機械を買って、在宅でやるようになって七年目。このごろようやく仕事も安定し、精神的にも経済的にもホッと一息というところである。

夫と仕事を手に入れる

私は十代のころから、手に職をつけたいと思っていた。それは、私の父がいわゆる「火宅の人」で、常に経済的不安と、精神的不安に悩まされながら成長してきたせいだからだ。母も口癖のように言っていた。「嫁に行くなら、花嫁道具よりも、技術を持っていけ」と。もし、一生独身でいても困らないように、しっかりと技術を身につけたい。それには、どんな職業が私に向いているだろうか。さまざまな試行錯誤の中で、印刷会社に就職したのは二十八歳のころだ。

全く未経験だったが、幸運なことが二つあった。一つは教育システムがしっかりしている会社だったこと。もう

一つは教育係だったのが現在の夫であること……。

電算写植は、当時まだ新しい分野で、それまで手動機でやっていたものを、コンピュータを使って、よりスピーディーに、大量に処理しようというものである。彼（夫）にいいところを見せようと、私はかなりガンバッタ。無器用な私がなんとかオペレーターになったのも、こんな下心があったせいかもしれない。

ともかく、社内結婚して半年後に、私は二百万円で入力機械を買って、在宅オペレーターになることができた。当時私よりも先に在宅オペレーター（外注）になった先輩が三人いた。皆、かなり優秀な腕を持った人たちだった。一か月の売り上げが三十万円と聞いて、内心、私だって……と期待したのだが――。

四番目に外注になって、明らかに前の三人よりイマイチ劣る私には、あまりいい仕事が回ってこない。それに同じ会社に夫がいるのは、かえってやり

にくいのである。夫の勧めもあり、私は別の会社をさがすことにした。

これが実に大変だった。まず新聞の求人欄や「トラバユ」等を見て、かたはしから電話をすることから始めた。まだ、電算の外注などめずらしい時期だったから、面接に行ってもことわられてしまう。外注に仕事を頼むというシステムができていないせいもある。たまに、外注を使っている会社があった。でも、外注というものに対する評価が非常に低いのである。面と向かって、外注は信用できないという人までいた。とにかく仕事をさせて下さい、それでだめならあきらめます、と頼みこんで仕事を貰った。

外注にもピンからキリまで

電算の外注というのは、印刷会社から原稿をもらい、それを指示どおりに入力して納入する仕事である。当時は紙テープに機械で穴を開けた。私は人に仕事の内容を説明するときには「ワープロをもっと専門的にしたものです」

と言うことにしている。一般的でない電算写植を、いちいち説明してもわかってもらえないからである。

初めての仕事を、細心の注意をして仕上げ届けた。結果は私自身驚くほど好評であった。外注に仕事をだして、一回も手直ししないで校正に回せるなど、初めてなのだという。約束どおりの日時に届けたことにたいしても、相手はびっくりしている。私にとっては「あたりまえ」のことをあたりまえにしているにすぎないのに。後日、他の会社でも「外注でもちゃんとできる人もいるんですね」と言われたのだから、そのころの外注のレベルは推して知るべしである。

後に、外注をしている人たちと知りあったのだが、彼女たちの話を聞いて、なぜ外注に対する評価が低いのかかわる気がした。

私が使っている機械は「写研」のサベベという機械だが、この機械を使いこなす、一人前のオペレーターを育てるのは、かなりコストがかかるのだと

いう。適、不適がはっきりしており、あたりはずれが大きいと夫もいう。だから最初から、何もわからなくてもいい、文字さえひろえればいい、そのかわり安く使える家庭の主婦を、在宅オ



ペレーターとして使っているのだ。能力の足りない分は、社内でカバーしてチェックや直しをする。だから、教育もほんの数時間から数日で、もう仕事を始めさせている。これではいい仕事ができなくても、あたりまえだと思ってしまう。しかし、やっている人たちは、パートに行くよりはいい仕事だし、なによ

り家庭でできる、機械も貸してもらえ
るから元手がかからない、と喜んでい
た。悩みは仕事が不安定であること、
月平均五、六万円、時給にして四、五
百円ぐらいだが、月によってはほとん
ど収入がないこともある。だからとい
って、他の会社から仕事がもらえるほ
ど力があるわけではない。仕事が入る
まで、じっと我慢して待っているしか
ないのである。

私の場合は、月平均二十万円前後、
時給にして二千円〜二千五百円。自前
の機械だし、キャリアも積んで、表組
や数式等なんでもこなすことができた
から当然かな、と内心思うのだが、彼
女らにしてみれば、「同じ仕事をして
いるのに」と不満に感じる点もあろう。
「同じ仕事でも違うんです」というの
は傲慢に聞こえるかもしれない。でも
違うのである。

私は会社にしたとき、入力から校正、
コーディング（原稿を指定どおりに入
力するための設計）、など一通りやる
ことができた。次の工程はどうなるか、

直しがしやすいように、版下がやりや
すいように、ちょっとした気配りをす
る。それが大きいのである。経験をし
なければわからないことはたくさんあ
る。

彼女らと話をしている驚いたことは
多い。「ネコが紙テープにじゃれつい
たので、シワになったところだけ切り
取って、あと貼りつけて出したの」
コンピューターの怖さは、キー一本

打ちまちがえば、めちゃくちゃになっ
てしまうことだ。知らない者の強みと
しかいいようがない。私だったら、全
部打ちなおしただろう。

「仕事が間に合わなくなったから、子
供が熱を出したことにして遅らしても
らった」

これもよく聞く話だ。本当に熱を出
したならともかく、子供をいざという
ときのための「言い訳」に使う。会社
の担当者としては、家庭の主婦だから
と、仕事の量や、易しい仕事、納期の
余裕のある仕事と、考慮して出してい
るのだ。それでもできない。「外注は

あてにできない」といわれても仕方な
い例がたくさんある。

つねに努力を

家庭で行なう仕事は、自己管理がで
きない人には向いていないと思う。家
庭で仕事をしたい人は実に多い。私に
も何人もの人が、仕事の問い合わせを
してきた。そんなとき私は、「ともか
くしっかりと技術を身につけること、
そのためには、会社勤めをしたほうが
いい。家庭にいて技術を向上させるこ
とは並大抵ではないから」

とアドバイスすることになっている。や
る気はあっても向いていなかったり、
せつかく高い機械を買っても、病気に
なって、残ったのはローンだけ、とい
う例も多い。自分に向いているか確か
めるためにも、パートでもいいから会
社へ勤めることを勧めたい。

私も仕事を常に確保するために、数
年おきに、取り引き先へ頼みこんでパ
ートに行かせてもらった。技術や機械
は驚くほどのスピードで進歩している。

家にいてはその流れに乗り遅れてしまふ。ときどき、ビジネスショーにも行って見たりした。

現在の機械は二台め、三百十万円だった。一台めがダメになったわけではない。紙テープ式ではなく、フロピィー式のほうが仕事の能率も、得意先も確保しやすいと判断し、買い替えたのだ。この機械のローンを月十万円払っているときは苦しかった。数社をかけたが、いつも、「今にもプツンしちゃう」な状態だった。

なぜそんなにまで仕事をしたのかというと、仕事を断わるのが怖かったのだ。フリーで仕事をしていると、明日のことはわからない。一週間も仕事があくと、もう永遠に仕事がないのではないかと思ってしまう。だから、仕事が入ると、何でも引き受けてしまうのだ。機械のローンの他に、親にも仕送りをしていた。

そのころ私は自分の収入を、最低月

二十五万円以上と決めていた。そのくらい稼がなければ、外注になった意味がない。常にそれだけの収入を維持するには何社もかけもちするしかなかった。自分の限界に挑戦してみたいという思いもあった。とにかくやれるだけやってみよう。

それに、収入を上げる喜びも大きい。が、仕事をして楽しいのは、いろいろな原稿に直接ふれることができることである。小説や専門的な論文、情報誌の記事。有名中学校入試問題集などは、これをホントに小学生が解くのかしら、私だってよくわからない問題ばかりと思う。自分の好みの読書の範囲外に、知識が自然と広がっていく。自分で打ったものが、本屋で新刊書になっているのを見るのは、嬉しいものだ。仕事をしていることの充実感を感じる。

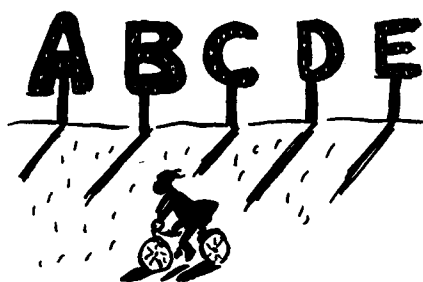
なんとか頑張ることができたのは夫のおかげだとも思う。

夫は仕事先とトラブルがあったり、いきづまったとき、適切なアドバイスをしてくれた。家事も手伝ってくれた

し、夜中に仕事をとどけるときは、車で送ってくれた。ストレスが爆発しそうなときは、お酒を飲みにつれていってくれもした。私の収入が夫の給料を上回ることがあっても、そんなことに動ずるでも、あてにするでもない。「働く女の亭主の鑑ね」と友人たちに言われたが、私には過ぎた人だと心底思う。ガムシヤラに働きとおした数年間を経て、機械のローンも終え、親も年金が入るようになって、一段落。今は、最も安定した仕事が入る一社だけにしている。一日四、五時間、月二十日前後働いて、月収二十万円前後。このぐらいが、私には無理なくやれる範囲だと思う。

このごろは、仕事だけでなく、何か他のこともしたいと思うようになった。子供もできたら生みたいし、いろいろ勉強もしてみたい。「わいふ」の会員になったのも、仕事以外の何かを求めたのである。

今、三十七歳。これからが私の出発のような気もする。



地域の 英語教師

勝浦恵美子

私が「家にいて」九年間続けることができたのは「英語を教える」(個人の英語教室)という仕事でした。一応、高等教育を受けた主婦的情况にある女性にとって、最もありきたりの、手取り早い仕事と言えましょうか。ということとは、「わいふ」の読者であるあなたも、即、始められる仕事かもしれません。ささやかな私の体験とノウハウをお伝えしましょう。

(一)家族対策をどうするか

あなたは、ご主人と小さなお子さんのいらっしゃる専業主婦と仮定しましょう。この仕事は、家族が家でくつろぐ時間帯に働かなければならないのが泣き所なんです。でも、下のお子さんが四歳に達したら、まず踏み切って大丈夫。私は息子が四歳半のときから始めましたが、仕事中、邪魔をしないくらいの聞きわけは十分できました(実は、年が離れて生まれた双子の娘たちが四歳に近づいた現在は、中断後の再開のメドが立っていないのです)。

でも、これは「双子」という特殊性による、と思われれます)。

あなたのご家庭では夕食は六時半? 七時? さしあたり、夕食タイムは仕事を入れないようにスケジュールを組みます。でも、生徒数が増えるに従い、そうも言っていられなくなります。そんなときでも、四歳なら、週一回ぐらい一人(あるいは兄か姉と)で食べさせることもできるでしょう。夫が早く帰れる曜日が決まっていれば、夫と子供が食事をしている時間に仕事を入れることができます。私は仕事を入れていないときでも、次の授業が気になって、夕食を食べる気がしないこともよくありました。そんなときは、食事中心の息子のそばに座ってお茶を飲んだり、話を聞いたりしました。

ちなみに私の場合、息子が小学校一年から二年にかけて週一回、外部の学習塾でも講師として教えていたことがあります。その日の夕食はお弁当箱につめておき、息子はテレビを見ながら一人で食べました。かわいそうって?

今思えば、不用心ではありましたが、本人は格別嫌がりませんでしたよ。これと比べれば、母親が家にいて別室で教えている場合は、ずっと不都合が少ないでしょう？ ほどほどに「逆境」に置かれてみるのも、子供にとって悪くないんじゃないでしょうか。

夫ですって？ こちらは、その氣になれば何でもできる一人前の大人なんですから、妻の手がまわらなくなるのに比例して、自立していくはずですよ。我が家では私がつともとアンチ世話女房だったせいもありますが、夕食の準備が時間切れのためやりかけでも、夫が帰ってきて「続き」を作ってくれるようになりました。

もっとも、ビーフ・カレーを作りにかけておいたら、ビーフ・シチューに仕上がったり、お煮しめを作るつもりが、けんちん汁になったり、ということも再三でしたけどね。

でも、我が家の場合、夫が比較的早く帰宅したので、こう、うまくいったのでしょう。あなたの夫が企業戦士で、

身の回り一切を面倒見てあげなければ、ブッタオレル情況下にあるとしたら、話は別かもしれません。それでも、仕事量をぐっと少なくすれば、できないこともないでしょうけれど。要は、あなたが、なにがなんでも家事、育児、趣味以外のことをしたいかどうか、にかかっています。

(二)仕事量と収入

「主婦」を引きずって仕事をする、勢い生徒の人数も控え目、収入もチョビチョビとなりがちです。が、だからといって、「主婦の片手間」だと卑下する必要は全くありません。なぜなら「塾」では、それに生活がかかっている



ないほうが（営利目的でないほうが）よい指導ができる場合が多いからです。むやみに生徒数や働く時間を増やさないほうが、丁寧で心のこもった指導ができるのです。だから「主婦の片手間」は、いばったものだと思いますよ。ただし、仕事をする単位時間に対しては、正当な報酬（妥当な時間給）をいただくべきです。

私も最初は経験のない仕事でもあり、「主婦だから」と遠慮して、低い報酬で働き始めました。そのとき、夫が言った言葉はこうでした。

「学生のアルバイトより、アンタのほうがずっと月謝を高く取っているんじゃないか？ 学生は、まだ大学を卒業してないのに、アンタは卒業して、教員免状も持っているんだからね」なるほど、

そこで、自信がついたころから、私のいたく分として時間給千五百円は下らないように計算の上、月謝を決めることにしました（今なら、もう少しアップ。ただし、ここは首都圏の外れ

の新興住宅地ですが、月謝は土地柄にもよります。御地の塾講師や家庭教師の時給をご参考に。

小、中、高と、ばらばらの学年を、個人指導から、二、五人のグループ指導まで、さまざまな形態で教えるようになったので、月謝もまちまちでしたが、時給千五百円だけを守って決める、「内容の割に非常に良心的な月謝」に納まりました（例えば、中一の二人のグループは週二回、各一時間で一人六千円）。これはフランチャイズ式の塾と違って、本部に納入する費用がないからこそ、できるんですね。かかる経費も徹々たるものでしたし。

収入面からだけいえば、グループ内の人数が多いほど得ですが、私は最高五人までとして、個人指導に準ずる形で教えました。指導効果が上がってこそ、仕事の喜びがあるのですし、経営上も長い目で見れば、そのほうがいいのではないのでしょうか。

次に、ある年の私のタイム・テーブルを記してみよう。

月	火	水	木	金	土
4 : 30 ↓ 5 : 30 A	10 : 30 ↓ AM 12 : 00 D	5 : 30 ↓ 7 : 00 F	5 : 00 ↓ 6 : 00 H	4 : 30 ↓ 5 : 30 I	2 : 15 ↓ 4 : 00 H
5 : 50 ↓ 6 : 30 B	7 : 15 ↓ 8 : 15 E	7 : 15 ↓ 8 : 15 G	6 : 45 ↓ 8 : 15 C	5 : 30 ↓ 6 : 10 J	4 : 00 ↓ 5 : 00 L
6 : 45 ↓ 8 : 15 C				6 : 10 ↓ 6 : 50 K	7 : 15 ↓ 8 : 15 E
				7 : 15 ↓ 8 : 15 G	
A…小6, 2人 B…小6, 1人 C…中2, 4人 D…公民館 E…中1, 2人 F…高1, 3人 G…中3, 2人 H…小5, 1人 I…小4, 1人 J…小5, 1人 K…小6, 1人 L…中2, 1人					

これだけ働いて（公民館の成人向英語講座の講師料を加えても）十二万円の収入ですから、良心的な月謝すぎたかな、と思わないでもありません。それよりも強調したいのは、このタイム・テーブルのような週六日べったり仕事というスケジュールはぜひ、避けたほうが良いということです。最高

でも週五日、できれば週四日以内の仕事にしたいでしょう。ということは、一日の仕事量を増やして、六日分を四日に押し込められればよし、それが不可能なら、仕事量を減らしても、ということですね。

専業主婦の延長線上で仕事をしようと思えば、家族と過ごす日や遠くへ外

出できる日、家事の手を抜かない日や
テニスの日などがあつたほうが、結局、
長続きできると思いますよ。なにしろ、
仕事は夕方から何時間でもないとはい
え、その日は「他のこと」は、おちお
ちしていられませんか。私の場合、
この時間割のころは、仕事を重荷に感
じる日もあつた、と思います。

(三)生徒を募集するには

募集のチラシの印刷まで本部に面倒
を見てただけるフランチャイズ式の
塾と違い、個人の教室を開こうとする
あなたは、自力で生徒を集めなくては
なりません。でも逆に言えば、たった
一人の生徒でスタートできるという利
点があります。最初の生徒に対する指
導効果こそが、最も確かな宣伝になる
のです。私は意図せず、結果として、
この方法をとつたことになりました。
そのころは中層の団地に住んでいた
ので、管理事務所です許可を得て、団地
の掲示板の二、三か所に手書きのポス
ターを張らせていただきました。画用

紙一枚の大きさです。出身校英文科卒、
教員免許状あり、の他に、「在米一年
余の経験あり」と書き添えることも忘
れませんでした。あなたも数週間でも
ホーム・ステイの経験などあれば、「短
期留学」と書いてみてはいかが？

ポスターを一回に二週間ぐらいいしか
張れない規則の場合、反応がなくても
諦めてはいけません。私は時期をずら
して、二、三回張り、友人にも声をか
けておきました。そのうち、きつと問



い合わせの電話がかかりますよ。その
ときが勝負！ 電話をいただいたから
には、ぜひとも生徒第一号として獲得
してください。あらはじめ、どう受け
答えし、どう自信を持って売り込むか

考えておくといいですね。月謝は必ず
聞かれます。

私の場合がそうでしたが、運よく、
第一号の生徒が素質のよい子で、短い
間に成績でも上がれば、もう口コミだ
けで次々、教えてくださいたのまれ
ます。無論、精一杯の指導をするので
す。そのためには、最初から何人も集
まらないほうが、むしろ、いいのです
ね、こう考えると「募集」の不安はほ
とんどなくなつたでしょう？

(四)効果の上がる指導法

マニュアルのない個人の教室では、
独自の指導法を考案する苦しさと思し
さがあります。でも、最初からむづか
しく考えることは、ちつともありませ
ん。試行錯誤で誠実に教えているうち、
最も効率的な方法が自然と見つかりま
すから。もし、あなたが、いわゆる「学
校英語」に疑問と反発を持ち、もっと
実用的な英語を教えたいと思うなら、
その方向でいくのもいいでしょう。そ
の場合も、生徒が学校で「いい成績」

をとれるような配慮を忘れてはいけません。生徒たちに自信をつけさせるためにも、スポンサー（生徒の父母）の一番の関心に応えるためにも。

私の場合は、得手とするのが「学校英語」だったものですから、これを中心に教えました。実用、実用といいますが、なかに、学校英語だって捨てたものじゃないんですよ。

誰もが英語の専門誌を速読できたり、ネイティブ・スピーカーとまちがえられるように話したりできる必要はないでしょう？ 流暢ではないが友人として話し合え、簡単な手紙の返事ぐらいは、辞書なし、下書きなしで書ける。この程度の実用英語なら、高校の英語に、ちよっぴり独学を加えれば十分ですよね。実は私の英語力も、ここだけの話、せいぜいこんなものなのですが、身近にいる「英語の達人」たちに聞いてみても、「学校英語が基礎になった」という答えです。

というわけで、「捨てたものじゃない学校英語」を生徒たちに身につけさせ

るため、私はオーソドックスな指導法に徹しました。抜群の英語力はなくとも、抜群の（？）塾教師にはなれた、私の教え方には二本の柱があり、一つは「教科書の徹底暗記」。

中学生では「基本本文」を特に重視します。文法的に理解したものを暗記、また理解して暗記の繰り返し返す。高校になると、試験範囲の全文を暗記するのはなかなか大変。でも、それをしてあると試験でいかに有利かがわかってるので、生徒たちは嫌がりませんでした。

入学試験や実生活で、その通りの文章にいき当たるわけもなし、リーダーの丸暗記なんて意味がないと反論なさいます？ ところが、暗記する過程で、



わいふ原稿整理方針

◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。

◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きに直しています。又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 事↓こと 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで etc

◆送りがなについては、一応次のような方向で統一しています。

例 変（わ）る↓変わる 浮（か）ぶ↓浮かぶ 話（し）合う↓話し合う 気持（ち）↓気持ち 行（な）う↓行なう 表（わ）す↓表わす

◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

◆ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお願い致します。

無意識に文法や文章の構造などを復習しているのです、これはとても応用のきく勉強なのです。週二回の教室では宿題の暗記をこなさきれない生徒もいます。そういう生徒には別の日に、ちょこっとした時間をとっては（次のグループが始まる前の五分間とか）玄関で立ったまま暗誦させたり、いよいよ間にあわなければ電話で聞いてあげたりもしました。

私の指導法の、もう一本の柱は「和文英訳」とにかく、和文英訳というのは最もむづかしい。その試験範囲の、あらゆることが身についてからでない、できませんよ。その一番むづかしいことをしておけば、試験は易しく感じます。

一つの英訳を疑問文に、否定文に変えてみる。主語や時制を変え、単数、複数を入れ替える。あらゆるトレーニングを、二十題、三十題の和文英訳に取り入れ、結果として、試験範囲の総復習になるようにします。正解になるまで何度でもノートをつき返されなが



ら、生徒たちはゲームを楽しむ感覚でいるようでした。私にとっても、これは緊張感溢れる知的ゲーム。あらかじめ問題を作っておくではありません。生徒たちの反応や、まちがえ方を見ながら、より効率のいい練習となるべく、即席で問題を作り、与えていきます。専門主婦でいる限り、味わうことの少ない「集中」の醍醐味でした。

このような勉強のかいあって、学校で「いい成績」をおさめられると、生徒たちは「英語がわかってきた」「英語が好き」という気持ちになるんですね。たあいまいようですが、こうなると、しめたもの。あとは大学入試であれ、実用英語であれ、必要に応じた勉強次第。基礎力をつけてあげるまでが、私の力量に合った私の使命なのでした。あなたも、あなたならではの、教室を、どうか、焦らずに。

ご投稿のさい、次のことにご注意下さい。

●住所変更や本のご注文など、事務連絡を原稿末尾に書いたり、びんせんに書いたものを同封することは間違いが起ります。ちです。

編集部では原稿と思って扱うので、見落したり、封筒に残って発見されなかったりします。何度か例がありますので、別便になさるか、同封の場合は表書きに「事務連絡同封」と赤ペンでお書き下さい。

●原稿用紙を二つ折にし、製本のように重ねて、ホチキスで二〜四か所もとじてくる方があります。二つ折ですと整理、割り付けが困難です。ホチキスを大苦心ではずして、開かなければなりません。原稿用紙は開いたまま、右肩一か所をホチキスなどで止めていたと助かります。●投稿のさいはまず投稿規定をよくお読み下さい。



ポップライター

大阪市住吉区

北川 時子(41歳)

ポップライターなる仕事を始めて、一年半たちました。これならもっと早く始められたのと思っています。

スーパーや専門店の軽い宣伝文句や簡単なイラストを描く仕事です。

メニューやチラシ、いろいろありますが、今のところ、近所の印刷屋さんでチラシの下請けをしています。歩いて五分の所なので、仕事の受け渡しに不自由は感じません。

週に三日働いて、三日自分のために使うというのが理想ですが、もう少し仕事をしているかな。

収入は一時間あたり、千円〜二千円ぐらい。その場限りの仕事、神経を使う仕事は、もっと高く頂きます。

仕事は台所のテーブルで、道具は、製図版、マーカー数本、ポスターカラー、ふでといったところ。食事時にはサッとひける小世帯です。

仕事を今のところ、小さいのを選んでいますが、もっと手を広げることも可能だと思います。

この仕事のおもしろくて、つらいと

ころ、それは立ち止まっていけないことです。ある程度描けるようになるのに、半年ぐらいでも格好はつくのですが、続けるのにはそのあとです。次から次へと新しいデザイン文字が生まれ、おまけに昨日描いた自分の文字が、今日は下手に見える。

十分に気に入っている仕事なのですが、現在に至るまでに、ひとつのきっかけがありました。数年前に、大阪で催された「わいふ」の「集まれ、書きたい女達」に出席したことです。

みんなキラキラ輝く、熱い心のおんな達の集まりでした。オーバーに言えば、結婚してからはじめて、母親としてではなく、おんなとしての私があそこに座っていました。

書きたいおんな達の集まりだったのに、何故か、私は行動したいおんなとして、あの日、働きたいと願ったのです。

行動を開始するにあたって、まず目標を決めました。

一、子供が帰ったとき、休みのとき、

家に居られること

一、仕事に楽しみがあること

一、キャリアを積んで、それが活かせること

一、できれば平均的な収入はとれること

以上、ずいぶん虫のいい話なのに、まずまず希望は満たされています。

あとは行動あるのみなのですが、まず、

行動その(一)

ポップライター養成所を見つけたこと。二十年も昔にデザインの勉強をしたことがあり、夫が看板屋をしているので、多少なりとも恩恵にあずかるかなとの下心つきにて。

運良く素晴らしい先生にめぐまれました。大阪・梅田の造形センターというところです。ここは別に機会をつくって書いてみたいほど、素晴らしいところでした。

行動その(二)

名刺を作って仕事探し。

近所のスーパーに売り込んだら、二

つ返事で引き受けてくれたので、半年ほど、パートで通いました。

仕事の基本はそこで学んだといっているくらい。さすがスーパーでした。

行動その(三)

大手のスーパーだったので、あそこの仕事をしていたら売り込めば、仕事はけっこうありました。

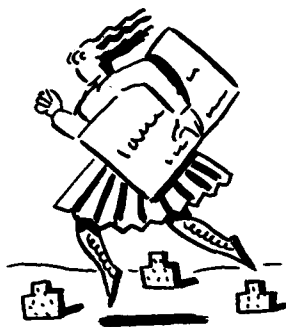
そのうち、たまたま入った喫茶店に置いてきた名刺が縁で、今の仕事を得ました。

定期的に仕事があるので、今は売り込みは致しておりません。

私は何とも思わなかったのですが、夫はじめ友人達は、いきなりスーパーに電話したり、あっちこっちのお店に名刺を置いてくるのが大胆かつあつかましく思えたようです。

今、下の娘が小四。あと数年はこの形を保ち、彼女が私を、そんなに必要としなくなったときに、おくれればせながら、もうひとあがきしてみたいと思っています。

でも、どうしてお母さんばかりが、仕事をするにも、趣味に生きるにも、家族の都合をまず考えなければいけないのでしょうか。



ハンディを一人で乗り越えて自立するのがたくましいおんななのでしょうか。

それとも男達を根気よく説得するとか、ハンパな男は蹴飛ばしてしまったりするのが、たくましいおんななのでしょうか。

仕事を続けていく上でも、次はこのテーマで、じっくり悩んでみたいと思います。

(え・松本圭以子)

ある結婚式

埼玉県新座市

伊藤 隼子

緊張で怒ったように見える父親と、少し照れた顔の娘がバージンロードの端に立っている。

パイプオルガンの演奏が重々しく始まる。ざわめきが止む。代わってカメラのフラッシュのシャワー。二人がゆっくりと祭壇のほうへ進む。心なしか、父親の足取りのほうが遅い。スカートの所々がキラキラと光る。長い長いベールが裾をひく。叔母である私の目に盛り上がってくるものがある。ここは、私の卒業した学校の付属教会。ステン

ドグラスからもれる光、黄色っぽい木の長椅子、聖水盤、マリア様、どれもどれもなつかしい。なつかしさと、今日の感激が、ないまぜになってわたしの心をゆさぶる。

私は気持ちを静めるべくシャッターを切る。冷静に冷静にと。

隣にいる私の父母（花嫁の祖父母）は、もうハンカチを取り出している。私の涙腺が弱いのは、どうも遺伝らしい。

祭壇に着いた父親は、そこで待っていた花婿に花嫁をゆっくりと手渡す。二人並んで壇上へ。声をあわせての誓いの言葉、指輪の交換、神父さまのお話、神への感謝の祈り、女性ソロによる美しい聖歌そして合唱。夢見ごこちの三十分余り。式は終わった。

さて、教会の前で記念撮影。

写真屋さんの「親族だけ集まって下さい」との声にゾロゾロと歩を進め、準備された台にのる。風が少しある。花嫁のヴェールが舞い立つ。写真屋さんが丸めて彼女の後ろへつつこむ。

無造作に「はい、前の人の間にはいって」と、声を掛け、並んでいる人々を少しなおした後、ハ



イ、パチリ。

花嫁、花婿の衣裳をなおすこともない。母親たちの衿もとをなおすこともない。

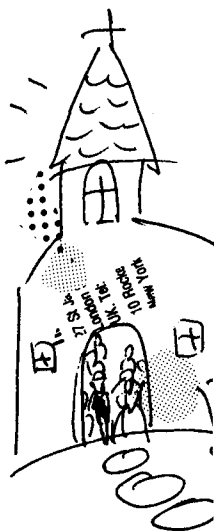
その間友人、知人、近所の人々が遠巻きに二人に声をかける。二人がそれに応える。両親が、その人々に頭をさげる。姪や甥が、周りの人々に手を振る。側にいた小さい子が、チョロチョロと入りこんでくる。ワイワイガヤガヤの写真撮影。

そして友人たちは、二次会の支度。私達親族は、車で五、六分の割烹へ。

何と花嫁は、花婿の運転する小さな車で行くという。助手席に彼女自身は乗ることができたものの、スカートが入らない。ムリヤリ押し込んで運転席は真っ白。中が白く盛り上がっている。そのまま車は走り去った。

それぞれ支度されたタクシーで会場に着く。二人と、お店の人たちが入り口で出迎えてくれた。こじんまりした和室に上座に両親四人の席、下座に彼ら二人の席、その間に二列親族の席があった。席にはワイプロで打った二人の自己紹介が、封筒に入っておかれている。

やがて宴が始まり、花婿が「今日は、私達のためにお越しいただいて有難うございました。皆様と、両親に感謝し両家をお引き合わせする会です。



どうぞおくつろぎ下さい」と、挨拶した。彼自身による乾杯の後、証人と親族が紹介された。新郎方は新郎が、新婦方は新婦が受け持った。一言言う人、よろしくと、頭を下げるだけの人、それだけであった。

食事が次々と運ばれるころ、花嫁は自前のドレスに着替えていた。

本人を知らない父親の友人だの、〇〇会社の専務取締役だの市会議員だのもいない。代わりに会場のなかを跳ね回る甥や姪が、いっぱいいる。二人の間に座り込み、将来の練習とばかり食べさせてもらっているチャッカリもいる。

二人が一人一人に小さな花束をお礼の気持ちをこめて配って回った。終わりに近づくころ彼の父親から挨拶があり、お開きとなった。

相合傘もケーキカットも司会者すらいな披露宴だった。ぎこちないこともあったけれど、二人の一生懸命さがとてもよくみえた宴だった。力をあわせて船出してゆく様が心に残る宴だった。

若い二人にもう一度「おめでとう」といいたい。

赤い自転車

大阪市鶴見区 家守 恭子(59歳)

満二歳の誕生日を数日後にひかえた孫が、その父親の運転する車の窓から「バイバイ」と手を振って走り去り、もう七年になる。

以来一度も逢っていない。

孫の両親が別れるに至った直接の原因は、母親の病気であり、遠因は父親の経済のゆきづまりと言えよう。

孫が生まれたとき、勧められて孫名義の生命保険に加入した。学齢になると祝い金を受け取れるし、二十歳の満期には嫁入り支度の足しにもなろうか等々……外孫ではあるが、初孫への思いは篤かった。

孫は両親の離婚にともない、S市に住む父方の祖父母に預けられ、その後T町に引っ越したのも、風の便りで知り得た程度である。

保険料を年毎に掛けながら、孫はT町の小学校に通っているのか、父親と新しい母親と暮らしているのか、確とした生存の証拠もない空しさに、梅雨明けの一日、一片のメモを頼りに夫と車を走

らせた。

海に沿った国道の、隣県境の手前、連なる山の一峯に私鉄の名を冠した住宅が造成されている。わりに緑がすくなく、等区画の家々の中から探し当てるのはいささか難渋した。休日の昼下がり、人通りはほとんどなく、商店も店を閉ざしコイン販売機が突っ立っている。

とある角から三軒目、孫の祖父の表札を見つけた。柵の門扉越しに小型乗用車、塀にもたせた赤い自転車、玄関も二階の窓も閉まっている。

夫と二人、一瞥しそそくさと後戻りして角を曲がった。

角のお宅に子供靴が裏向きに干してあるのを幸いに、おとなうてみた。若い婦人は、

「お祖父さんとお祖母さんと、小学生の女のお孫さんが暮らしておられ、この春ごろお祖父さんが病気になられ、息子さんでしょうか、最近はよく来てるようです」

「その息子さんは奥さんと一緒に？」

「いつもお一人でお連れは見かけませんねえ。もともと、私のお見受けした限りですが」

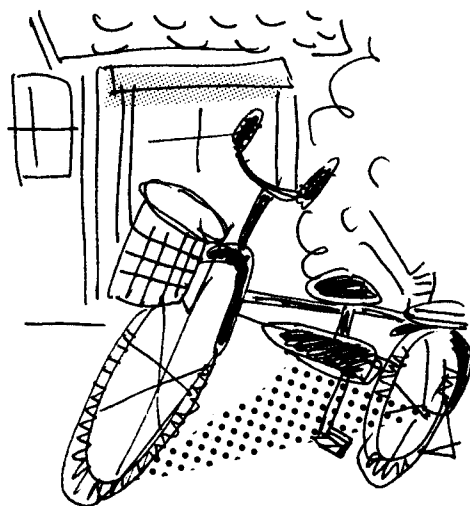
礼を述べて車の所まで引き返すのに、案外遠く歩いていたのに驚いた。

一息入れて、今度は車でもう一度その家の前を

ゆっくり徐行したが、静かなたたずまいは先程と変わらなかった。

たった今得た情報をもとに、推測や想像が働き、孫が健やかに育っているのを確かめた二人は珍しく饒舌になる。

「赤い自転車あったけど、お祖母さん乗るのかし



ら

「いや、M子（孫）だろう」

「大人用に見えたわ、まだ四年生よ」

「M子は大きいし、運動神経もいいぞ」

「見たようなこと言って」

運転する夫のバックミラーに写る目は、心なしかうるんで見えた。

ニシ・シツカ・シタダミ

東京都武蔵野市

福田由利子（72歳）

「^{はな}華のお江戸」と大人たちの言う東京に、ちょっとしたでもいい、住んでみたいと少女のころから私は思ってきた。

昭和三十三年春、夫の東京転勤がきまったとき、うれしさで胸が躍った。高円寺の社宅に落ちつき、すべてに満足したと言いたところだったが、一つだけ不満があった。それは海の遠いことだった。八つの年から三十二年間、下関や北九州市の戸畑で、海近く潮騒を聞いて暮らしてきた私には、海が間近に見えないことがとても心淋しかった。

昭和八年ごろ、西條八十が下関を訪れ、「関門小唄」を作詞した。曲は誰だったか忘れたが、私はいち早くこの唄を覚え、禁じられている学校の教室でそっと友達に披露したものだ。その中の一節に、

「おどの夜焚は朝まで燃える。」

燃えて赤間の平家がに……」

というのがあった。「おど」とは土地の人が「おどの迫門（瀬戸）と呼ぶ下関竹崎と彦島海ノ郷との間のその意の通りせまい海峡で、引き潮のときの海鳴りの響きはすごかった。潮が引くと信じられないほどの大小さまざまの岩礁が現われる。大人でもよじ登れないような巨岩もあった。そんな岩岩に吸い付いている「ニシ」を採るのが小学校のころの遊びであり楽しみであった。

「ニシ」はさざえのひ孫ぐらいの大ききの巻き貝で、茹でて針の先でくるりと身をつつき出して食べる、自然の塩味が実においしい。東京では高円寺、東中野、国分寺と住んだが、どの町の魚屋にも、また吉祥寺でも、ニシに巡りあえず、も一度会いたいものだと思った。

六年前の夏の終わり、初めて伊豆の下田に遊んだ。宿は下田の一つ手前の河津にとった。河津の海岸に近い市場の中を回っていて、なんとその市場の隅の小さな魚屋さんに「ニシ」が大籠に盛られてあるではないか。

「あっ、ニシだ、ニシだ、たしかにこれニシよね」と思わず大きな声で独り言を言った。（絶えて久しいご対面）とこれは口の中、所変わればということもある。この辺ではなんと言うのかしらと尋

ねると、魚屋のおばさんの、

「シッタカ」

「は？……」

「シッタカ」と、いともそっけない返事が二度かえてきた。

「『シッタカ』ですか、どうもありがとうございます」礼心に竹輪を二本買った。宿へ戻る夕暮れの坂道に人氣のないのを幸い、竹輪の入った袋を振り振り「シッタカだったって今聞いたばかりなのに、シッテルはずないでしょう」と大いに与太りながら歩いた。そしてふと「ニシ」という貝は万葉集に「シタダミ」と出ていると聞いたことを思い出した。家に帰り、「シタダミ、シタダミ」とシタダミ

探しをはじめて二日目、やっと見つけることができた。万葉集、卷第十六・三三八〇。

「あった、あった。ニシ、シッタカ、シタダミ、三つ揃った、そろった」探しあてたうれしさに、膝の猫を左手に抱きかかえ、右手に重い土屋文明の万葉集私注をもって、

「所聞多彌乃、机之島能、小螺乎、伊拾持来而、石以、都追伎破夫利、早川爾、洗濯……」と、この舌をかみそうな古代北陸の民謡を、くり返し朗読ながら部屋の中をあるいた。

（え・カステラネンコ）

職場は多面体

四十代がなぜ悪い？

大阪府高石市

岩見 高子（40歳）

私は近くの開業医に勤めている。二十代の人、二人と私とで仕事をしていたが、一番若い人が辞めることになった。この医院は欠員がでるといつも近くのある短大の先生にお願いして次の方を紹介してもらっている。五月なので卒業生に適当な方がいなかった。「今回は主婦の方だけいいかしら。年齢は三十代後半くらいだと思うんだけど」と、短大の先生から連絡があったそうだ。先生も奥さんも若い人を望んでおられたようだが、一度会ってみましようということになった。

面接の当日短大の先生と本人が来られた。御本人は感じのよい方であったが、履歴書には年齢四十五歳となっていた。四十五歳と知って先生も奥さんも気を悪くしたようだ。新しい方が来られたら仕事の説明をし、医院の中を案内して回る先生は、何も話さず席をはずしてしまっ

たそうだ。奥さんは掃除のことを強調して「責任を持って掃除をして下さい」ときつく言われたという。そして本人が帰ってから、短大の先生に「もう少し若い方いらっしやらないかしら」と、言っていたという。

結局この方は採用され、今一緒に仕事をしている。「面接の日感じ悪かったよ、この医院。掃除婦として採用されたみたい」と言っている。

この医院の患者さんはお年寄りが多い。四十代の私達は子育ての忙しい時期を終え、時間の余裕がある。また自分の親に接するようにお年寄りにも接することができる。若い人には劣ることはないと思う。若い人より細かい点によく気がつくとも思う。雇用者はなぜ「若い人」を採用したがるのだろう。

ついでに私も一言奥さんから言われた。「岩見さん、新しい方も来られたし、これから受付に座るのは若い子にまかせてね。あなたたちはお薬を入れたり、レントゲンの現像をしたり裏方に回ってね」。ああ、腹が立つ。



航空雑誌の読者

千葉県松戸市

近藤 美子

青函連絡船が開通したときに、トンネルの中から初めて姿を現わす電車を写真に撮ろうと、カメラを構えている鉄道ファンの姿を見た人もいるだろう。同じような飛行機ファンもいて、これが結構おもしろいので紹介しよう。

私は今、航空雑誌の編集部にいる。おもに飛行機大好き少年たちのための雑誌で、飛行機に関するいろいろな情報や写真掲載している。

飛行機ファンというより、飛行機マニアになると本当に飛行機について詳しいし、よく飛行機を見に空港へ行ったりするのだ。

七月二十二日の日曜日、国内航空会社の国内新路線がいくつか開設された。私も取材でJALの東京―函館路線にフライト・レポートのため乗り込んだ。もちろん日帰り。朝一番のフライトに乗り込

んで、折り返しの便で帰るというパターン。函館にいるのは一時間あまりしかない。しかし、なんとこの折り返し日帰りフライトに同じお客さんが乗っていたのだ。これがまさしく、初便マニアと呼ばれる人々。なんといっても初便が大好きな人達だ。

私の場合は取材なので、航空運賃はフリーだが、彼等は往復とも自腹をきっての旅行だからかなりの金額になるに違いない。ただ飛行機に乗ることが好きなのである。

好きなことにはいくらかお金をかけても構わないというのは、かつて私も経験したことがあるので、彼等の気持ちがわからないでもない。しかし、それにしてもすごいなあ、と感心してしまう。

飛行機は、『目的地まで速く運んでくれる単なる乗り物』として見てきた私は、考え方を大きく変えないといまの仕事はできない。

また、チャーターでめずらしい飛行機が来るとわざわざ見に行ったり、飛行機の写真を集めたりと、結構熱心なタイプ

の少年達が多い。昔に比べ、さまざまな飛行機が見られるようになった今日。彼等にとって楽しい雑誌を作っていきたいと思う。

働くとは生きること

千葉県東葛飾郡

吉沢真里子

「うーん三十六歳ね。子供さんは高一と中一か。三十六歳にしてはずいぶん大きな子供がいるんだね」

小太りでちょっとふうさいのあがらない、言葉も不明瞭なこの人は、私の履歴書を見るなりこう言った。

平成元年五月八日、松戸の職安に行き、このT社を選んだ私は、すぐその足で面接に向かった。

私が会社を選ぶ条件としては、一、自宅からの通勤時間が一時間以内、二、できれば九時〜五時。三、土曜日は隔週で休めること。

職安にファイルしてあるたくさんの資料の中には、この三つの条件を備えてい

る会社はT社以外なかった。

「はい。わりと早く結婚したものですから」私はその人の目を見てはつきり言った。

「今まではどんな仕事をしていましたか」

「はい。柏市の市役所で税金と水道関係の事務補助を一年半ほどしております」

「この仕事は正社員ですけど大丈夫ですか」彼は不安そうに私の顔を見た。

一瞬夫の顔が浮かんだ。夫には何の相談もしていない。

「大丈夫です。何とかがんばります。一生懸命努力します」無我夢中で私は答えた。

「こちらはおかしいですね。お宅の都合の良い日から来てください」

「あのーじゃあ採用ということですか」「そうですよ」

あんまりあつてなく決まってしまう私は急に不安になった。たったこれだけの問答で、たった一枚の紙きれを見て、こんなに簡単に社員の仕事が決まってしまうのだろうか。でも決まったんだ。

明日から正社員だ。



私はわりと行動力があるし、いざというときの決断力も相当ある人間である。

ところが肝心のものを判断する力に欠けている。このことは、一昨年、車の免許を取得したときの性格診断テストでもはつきり認められた。

渋い顔の夫を横目で見、次の日からいそいそとお弁当を作り、正社員、正社員とつぶやきながらT社へ通い始めた。

T社は本社が池袋にあり、駅の売店やファミリーマートに新聞や週刊誌、月刊誌などを配送している会社である。

春日部や荻窪など、たくさんさんの営業所をかかえている。その一つが我が柏営業所である。

場所は常盤線、柏駅から徒歩九分。私の家からは三十分ちょっとである。

隣には大きな教会があり、まん前がプールも備えた市民公園、緑も多く、何より窓が広いので明るくて実にいい。

事務員は六人いて、経理が二人、新聞担当二人、月刊誌一人、週刊誌一人である。

私はその週刊誌を担当することになった。

た。

朝、八時半ごろから機械に入力する作業がある。三日先の雑誌を、約百五十の店に配置するのである。月曜日は少年ジャンプ、火曜日はアサヒ芸能や週刊女性、そして水曜日はマガジンとサンデー……。週刊誌は種類が多くて覚えるのが一苦労。

売れる店は配置数を増やし、売れ残る品物はもちろん減らさなければならぬ。簡単なようだが、これが実にむずかしい。週刊誌や漫画本を買うのは学生が多いせいか、春休みや夏休みはぐんと売り上げが減るし、天候によっても売れ方に違いが出る。

配置の仕事が終わると前日の伝票整理がある。各店から返品伝票が届くと、それをチェックし、別の機械に入力する。これがだいたい一時間から二時間。伝票の山と格闘するわけである。

午後からは納品伝票を機械から出し、伝票の耳を切り順序よくそろえておく。

機械に入力する作業が一日三、四時間

はあるだろうか。機械オンチを何とか克服し、機械が大好きになった私には向いている仕事ではなからうか。

「ゴルフ関係の本を増やして欲しい」とか「ジャンプをたくさん配置して欲しい」とか注文の多い店もあり、てんでこ舞いの状態である。たまにこちらのミスで伝票の数と納品数が合わないことも、電話でとなりつけられたりもする。

私が朝、機械に打ち込んだものが伝票になり、その伝票を見て現場の男の人達が埼玉から雑誌を運んできて、お店ごとに分け、車で配送するのだから責任重大である。

しかし私にとって大切な、かけがえのない仕事があるということは、毎日をこなすにも楽しく心豊かにしてくれるものだろうか。

朝、目覚めて「さあ今日もやるぞ」と気持ちよく起きられる幸福。

細かい計算がピッタリ合ったときうれしさ。「本が売れて、売れて」と売店のおばさんに喜ばれたときの充実感。

健康で働ける喜びを毎日誰に感謝した

ら良いのだろうか。

会社から依頼されて駅の売店で売り子をしている人達が十人ほどいるのだが、この人達がとにかく傑作なのである。

約一週間に一回、売り上げ金を持って会社に戻ってきて、世間話をして帰っていく人達である。

愛想が良くて貯金通帳とありったけの現金を始終持ち歩き、「売り上げがいいから今夜は二万円飲むぞ」と笑うAさん。百五十センチぐらいで六十七キロ、ちよつと太めだけれど社交ダンスを習っているBさん。

「孫がかわいくてかわいくて」と小学生の孫を連れて歩くCさん。

ちよつとがめついDさん。

勤続三十年、表彰状を宝物にしているEさん。みんな七十をとくに過ぎたおばあちゃんなのだ。

朝四時に起き五時ごろ家を出て、三十分ぐらいで開店準備をして六時から十時まで働くしつかり者達。

「Aさんに彼氏がいてね。その人がまたきれいな人なんだよ。Aさんにはもった

いないよ」Aさんが帰ったあとのBさんの話。売り上げ金の十円玉や百円玉を机の上に並べながら、おしゃべりなBさんは話し始めると止まらない。

「たまにおつりを間違えて多く渡すと、次の日『おつり多かったよ、おばさん』ってわざわざ届けてくれる人もいるし、世の中捨てたもんじゃない。ありがたいよ……」

彼女は特に売り子さんの中でもユニークで、いつもショッピングカーを押しながら通ってくる。新聞を読んでいるせいか、社会の動きに実に敏感な人である。

人間ていいな。好きだな。細かい計算をしながら私はそんな彼女達の話にきき耳を立てる。

私も一生懸命働いて、七十まで働いて、本当におもしろおかしく生きてみたい。このやさしい先輩達を見てみると、不思議なくらい体の底から勇氣がわいてくる。よし働くぞ。私には何より三十代という若さと丈夫な体があるんだもの。生きていく限り働くぞ。今の今、私はそう願っている。

すし屋のグチ

大阪府豊中市

中松ミナ子（53歳）

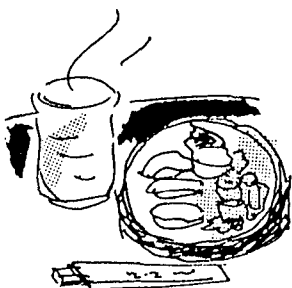
我が家のような小さなすし屋は人サマが休暇をのんびりされる時が「書き入れ時」なのだ。

この夏もお盆は忙しく、そんなある日の閉店間際に受話器を取った嫁はしきりに謝りはじめた。息子が内容を察して「すぐに伺います」と取るものも取りあえず飛び出して行った。

実は二日前、出前をしたM家でお釣りの五百円を用意せずに行き、代金は皿寄せのときに頂くと辞退したが中学生の息子さんは「ポストへ入れといて下さい」と言い、借りて帰ったのだが、翌日M家の前を通りかかった店の従業員は、表に出ているすし皿を持ち帰ったのだ。Mさんは「昨日一日中待ったけれど五百円返しに来ず、すし皿は知らぬ間に持ち帰っている、一体どういう商売をしているの？ 商売人は一円にも領収書を書くのが

基本である！」と怒り狂っているのだ。

息子は店の者へ伝えてなかったのが悪いのですと平謝りすると「あんた店の何？ アルバイト？」と詰問され「息子です」と答えると、やや表情を柔らげて「またおすし取るのだから気を付けて下さい！」とようやく解放されたという。珍らしく顔面青白にひきつった面持ち



で帰宅した息子は、よほど口惜しかったのか「もうあの家の注文は断ったほうがいい」と言い出した。これには夫はじめ店中が、吹けば飛ぶような商売人にも、あまり踏みつけにされたら牙をむくのだ！と思いいいにM家をののしってせめてもの溜飲を下げた。

しかし閉店後、息子が父親に話す言葉

に私は目からウロコが落ちるようにハッとしました。「さっきは胃が痛くなるほど口惜しかったが、よく考えると僕の手落がなければ怒られることもなかった。こんなことで得意先を一軒失うなんてバカらしい。客の言い分にいちいち腹を立てるのは自分の首をしめるに等しいことやと思う」

父親の表情がバツと明るくなった。「お前えらいなアーその通りや、俺よりえらい！」とうなっている。

元来、夫の性格は激しいが息子は正反対で温和である。夫から見れば齒がゆい性格なのだが、M家の一件は夫も息子に一本取られたようだ。

リゾートホテルの客室掃除

神奈川県横須賀市

大舘美恵子

トラバリーユして七か月が経った。今度の仕事はリゾートホテルのベッドメーカーング、いわゆる客室掃除である。

去年の十月末に採用が決定していたの

だが、前のスパーと情の部分で退職が長びき、十二月末までとなっていました。四人採用に対し、私だけ話し合いで今年一月から入社となった。さすが大会社は違おうし、手応え充分と思ったら、この業界で最も忙しい時期に出社できないのなら、「こなくていい！」という仲間の声もあったそう。しかし、採用してくれたのは部長であり、必要なのは会社なのだから、何を言われても我慢我慢。

朝九時から夕方四時までの勤務。週休三日ぐらい（一か月十二日）。通勤時間バイクで五分。疲れたときに見る風景は、リゾート地ならではの高級品。そして何よりも魅力的なのは、休みが予約でき、二年目からは有給休暇がもらえることである。パート人員十三人、正社員二人の組織である。

仕事は、一部屋に三人か四人ずつ入り、バス、トイレを掃除する人、スプレッドやシーツをはがす人、ベッドを作り掃除機をかける人、室内のほこりをとり、灰皿やお茶セット等、備え付けの位置にセッティングする人。それぞれ役割分担が

あり、十二、三分で仕上げて、ロビーションしながら次の部屋へと移動していく。きれいに使用しているときは、スムーズに移行するのだが、よごれていたりすると三人のベースはどっかちぐはぐと



なる。

シーズン中は、各階二十室、三階まで六十室を仕上げる。ほとんどが主婦、常勤が十人前後なので、十一時チェックアウト、十四時チェックインの掃除は非常にきついときもある。自分の担当が終わってどんどん先に進んでいく人と一緒のときは、おいでいかれたというあせりと、

ミスのないようにという緊張感で胸の鼓動は早鐘のようになり、手が動かなくなるときもある。時間に追われるということは人の相も変えさせ、殺気さえ漂ってくるのである。

口で仕事をする人、黙々と体を動かす人、いろいろなタイプがいて、その後に見え隠れする家庭環境を楽しんでいるのは、私だけだろうか。パートナーは、その日出社した人数や、相性など吟味して責任者が決めるのだが、なかなかうまくいかず、四苦八苦のようだ。組んだ人によって一日の疲れ具合が違うのは、そのときの体調にもよるだろうが、人間の織りなす感情の持ち方か？興味深い。

趣味をやりながらの今の仕事は、人間関係を客観的に見られ、社会の縮図を見るようで面白い。何事にも負けたくなく仕切る人、すぐカットとなり声を荒げる人、自分勝手な人、そして裏では足のひっぱりっこ。一人一人は、とても自分に対して正直な人達の集まりである。どこの職場でも、長く続いている人は、何かが強い人達である。

私に欠けているものがこの仕事を通して少しは身につくか、楽しみである。いつも遠くを見つめ、足元を直視しなかった私は、地に足をつけた人達の生き方に尊敬の感をいだいている。

編集の仕事をめざして

千葉県千葉市

渡辺みどり

書きたい、書きたい、という思いが腹の底からふつふつと湧き出し今にもあふれんばかりです。

文章を書くことを仕事にしたいという思いは日に日に募るばかりです。

というのも、私はある出版社で事務をしていたとして、「書く人々」を横目に毎日伝票を起こしているからです。

そもそもこの社に入社したきっかけは、編集レポーターに応募したことでした。

編集のほうでは、三歳以下の子供がいるということで初めから除外されてしまいました。

編集というものは、時間が不規則であ

るとのこと。保育所に子供を預けている私は五時過ぎれば帰り仕度を始めなければなりません。

定刻に帰ることのできる事務を選ぶしかありませんでした。

それでも初めのころは、あこがれの編集の仕事を横に見ながらの毎日が楽しくて仕方ありませんでした。

知識の豊富な人々の話を数多く聴けることもとてもうれしく思っていました。

そして最近思うようになったのです。文章を書くということとはとても幅広い知識が必要とされるのだと。私はまだ勉強不足です。

専業主婦であった十年間、いったい何をしていたのでしょ。

昨年の暮れ、私は三人の子供を連れ、離婚しました。正直申しまして、経済的には苦しい状態です。

それでも勉強のために、もう少し時間の自由のある職場へ転職したいと考えている今日このごろです。

(え・カステラネンコ)

生きるが勝ち ●無常知りたるなま乳房

神奈川県横浜市

阿部美砂江

十月三十日

妹の婚家の紹介で、思ったより早く都立H病院に入院が決まった。S医大病院で二週間も入院を待たされるのはいやだった。もうこうなったら一刻も早く、ガン組織を自分の体から取り去りたかった。入院前日、西宮の義母が出てきてくれた。私は子供たちの学校行事や幼稚園の送迎の間、曜日によって持っていくものなどをコマゴマと書いたノートを作ったことを夫の母に託した。ノートの表紙に「八七年十一月の生活」とタイトルをつけて、ハート型の花びらをいっぱい散らした。

H病院は昨年父が大腸ガンで亡くなった病院である。父の具合が悪くなつてからは毎日のように通ったので、H病院のことは個室の泊り込みから霊安室まで何でも知っていた。父の入院、手術とそれに続く死で、自分のときのリハ

ーサルをやったのかな、なんて悪いことを考えてしまう。

入院は夫につきそって行ってもらった。駅に行く途中で近所の人に会った。ポストンバッグを持って出かける私たち夫婦は、小旅行にでも行くと思われたのだろうか。

「どちらへお出かけ？」

と聞かれたので、

「入院するの。乳ガンなのよ」

と言ったら、

「わっ、トリハダだった」

と言われた。

トリハダか。なるほどね。

外科外来で触診を受けて、そのまま入院。すぐに採血と肺活量の検査。面会時間は三時からなので、夫はそれまで渋谷でも時間をつぶすと言う。「ゆきゆきて神軍」を観てくるように薦める。私が女友達と二人であの映画を観た

のは、まだ線維腺腫を信じていたころの、幸せな秋の入り口だった。

午後、カンファレンスルームで、担当のI医師と若いT医師から私と夫に説明があった。おっぱいの片方ぐらい、もう未練はありませんから、再発が絶対にならないようにして下さいとお願いする。背中の筋肉を使った乳房再建の形成手術も同時にできるとのことだったが、今はまだとてもそこまで考える気になれず、お断わりした。

入院患者のプロフィールを作るとき、看護婦に、自分はこういう性格だと思えますかと問われて、ためらうことなく、

「完璧主義者ですね」と答えた。

自分でそんなこと思ったこともなかったのに、当然のように口をついて出た。誰かに前に言われていたのが潜在意識に潜んでいたのかもしれない。自分で口に出して言ってみて初めて、ああ、私って完璧を望みすぎたのかもしれない、今まで、と思った。

患者に対してのガン告知の是非が問題になっているが、乳ガンだけは本人に告げざるを得ない。目に見える場所がえぐり取られるのだから言い訳もできない。けれど何においても真実を把握しておかずにはいられない完璧主義の私にとって、こういうやり方は性に合っている。疑うのも私、一〇〇パーセントの結果を知りたがるのも私だし、そのう

え敵をしかと見すえて立ち向かうのも私しかないのだ。病室は六人部屋で、私より年上の女の人ばかりだった。隣のベッドは明日退院だという八十四歳のおばあさんだった。

「この年になってこんな病気になって」

と、腎臓の病気と嫁の悪口をぐるぐるのおばあさんに適当に相槌を打ちながら、心の中で、(あんたなんか八十四歳だもの、まだいいじゃない。諦めつくじゃない。私なんか三十四歳でガンになったのよ。子供はまだ小学生と幼稚園なのよ)

と思っていた。

その夜、千葉敦子の「乳ガンなんかには負けられない」を読んで、すっごく勇気づけられた。このヒトもかなり気が強いなあ。乳ガンになる人の性格って似てるのかな？でも、この人はもう、死んでしまった――。

十月三十一日

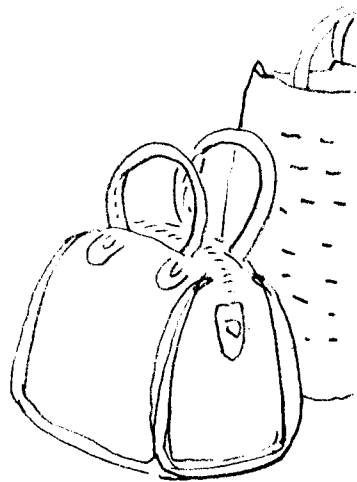
反応テストと採血。そして超音波の検査。

エコーのときに立ち合ってくれたO医師が、「まだ一期だから大丈夫ですよ」

と声をかけてくれた。

O医師はまだ若く、とても感じのいい先生だった。

「骨が痛むんですけど、転移してませんか」と質問すると、



「大丈夫。I先生でしたね。I先生に安心しておまかせしなさい。悪いところは手術できいに取って下さいますよ」と答えた。

私の担当医のI医師がO医師の信頼を受けているよう、なんだか嬉しかった。

そしてO医師は私のカルテを見ながら、いたずらっぽく、「あなたは僕と同年なんですね」と言って笑った。

それを聞いて私は、とてもとても悲しくなった。同い年の男。同じ時代を生きてきた仲間なのに、今、かたや医師の立場。そして私は、あと数日のうちに片胸を削り取られてしまい、そしてそうしなければ確実に死んでしまうガン患者なのだ。

手術は十一月四日に決まった。手術の二日前に病院に帰

ってくればよいから一時帰宅を許可するというお許しが出た。夫に車で迎えに来てもらい、途中渋谷のデパートで入院に必要なバジャマなどを買う。ふだんは生協で中国製の安物しか買わないのに、もう私はバジャマしか着ない人間になるのかもしれないと思うとうんとゼイタクしたくなり、デザイナーズブランドの高いのを買った。入院中に読む本を買っておこうと本売場へ行って、千葉敦子の、「死への準備」日記を買おうとしたら、夫が、こんな本を今読まないでくれと真剣に怒ったので、スチーブンキングの、「フアイヤースターター」を買う。

家に帰ったら子供たちは状況がまだよく飲み込めていないのか、甘いおばあちゃんと過ごせる喜びのためか、いつもより却ってのびのびと楽しそうだった。

たくさんさんの友人から電話をもらった。夫の友人でもある仲の良いボーイフレンドたちも、

「おっぱいなんか片っぱなくなっても愛してるよ」とか、

「入院中退屈しないようにいいミュージックテープ作ってたくさん持ってってやるよ」とか言って、励ましてくれた。

家にいる間はひっきりなしに電話や、近所の人のお見舞いが入り、そのたびにサビ精神旺盛な私は、ガンの発見から今までのことを、M医師の言いぐさからカンクロー発言、入院時にI医師との間で交わした一人漫才まで喋っ

ては見舞い客を笑わせたものだ。

入院してすぐ、ベッドでパジャマに着替えていると若くてハンサムなＴ医師がやって来て、ベッドのまわりのカーテンをサアッとひいて簡単な触診をしたあと、私の顔をじっと見て、

「阿部さんは以前からそんなに目が大きかったんですか？」と言った。

何のためにそんなことを聞くのか分からず、目千両といわれる私の大きなヒトミをほめてくれてるのかしらとうぬぼれて、

「ええ、そうですけど、何か？」

と、にっこりほえんだら、

「最近急に目が出てきたとか、ありませんよね」

と言いながら、絶句している私の首のあたりをぐりぐりさわわり、

「あ、甲状腺じゃないなあ、腫れてないや、失礼しました」と言って、首を傾げながらすたすた出て行ってしまった。

つまり、私の出目ぎみの目は、バセドー氏病を疑われてしまったのだった。

これは笑ってくれたわね、みんな。何でガン患者の私が自分の病気をサカナにしてまで見舞い客を笑わせなきゃならないのかとは思ったが、そうやって非日常の世界をはしゃいで過ごさずにはいられなかった。現実を見すえ続けるのはつらすぎたのだ。

十一月二日

病院に戻った。家を出るとき、夫の母が、

「頑張ってね、ミサエちゃん」

と言った。

とっさに、

「頑張るって、何を頑張れって言うんですか。私は全身麻酔をかけられて眠っている間に全ては終わっちゃうんですよ」

と答えた。

他人にはおどけて笑いをふりまくせに、身内に対してはつい苛立つ本音をおつけてしまう。どうしてこの私がガンになるのよという苛立ち。ごめん、お母さん。

十一月三日

手術の前日ということで、看護婦さんに体を剃ってもらってお風呂に入った。もう見納めだな、と思いながら裸の小さな胸を鏡に映して見た。私の場合、非定型的乳房切断術といって、胸の上のほうの筋肉は残す手術だそうだ。「乳房切断」というコトバの響きが何とも無情だなあと考えた。大胸筋と、脇の下と鎖骨の下のリンパ節は取れるだけ取ってしまいうらしいが、なにしろペチャパイなので（そういう言い方はされなかったが）、皮膚移植をしないと傷口がうまく貼り合わせられないのか、おなかの皮も少し切ると言

われた。おなかの皮はよく伸びるので、皮を剥いだあと、縫い合わせれば一本の筋になり、跡が目立たないということだった。

タオルと下着の追加を頼もうと思って家に電話を入れたら、夫の声が鼻声だった。泣いていたのかな。かわいそうに。

こうなったらもう、第一期のガンであることを祈ることにしよう。転移もしていなくて骨が痛かったのも気のせい、手術でキレイに腫瘍部分は取れて、あるいはS医大病院のカンクローの誤診で、手術前に部分摘出して生検に出してみたら、ただの腺腫だったという幸運で——そんなにうまくいかなくても、とにかく転移はゼーんぜんしてなくて、このあと五十年、ピンシャン元気で生き延びられる——と、まあそんなような楽観的な望みを持つことにした。そしてこの入院、手術、療養といったすごい体験を、私に与えられたある種のチャンスであると考え、これをステップに今までと生き方のチャンセルを変えてみようと思った。そんなふうに向かい方を考えを向けなきゃ救われない。だって、私はまだ三十四歳なんだから。こんなところでくじけてたまりますか、冗談じゃないわよ——とか、強気なこと言っときながら私は結局早死しちゃうのかな。やだなあ。

友人たちが花束やお菓子を持って、何人もお見舞いに来てくれた。友人たちはとてもショックを受けていて、私の

笑い話にも心から乗っている様子ではなかった。そうだろうな。私も友達がガンになったらすごいショックだと思うもの。さあ、いよいよ明日は手術だ。

十一月四日

さようなら左のおっぱい。無常知りたるなま乳房よ。小さくてやわらかくてかわいい私のおっぱい。夫に愛され、子供たちにしゃぶられた私のおっぱい。あなたを失うのはつらいけれど、あなたの中に巣喰った魔物に私の命まで奪わせないために、お別れしましょう、今日かぎり。

数時間後、平たい骨と皮になっているはずの左胸を、私は何度も触って確かめた。



●生きるが勝ち

朝八時に、夫、母、妹、妹の舅が来る。手術前にベッドの上で鼻から胃へ細い管を通した。これは手術中に胃液などが食道へ入るのを防ぐ処置である。オエツとなりながら飲み込むのが苦しくて涙がぼろぼろこぼれた。手術着に着替えて、両肩に軽い麻酔の注射を打つ。私が手術のとき一番つらかったのは、この二つ、鼻に管を通すのと、ものすごい痛さの両肩への筋肉注射だった。これさえクリアすれば、あとは何の苦しみも痛みもなかった。

八時四十分、ベッドのまま病室を出る。まるで昔見たTV映画の「ベン・ケーシー」のワンシーンみたい。ゴロゴロと音をたてて、足早にベッドが動く。私は横になったまま、病院の廊下の天井が動くのを見つめている。

パアッとエレベーターのドアが開く。中に入り、ドアが閉まる。母や妹の「頑張ってるね」という声が聞こえる。(頑張るって何を?) 心の中でまた私は反発する。

パアッパアッと幾重にも開く手術室のドアを通ると、白衣の看護婦さんから緑色の手術着の看護婦さんにベッドごとバトンタッチされる。そのまま手術室へ。

未知との遭遇に出てきたUFOみたいな大きいライトの下、思ってたよりずっと幅の狭い手術台に乗るように言われる。まさに未知との遭遇だなあ。コンタクトをしていたらもっとよく手術室の様子が分かるのに。見えないと却って不安になる。自分がどんなふうに切られるのか見てみたい気がした。



麻酔のH医師が朝の挨拶をし、背中にゴツンゴツンと針を打っていく。横たわっている私にI医師の笑顔の挨拶と、I医師の真剣な挨拶。マスクをかけて十も数えないうちに何も考えなくなつて、次に聞こえてきたのは、「阿部さん、阿部さん、手術終わりましたよ」という誰かの声だった。

壊れかけた蛍光灯がときどき思い出したようにパカッパカッと光るたびに部屋の風景が写し出されるように、私はときどきばかりりと目を開き、そのときどきに目に映った情景を、頭に焼きつけた。ベッドの右脇の椅子に座り、私の顔を見つめる夫の顔。私を覗き込み、母を呼ぶ妹の顔。泣き出しそうな母の顔。遠くから私の様子を覗いている妹

の肩。そして、いつ目を開けても夫だけは私の右脇の位置から微動だにせず、悲しげにつらそうに私の顔を見つめ続けていた。

どれだけの時間がたったのだろう、十五分に一回ずつばかり、ぽかりと目を開けて、しばらく夫の顔を見つめてはまた眠りに落ちるという状態が続いた。そのころには夫が前と同じ位置に座っているのが見えるだけで、他の三人は帰ってしまったのか、いなかった。私は体中にチューブをさしこまれ、おまけに酸素マスクと点滴で身動きができない状態で横たわっていた。左胸から脇にかけてプロテクターをつけているような厚ぼったい感じはしたが、痛みはなかった。

（ここは何号室なんだろう？ 集中治療室だろうか？ 今、何時ごろなんだろう？）

と思ったが、のどが乾燥して声が出ない。やっと声が出るようになったころ、かすれる声をふり絞って、

「ここ、どこ？」

と夫に聞いたら、夫は身を乗り出し、ほっとしたような表情で、

「H病院だよ」

と答えた。

アホか？ そんなことまでこの私が分かんなくなっていると思うのか!! 交通事故で運び込まれたわけじゃあるまいし、麻酔で記憶までなくなったとも思ってるんだ

ろうか？ 本当は「何号室なの？」と聞きたかったが声が出にくいので、最少限の発声で質問をすませようと思ったのに。

私は呆れたように顔を背けたのだが、夫はそれをどのようにに理解したのか、やさしくうなずいてくれた。

そのうちだんだん声も出るようになり、酸素マスクを外してほしいの、鼻のチューブを止めてるテープが痒いから取ってくれのといういろいろ注文を出し、結局それらを全部やってもらい、おまけに喉が渴いたのでウーロン茶まで飲んだ。私の場合、内臓の手術ではなく、外側の肉体を削り取るものなので、こんなワガママも聞いてもらえたのだろう。部屋はナースステーションに近い二人部屋で、私一人が占領していた。

I 医師やT 医師が様子を見に来てくれた。本当に第一期だったのかとか、どのぐらいの大きさだったのか、転移していたようかとか、再発の可能性はどうだとか、よく声の出ない喉で元氣よく質問した。さぞかしうるさい患者だと思われただろうなあ。でも自分の体のことだもの、誰より詳しく知っていたいし、私は今回のことで他人である医者の診断よりも、自分の動物的な勘を頼りにしたいと思ったのだ。そのためにはできるだけ正確な状況を把握していたかった。輸血もしなくてすんだということでも安心。私の乳ガンは一・五×一・七cmでまだ第一期だったそうだ。

十一月五日

手術の翌朝だというのにもうおかゆの朝食が出た。少しだけ食べた。左腕をまったく使えないので、何をやるにもものすごく不便だ。午前中に、お小水をとっていたカテーテルを外した。そのために患部から滲み出た血液やリンパ液を溜めるドレーンをぶら下げ、右腕には点滴をしたまま、点滴用台車をゴロゴロ引きずって自分でトイレに行かなければならない。そのうえその右腕でお小水を持って、自分のピーカーに入れないといけないのだ。

十一月六日

手術したところのガーゼを初めて開いた。赤黒い血がベトベトついてた。ガーゼの厚さを減らしたのか、だいぶ動きが楽になったような気がする。手術した場所は固い鎧で覆われたような感覚だったが痛みは全然なく、むしろ皮膚移植をしたおなかのほうに、火傷をしたようにヒリヒリ痛んだ。

昨日まではいっさい左腕を動かさないようにと言われていたが、今日からは腕の上げ下げのリハビリが始まる。リハビリといっても誰かが指導してくれるわけではなく、ビックリしたような顔をしたイラストの女の人が手を上げたりのぼしたりしているのが描いてある一枚の紙を渡され、「これ、自分でやって下さい」といって下さい」

と言われただけだった。

このイラストの女の人はおっぱいを片っぱなくしても悲しくないみたいね。ビックリしたような平気な顔をしているわ、と思った。

起き上がるのもヒモを使って何とか自分でできるようになったし、毎日欠かしたことの無いミルクティーも自分でいれて飲んでる。順調に回復していると言えるだろう。

中学時代の友人から綺麗なフラワーアレンジメントが届いた。タフでクールな私でも、さすがこんなときには生き生きと咲き誇る花を見て、心がなごんでいくのを感じる。花の美しさ、友人の気持ちにじんと感動した。

二日めの夜は全然眠れなかった。体を動かせるようにな



ったのをいいことに、手紙や日記を書きまくったり、フ
アイヤースターター”を読み終えたり、知的活動を急にし
たせいか、頭のシンが冴え渡りすぎてなかなか寝つけな
ったのだ。夜、目をつぶるとザワザワと人の喋る声と、ク
ラシック音楽が聞こえてくる（マラーの曲みたいだった）。
どこかの病室で、今、誰かが臨終を迎えたのだ、その霊の
ざわめきが通気孔を通してこの部屋にも忍び込んできたの
だと思った。いやーな空気だった。

十一月七日

手紙を書いたり、友人に電話をかけたり、リハビリの練
習をしたりして過ごす。熱も下がらず、体がだるい。妹夫
婦、学生時代のボーイフレンドがお見舞いに来てくれた。
せつかく来てくれた人には悪いけれど、もうちょっとすっ
きりしてから来てはしかった。

夫も会社の帰りに寄ってくれた。夫が帰る前になって、
突然悲しみが胸に迫り、さんざん泣いた十月二十八日の夜
以来、初めて泣いた。懐かしい自宅でピアノを弾いたり紅
茶を飲んだり好き勝手、自由気ままに暮らしていた自分は
何て自信に満ち溢れていたのだらう。今、乳ガンになって
片方の乳房を失い、未来を半分以上こそぎ取られてしまっ
たような、自信のない不安な私から見ると、つい十日前ま
での自分の姿は傲慢にさえ思える。

退院してから今までどおりの生活はできるだろうか。も

うセックスもできないかもしれない（片方乳房のない女な
んかとはやる気になれないだろう）。それより再発するこ
とはないだろうか？などと考えていたら涙が出たのだ。私
は泣きながら、夫にそんな気持ちを訴えた。

夫はティッシュで涙を拭いてくれ、

「オレはお前がどんなになっても変わらないよ。オレはお
前のココが好きなんだから」

と言って、私の頭を指でつついた。

「オレはお前の性格のいいところ悪いところも全部好きだ
よ。ワガママなところも気の強いところも自分勝手なところも全部ね。まわりはよく分かっているじゃないんだけど、オレはお前のアタマが一番好きだよ」
と言った。

アタマが好きだなんて変な言い方。ココロとか、やさし
い気持ち、とか言うのならなんとなく分かるけど、アタマ
と言われると、数学が苦手だったことや、ヨコ文字の人名、
地名を全然覚えられない記憶力の悪さなんかをパッと思い
浮かべてしまう。ま、いいや、とにかく彼は、私の外見が
どう変化しよう、私の喋ること、思うこと、生き方なん
かが気に入っているということなんだから。そう理解し、な
んとなく私は満足した。

夜はまた、眠れなかった。

——つづく——

（え・岡田正子）

サーブレシーブ

「私は部活未亡人」について

千葉県 匿名

私も、読売新聞を読んでいます。昨年の記事は、よく覚えております。私も、これがキッカケになって、部活の見直しが行なわれるといいなと思いました。しかし、こちらの学校は、今、何も変わっていません。中一の次男は、長男と同じように、休み休み部活をやっています。現在高一の長男が部活に入っていたときは、

- ・ 朝練は休み休み、
 - ・ 午後練は、だいたい出席、
 - ・ 土、日は、ほとんど欠席、
- という状態でした。

朝は眠いのと、体が疲れたので休みがち、午後練は、だいたい出席しましたが、体力的に、これ以上やると病氣しそうというこ

きに、無理をせずにと休みました。

土、日は、釣り、ラジコン、映画を観るとかの出かけるために欠席。

これが人間らしい生活と思っています。

人によって、体力にも違いがありますし、長男は、練習を怠けてばかりいたのではありません。休むと、皆怠けていたと思われるようになって、無理して部活に行つて、学校を欠席することになったら、本末転倒だと思っています。

休み休みでは、他の部員にも、本人にもよくないから、「休まず部活に出席するか」「部活をやめるか」どちらかにしてほしいと先生に言われ、親子で考えた末、中二のときに部活をやめました。今の子供達は、塾にも行っていますし、毎日時間に追われて、いつも疲れている状態です。

我が子は、少し頑張りが足りないのと、時間の使い方がうまくないという反省点もあります。

さて、それでは、どうしたら部活は改善

されるかというと、

・ 学校での、上に立つ人の考え方で、その学校のやり方は改善されるでしょう。それがダメなら、

・ その教師一人だけ自分の考えを貫き通すこともできないことはないでしょうが、なかなか大変だと思います。一人で頑張ることも大切なことですが、私は、川の流れる



ように、少しずつ時代が変わっていくと思います。良くも悪くも……。

・ただ何もしていないというのとは気がひけるなら、折りあるごとに、「こう思う」と、教師も父母も声を出して言い続けることも必要だと思います。その声がだんだん大きく広がることもあるから……。

話は少し飛びますが、高校中退者や、登校拒否者が、今はすごく多くなって、放っておけなくなってきました。

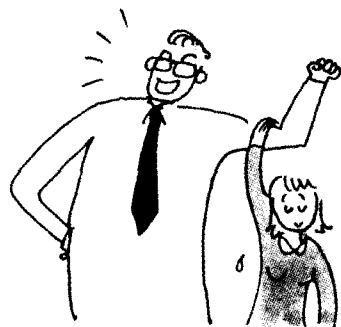
中退者等が少ないときは、その子自身が怠け者だからぐらいいにか見てもらえなかったのですが、こんなに多くの中退者等が出るようになったということは、やはり「狂育ニッポン」だからではないでしょうか。国でも、中退者等について、対策を立てなくてはならなくなってきました。

部活も同様だと思います。

妻はやっぱり 扶養されている!?

奈良県奈良市 田中 慶子(43歳)

二一九号、サープレシーブの「いま食べ



ているのは彼のおかげ」?!の浦野美智子さんの憤慨、わかります。ほんとうにその通りなんですよね。憲法で男女平等をうたっているし、夫と妻は対等であるはずだし。

しかし、二一八号の座談会の原田さんの発言、あれもまた現実なんです。私も建前は浦野さんの意見、本音は原田さんと同じ気持ち。結婚生活二十年ともなると、建前より本音になってくるのかしら。

当事者の夫婦間では役割分担して対等の意識であっても、社会的客観的存在としては、妻、特に専業主婦は、やはり夫に扶養されているということなんでしょうね。だから今でも夫のことを「主人」と言うのです。

「わからない」の 宇野さんへ

埼玉県草加市 佐藤 玲子

宇野佳子さんの「わからない」を、とても興味深く読ませて頂きました。

私の今の、そしてこれからの人生を言いあてられたようでショックを覚えた、とのこと。よくわかります。が、それが当たっているかどうかはあなた自身の今後の生き方にかかっているのではないのでしょうか?

七年前の私も、全くあなたと同じ状況にありました。ほとんど年子の小さな子供たちに一日中追いかけられ、悪戦苦闘、くたくたに疲れはてて子供たちと一緒に眠ってしまう。そして夢にうなされました。独身時代、なぜかよく、空を飛ぶ夢を見たのですがそのころは飛べませんでした。

必死で飛び立とうとするのですが、フワッと浮いたかと思うとすぐに墜落してしまふのです。日常生活の重圧感がそんな夢になって表われたのだと思います。

正直、そのときまで子育てがこんなにし

んどのものだとは、思いもよらないことでした。

私自身もよい子供を育てることが女の生きがいであり、母親の天職であるという理念にこり固まっていたようです。それは無意識のうちに頭の中にたたき込まれていて、可愛い子供たちのためにはどんな犠牲を払っても当然という先入観にとりつかれていました。

ときには何もかも投げ出してしまいたい気持ちをかろうじて抑えることができたのは、それが自分から選んだ道であつたからです。長年看護婦だった母とは、家庭の事情もあつて感情的にすれ違つてばかり。ごく普通の母子の会話ができない状態でした。母とは違つた生き方をしようと、専業主婦を選んだ私にとって、途中でそれを放棄することは、敗北を意味するものでした。母と子の良い関係を築くために専業主婦になつた私に育児戦争からの「戦線撤退」はできません。『進撃』あるのみです。

たくさんさんの育児書を読み、子育てによいと思われることはしました。母乳育児はもちろん、日光浴、散歩、音楽など……。

自我が強くわがままな私は、決して良い母親ではありません。時に歯をくいしばり、時に「ママは家政婦じゃないんだからね」とどなりつづ、なんとか乗り切ってきたというのが正直なところです。

母親業って、一般的な理屈が通らないところが辛いところです。子供はエゴイズムのかたまりです。ギブアンドテイクではなく、ギブアンドギブアンドギブ、の世界です。限りなく与えることに満足できるのが、理想的な母親像かもしれません。

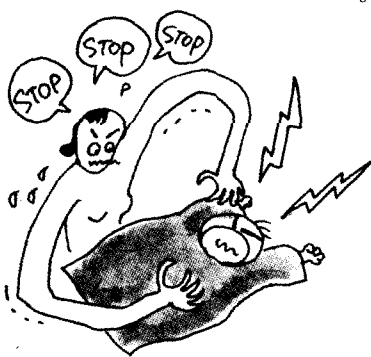
あれから七年、今は子供たちも小学生、中学生、高校生になり、本当に楽になりました。家事労働時間は確実に短くなり、私も自分の世界を持ちはじめています。夜の会合に出かけることがあつても、お金を渡しておけば、その範囲でキッチンと買い物をし、料理もできますから安心です。お風呂の用意やせんたくも上手になりました。少しずつ自立しつづつあると言えるでしょう。

子供たちは日々成長し、親の羽の下から

飛び立とうとしています。これからは自分の力で人生を切り開いていくことでしよう。「子供にかまけて暮らす生活が生きがい」にはならなかった私、少々年齢を感じますが、今からでも何かができるのではないかと、思っています。

現在、私が参加しているサークルや勉強会、ボランティアは片手では足りません。経済的に自立しているとは言えませんが心は充実しているし、解放感もあります。あのとき精一杯やった、という満足感もあります。

何かの参考になれば、とペンを執りました。



(元・堀切潤子)

後ろの正面ス・パイ

東京都八王子市 日高あき子

目覚めたら「女スパイ」

「恐怖と屈辱の毎日。警察でのことを考えるのもいやだったときもあるけど、わたしがこのまま黙ってしまったら、誰かが、また同じ目にあうかもしれないからねえ」

八尾恵さんは、あんな目にあわされた人とは思えない、おだやかな笑顔で語る。こんなふうに淡々とした口調になるまで、どんな苦しみと闘ったことだろう。そして、その苦しみは私達、スパイなんて小説や映画の中でのことと思いついて入っている、普通の市民の身にいつふりかかってくるかもしれないのである。映画の中ならス

パイは追う者、追われる者がロマンチックだが、これはある日突然、理由もなく生活をメチャメチャにされた一市民と、おそまつな人権感覚の警察とマス・コミの怖い話なのだ。

一九八八年五月二十五日の朝、八時ごろ八尾さんの横須賀のアパートを「ごめんください」と訪れる声があった。彼女がのぞき窓から見ると、見知らぬ中年女性が生立っている。セールの人だと思い、無視していたが、その日は彼女の経営するカフェバーのため消防署の講習に出なくてはいらないことを思い出して出掛けることにした。身仕度をして外へ出たのが九時ごろ。外へ出たとたん、数人の

男性がドドッという勢いで押しよせてきた。神奈川県警外事課のスパイ逮捕喜劇——八尾さんにとっての悪夢の始まりである。

逮捕理由は「有印私文書偽造同行使」要するに彼女が、半年前まで住んでいたアパートを借りるのに通称名を使ったことだという。

「わたしは人を騙すとか、悪いことをするために通称名を使ったわけではなく、個人的な理由でそうしただけのことなので、すぐ事実を認めました。お店があるので早く帰してもらいたくて一所懸命に理由を説明しました。でも、驚いたことに、いくら話しても警察は信じてくれま

せんでした」

生活の糧であるお店の心配どころか、八尾さんは着のみ着のまま警察管理の代用監獄に止め置かれ、連日取り調べを受ける。三日めには「公正証書原本不実記載同行使」により、十日間の勾留がつけられた。これは以前、一時的に知人の家に住民票を置いたことである。

そうしてにおいて、警察と検事は、八尾さんにスパイの自供をせまったが、身に覚えもないのに自供できるわけがない。勾留は十日間延長され、彼女の代用監獄生活は二十二日間にもなった。

「丸見えのトイレと着替え、視かれながら入る風呂、寝ているときも男の看守に周りをうろうろされ、生理用品やその処理も男の看守に頼まなければなりません。正常な生活が何一つ許されませんでした。警察と検事に、頭から『スパイ』呼ばわりされる異常な世界の中で、このまま屈辱を受け続けるぐらいなら、死んだほうがよっぽどましだと、生きる気力さえ失せていきました」

警察や検事が「おまえだろう」とつき

つけた写真は、彼女には見覚えもなく、しかもピンボケで顔などわからない。違うと言っても「おまえのやったことは大罪なのだ。人間社会の中で許しておけない」と頭から罪人ときめつけて、聞こうともしない。

一週間くらいすると「母親がおまえのために病気になる、食事もできない。おまえが殺すことになるぞ」と母親が連れてこられた。母親は警察から「おまえの娘は大変な罪を犯したから、泣きじゃくって、すがりついて自供をさせろ」と言い含められるが、彼女と話しているうちに、無罪を確信してきたとのこと。刑事物ドラマでおなじみのやりくちではあるが、現実には生身の人間がやると考えると、何とも心がうそ寒い。

「ひどいことをする人たちだな」と思いながら「しぶといやつ」「ムシケラ」「人間の屑」「生きている資格がない」と怒鳴られ続けていると、一生こんな生活が続くという錯覚にとらわれる。もう好きにしてくれ、という自暴自棄になり、自分でもない写真を自分と認めさせられた。

やってもないことをやったとされた「自白調書」が造られる。冤罪成立の典型である。

だが、彼女の勾留中十回以上にも及んだ家宅捜査では、彼女がスパイであるという証拠は何も出なかった。二十二日間の勾留期限が切れて彼女は釈放となった。いきなり異常な生活に投げ込まれ、また突然、恩着せがましく「釈放」と言われると、普通の判断力を失ってしまうものか、彼女は泣きながら刑事の手をとって「ありがとうございます」とまで言ってしまったという。

刑事のほうは強制自白させたことが明らかになるのを恐れて「記者会見はやめておけ。さらしものにされるだけだ。人の噂も七十五日と言うから」「これ以上弁護士に会うな。弁護士も金儲けのためにやっているんだから」「これまでの辛かったことは一日も早く忘れて、これからの生活のために頑張りなさい」などと、八尾さんの言葉を借りると「泣き寝入りするように『アドバイス』を受けました」逮捕理由の「有印私文書偽造同行使」

は不起訴、「公正証書原本不実記載同行使」について罰金五万円を払わされた。

彼女には、親から一人立ちの生活を確立するため、しばらく住所を親に知らせないでおくという、まったく個人的な事情があっただけだ。実際の住まいと、住民票届けを出した住所が違うなんて例はいくらでもあるだろう。

引越しもしてもすぐに住民登録をしない方はご用心。スパイでっちあげのための別件逮捕は他人ごとではありませんよ。

マスメディアの犯罪

八尾さんの逮捕は六月四日から新聞に載った。

「北朝鮮工作員と接触の女性逮捕」

「『よど号犯』の中継務める？」

「柴田と同じ乱数表持つ女性逮捕」

「横須賀でスナック経営・防衛情報収集か」

「北朝鮮工作員と接触・スナック経営女性を逮捕」

そんな大見出しが踊る各紙の第一報を、

記憶されている方も多いだろう。

私自身、以前にある犯罪事件に肉親がかかわっているように誤報されたことがある。そのときの、訂正文あるいは謝罪文の掲載を求めるいきさつを通して、新聞社の一市民の人権など一顧だにしない体質を思い知らされた。

自分達の誤りを決して認めようとなない。何の力も持たない一市民の心や名誉を傷つけることなど何とも思わず、「ペンの権力」をちらつかせさえする対応には、あきれかえったものだ。それ以来、真実を伝えることよりも、紙面をおもしろおかしく仕立てあげることが重視するものとして、新聞記事には距離を置いて読むようにしていた。そんな体験を持つ私でさえ、八尾さんが「スパイ」と報道されたことが、まったくの「デッチ上げ」とは思いもしなかった。

釈放後初めて新聞に目を通して、八尾さんは、自分のことが書かれてあるとは信じられなかったと言う。取り調べの最中にも、刑事は新聞を資料にして持っていて「おまえのことがすぐく載っている

ぞ、出たら大変だぞ」などと言っていたが見せようとはしなかった。

「釈放された後は勾留されていたのが嘘みたい、悪夢を見ていたようでした。新聞の記事を読んでも、誰のことを書いているのか、現実なのか、遠いところでおきたことのように錯覚されました。自分のことは信じられませんでした。わたしの名前や経営していたお店の名前も載っています。なぜこんなことを書くのでしょうか」

日航機「よど号」ハイジャック事件と関連づけた記事の中には、ごていねいに柴田被告の写真入りのものもある。

「八尾（新聞では呼び捨て）の自宅やスナックなどを家宅捜査したところ、柴田被告の持つ『乱数表』と同一のものが見つかった」

「防衛庁の極秘情報と思われるメモなどを押収」

「韓国、ソ連などへ渡航した際、公安当局からマークされている北朝鮮工作員と接触していた。この工作員が『よど号』ハイジャック犯の一人と接触していたと

の有力情報もあり、公安当局では八尾らを追及、裏付けを急いでいる」

また大韓航空機爆破事件と絡めて記事作りをしている新聞もある。そこでも事件の被疑者で服毒自殺した男性や、金賢姫被告らの写真入り扱いである。

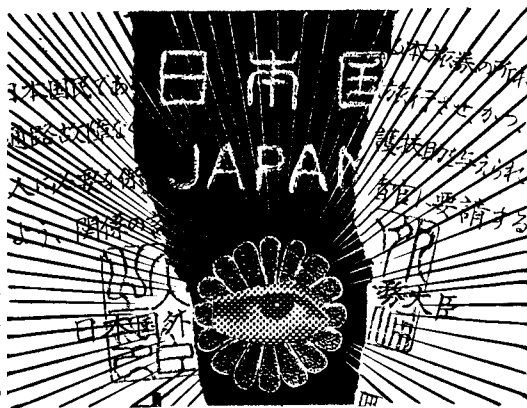
「当局で賢姫が供述した足取りを追跡調査した結果、東欧で不審な日本人女性の行動が明らかとなり、さらにその女性が八尾と判明」

「八尾は本人名義のパスポートの他に、数通の偽造パスポートを所持しており、当局は偽造パスポートを使って北朝鮮に入国した事実を確認した」

「賢姫が供述した日本人化教育係『李恩恵』の身元などについても追及」

当時は私も、大韓航空機事件については「恩恵」の存在なんてどうもうさんくさい、と疑っていたけど、つながりのある「スパイ」らしき女性が逮捕されたところとみると、実在していたのね、と考えなおすようになった。まさか、こうした記事が、まったく根拠のないところで創られるとは思いませんでしたのだから。

六月十五日の釈放についても「多くのナゾが解明されぬまま」「ノラリクラリ」「マスコミをにぎわした『大物ぶり』」スパイの被疑事実はあるが、取り調べ側で十分な立証ができなかった、とい



うイメージを与えられる。だが事実北朝鮮に行ったこともなければ「乱数表」や「偽造パスポート」もあるわけではない。

釈放当日「公正証書原本不実記載同行

使」の略式裁判（五万円の罰金）で裁判所に行くときも報道陣がおしかける。上衣をかぶせられて車に乗る間もフラッシュをあびせられた。報道陣が追いかけ、裁判所でも待ち伏せにあう。

「なぜかわからないのに、マスコミから逃げるために労力を使いました」

人目にふれたくないという恐怖心を、弁護士さんの励ましによって克服し、六月十七日には無実を訴える記者会見を行なった。しかし、彼女を「スパイ」に仕立て上げるためには、あれだけ大きくとり扱っていながら、マスコミ批判を含む彼女の声明文を全文載せた新聞社はない。

二十日以上もの勾留の間に、経営していたカフェバーは閉店せざるを得ず、警察の聞き込みやマスコミの取材にあった友人知人には迷惑がかかり、八尾さんは大変な苦境に立たされてしまった。

「書きたてられたプライバシーシーもでたらめ、家庭の事情、経歴、学校のことほとんどでたらめです。いかにもいわくありげに書くんです。わたしは何もかも失

ってしまいました。就職しようと思っても、履歴書を出して、事件を知っている人に断われたり、またマスコミの追っかけに会うと思うと、恐くてできません。マスコミが警察とはもちつもたれつの関係で、力のある側にしかつかないことがわかりました。報道していることの反対を考えれば真実が見えてくるような社もあります」

八尾さんがそう訴えるのは、日ごろおもしろおかしいテレビ作りを売り物にしているテレビ局とそのグループの新聞社のことであった。納得。

パスポートを返して

阪神工業地帯の街で生まれ育った八尾さんの周囲には、在日外国人や、被差別部落の人達が多かったという。幼いころから一緒に遊んで育った彼女は、日本人の持ちやすい差別意識にはとらわれなかった。在日韓国人の友人の祖国について関心があったので、韓国映画を見に行ったり、韓国の歴史の学習会に行ったりしたこともある。そんなことが「要注意人

物にされたのかも知れません」と彼女は語る。

高校卒業後、就職したが、社会に貢献できる仕事をしたいと考え、保母になるうとする。保育専門学校に入り、養護施設で働きたいと思うようになったが、実習で、日本の施設の金儲け主義の実態がわかってきた。彼女はヨーロッパへ渡り、フランスを拠点として働きながら、いろいろな国を旅行した。ビザが切れる三か月ごとに外国を旅行して戻ると、また新しくビザが受けられるのだ。

福祉施設も見て回り、日本に戻って自分の施設を作りたいと夢がふくらんだ。数年の外国旅行の後日本に戻り、三年ほど働いて、ようやく夢の実現への足がかりになろうとする、自分の店を持つまでになる。それが半年もたたずに、身に覚えのないことでつぶされてしまったのである。

さらに追い打ちをかけるように、八尾さんは、外務省からパスポートを強制的に返納させられる。釈放よりおよそ一か月後八月一日のことである。

「一般旅券返納命令書」を発行したのが、当時の外務大臣、あの三本指で女性の人権侵害をした宇野宗佑前総理だった。それはともかくとして「北朝鮮工作員と認められる人物と海外において接触しその指示により情報活動を行っていた等の事実にかんがみ、貴殿は著しく且つ直接に日本国の利益又は公安を害する行動を行う虞れがあると認めるに相当の理由がある者であることが判明した」のが、返納命令の理由というのだからおそれいる。

北朝鮮工作員との接触はなかったのである。また、外務省自身がそういう疑い



で、彼女から事情聴取を行なったわけでもない。これでは警察の意のままに踊ったマスコミと変わりはないではないか。

八尾さんと弁護士は、九月二十八日、命令に対して「異議申し立て」をした。

十二月二十一日、外務省旅券課へ陳述に行くが、一切応答なし。

明けて八九年二月上旬、外務省旅券課に電話で、異議申し立てについて返答を催促したが「大喪の礼が終わるまで仕事ができないので」と、またしても返答なし。何なの、何なの、なあんなの？

四月十七日、横浜地方裁判所に、「旅券返納命令処分取消等請求事件」の訴訟を起こす。第一回公判が六月二十一日。八尾さん自ら読みあげる意見陳述書が聞く人の胸を打つ。

「私は外務省から理由も解らず旅券を返納させられ、憲法で定めるところの海外渡航の自由権を侵されたままになっていきます。

私はスパイではありません。スパイをしたことはありません。

ですから、国に、旅券を返納させられ

る理由はありません。

海外渡航の自由を奪い、日本の国から一步も外に出さないようにする行為は、警察に二十二日間の不当拘留を受けたときに入れられた、代用監獄の広さを、畳三畳分から日本の国土分に広げただけのものにすぎないではありませんか。

私のように、身に覚えのないものに対して、一方的に何かをやったとして、簡単に処分する今の国の在り方は、私だけでなく、国民ひとりひとりに対する、著しい人権蹂躪と、憲法を踏みにじる行為だと思っています。

国民ひとりひとりの権利を守る保障無くして、国民全体の国益を守るはずがありません。

私の、この、旅券返納命令取消訴訟は、奪われた旅券を返してもらうだけでなく、人が人として生きて行くために保障されなくてはならない権利と、国民の憲法を、国に守ってもらうようにするための訴訟です。

また、今後、私のようなめにあう人がなくなり、さらに、造られないようにし



ていくための訴訟です」

さらに弁護士が、「返納命令」への「異議申し立て」についての法的根拠を述べた。

続いて被告側の外務省の答弁だが、これがあつという間に終わってしまった。

「本件訴訟を東京地方裁判所に移送する、との決定を求める」として、その理由を一分足らずの法律用語で述べておしまい。普通の話し言葉になおすと「今度の処分は外務大臣のしたことだから、横浜地方裁判所は管轄違い。外務省がある東京の地方裁判所でやってね」という人をつくったもの。

誰が考えたって、八尾さんがパスポートを取り上げられる根拠がないのは明らかなのに、裁判とはこんなにも、普通の日常感覚から離れたところにあるのだろうか。

次の第二回公判は三か月先の九月二十五日。どうしてそんなに間があくのかと思ったが、夏の間は、裁判長の長い長い夏休みがあるので、普通のことらしい。八尾さんのほうはつらい思いをして、せめてもの憂さ晴らしを海外旅行に求めようとしてもできないままだというのに。

翔んでる女はたたかれる

勾留中の過酷な取り調べの中で、八尾さんは初めてこそ怒りや屈辱と闘っていたが、次第に

「いくら真実を述べてもだめ」と無氣力にされていく。

「いつまでこんなことが続くのだろう、もうどうなってもいいから、早く外に出たい」というように追いつめられて、警察のいいなりの「自白調書」をとらされてもいる。釈放後も、マスコミにたたか

れる恐怖心で何もできなかったが、弁護士や理解あるジャーナリストたちに励まされて立ち直り、裁判を起こすまでになった。けれど、誰でもそうできるわけではなく、私達の知らないところで、わけのわからないぬれ衣で生活も人格も破壊され、助けを求められぬままの人達がいることが想像される。

「警察は私を『女スパイ』にでっちあげること、ソウルオリンピック前の緊張を造るための宣伝の一つとして、また、国家秘密法の必要性を説くものとして、また、運動をしている人達の弾圧として等々いろいろと利用目的は多かったようです」

そこで八尾さんが選ばれたのは、

「在日韓国人の友人がいると、それだけでマークされるようです。海外渡航歴も多く、通称名を使ったこともあります、決定的なのは、女で独身、飲食店の経営者だったことです。それだけでも十分話題性があり、注目されますが、さらに横須賀という地名が加わると『スパイ』事件にふさわしい価値ある道具となったの

でしょう」

八尾さんは、経営するカフェバーをスナックと報道されたことにも目をとめる。「ある記者から『スナックママって聞いたからどんな人かと勝手にイメージを作ってしまった』と言われ、はっとしました。確かに『スナック』というイメージは『女スパイ』のやり手の凄い女性のイメージを造るのにはふさわしいようです」

あの手この手で、なんとか一人の女性をおとしめようとする、これは自由に生きる女性への見せしめかもしれない。男性の力を借りなくても、一人で自由に楽しく生きる女性は、今の男社会にとっては見ざわりなのだろう。

独身、たびたびの海外渡航、飲食店経営、そうしたものがスパイ嫌疑を受けやすい、という印象が、どんなにか女性の生きかたを窮屈にするだろう。

変なことがいっぱい。良識ある目で、八尾さんの裁判にご注目ください。

連絡先 横浜市金沢区釜利谷町四二六六
石井荘 二一

八尾 恵
(え・田井亮子)

子ども中ども大ども

東京都練馬区

よいカティには
よい子ども

新井 祥子(28歳)

いよいよ、私のコドモも幼稚園児である。気が重い。別に、幼稚園で泣いていないとか、お友達がいるだろうとか、そういうことを心配はしていない。幼稚園、というか、今のニホンの教育社会が要求しているコドモ像、同じく母親像に、私もコドモも応じられそうにないことが、ユウウツなのだ。応じられない、というより、応じたくないのである。

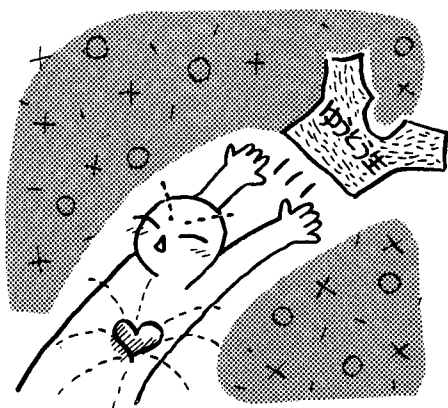
幼稚園だ、学校の先生方は、判で押したみたいに「良いお子さんを育てるには家庭が大切です」とおっしゃる。私が現役のコドモのころから、全く変わらない。まあ確かに、先日の女子高生ドラム缶殺人みたいな事件を、自分のコドモがおこしたら……と思うとゾッするから、誰しも、自分の子はマトモでいてほしい……と願うのではあるが。

でも、「良いお子さん」ってどういうコ

ドモなのだろう。今のニホンの教育になじむ子、ということじゃないの？　そして、「良い家庭」というのは、そういう子をつくることのできる家庭。何だか変です。最初にモデルがあって、それに生きた人間や、家庭という人間関係を近づけなくちゃいけないなんて。

私は、昔、「よい子」でした。私のうちは「理想的な家庭」と近所で評判でした。マジメなおとうさん、専業主婦で家事をしっかりこなすおかあさん、勉強をしっかりやる姉弟。でも、私は苦しかった。「良い家庭」なんだから、良い子でいなくちゃ、と先生や周囲の大人が無言で要求してくることへのプレッシャー。良い子を演じ続けて、疲れ果てて、登校拒否になりかかったとき、「こんなに皆が一生懸命やっているのに……」と周囲から言われて、本当に生きているのが嫌になったっけ。

私は、自分の子をどんな子にしたいか、と訊かれると、いつも「私がある日突然、バタッと死んでも、どうにかやって行ける子」と答えるのである。「良い家庭」がなくちゃってゆけない「良い子」なんて、



企業戦士と銃後の妻みたいで気色悪いじゃないか。英才教育ガンガンの賢い子もいいけど、一家が破産して、学校に行くお金がなくなつて、進学校でただひとり就職（私の友人に本当にこういうケースがあった）、となつてもクサらないでいられるか。

ところで、私の夫は、今度転職することになり、サラリーが半分近くになる予定である。三DKマンションの杜宅と、会社から貸与されている車と、副工場長の座を捨て、東京で高い家賃と安いサラリーにあえぐのだ。周囲はあきれ果て、近所の夫人達

は、自分の夫が真似をしたりすると困る、と無言で語り、私ひとりケラケラ笑っている。「良い家庭」をこわされた私のコードモが可哀想、と言う人もいる。

でも私は思う。「良い家庭」の見返りとして「良い子」を要求されるよりも、親も自分の考えで生きてるんだから、子どもも自分で何をしたいのか、考える自由があるほうが、ずっと幸せなんじゃないかと。

ちなみに、夫の新しい仕事は、重度身障児（者）の収容施設の職員で、ニホンの教育社会が要求する「良い子」とは違い、味のある人間達の相手だそうだ。

自立する女の陰に

奈良県天理市

岡井美代子（64歳）

終戦直後、復員した夫と結ばれ、新婚の甘さもないままに、三人の娘の母となった。農家の両親に仕え、子育てと家業に追われ、自分のない暮らしにあきたらぬ悶々とした日々だった。

三人の娘にはこんな淋しい女の暮らしが

ら抜け出して、自分を發揮出来る女性にと、それぞれ好きな道に進むことを勧めた。大学を卒業し、長女は建築デザイナーに、次女は音楽教師に、三女は女医にそれぞれ巣立ち、結婚した。

「お嬢さん達皆立派になられて、いい主人に恵まれ、貴女は幸せね」と羨ましがられているが、娘達がはばたいて私は幸せになつたのであろうか。

女性が家庭を持ちつつ、男性と同じように職に就くとき、子育ては重大問題だ。

長女は関東にいる、三人の孫は保育園へ預け、夫の手助けとともに仕事を続けていく。夜の電話には「ママもパパもおルス、ボクタチダケ」と、孫三人の留守番の声がしていた。近かつたらきつと、私へ援助の手を求めてきたに違いない。

次女は婿を迎えて我が家の姓を継ぎ同居。音楽専科の教員である。「小学校は毎日だから困るけど、レッスンのときだけなら見てあげる」と保育園も近くになかったころ、私は娘の出産を契機に、学校を辞めるようになった。次女は自宅でピアノ教師を始め、孫は私が見ることになった。その子

も今はもう高校生。下の子も小四。内孫二人はすっかり私の手から離れていったのだ
が……。

今は三女の孫。近くの病院勤務の娘は大
阪へ勤務する医師と結婚した。お互いに朝
は早く、夜も遅い。夫婦の時間はすれ違い
も多く、子育てに私の手助けを求めるべく、
近くのマンションに引っ越してきた。朝七
時車の音とともに、三歳と十か月の二人の
孫を我が家へ連れてくる。寝呆け眼ののだ
をこねる孫達に、私は朝食を食べさせ、連
絡帳へメモ、着替えをさせ、九時までに二
人別々の保育園へ送っていく。泣いたり、
暴れたり、手のかかる孫との触れ合いは体
力が必要。

午後四時半ともなればまた二人を迎えに、
子供シートにくくりつけ、安全運転に気を
配り、帰宅してからが戦争だ。夕食と風呂
に入れたり、出したり、めまぐるしく孫を
相手の刻を過ごし、孫も私もママの帰りを
待ちわびつつ一日が暮れてゆく。

八時ごろ帰る娘は、眠くなった子供達を
車に乗せてマンションへ……。熱が出れば、
保育園は預かってくれない。当然私の予定

はこわされ、孫を抱く日が続く。娘の当直
の夜は母子で我が家へ泊まる。ポケットベ
ルが鳴れば、急患の対応に夜でも出勤する
娘に代わって孫の添寝を余儀なくされ、一
体誰の子かしらと思うことしきり。

自分のしたいことのできる女の人生をと
希望して娘達を独立させたつが、こんな形
で回ってこようとは思ってもよらなかった。
優雅な老後はいつのことやら。

とにかくこの幼子達が一人で行動できる
まで、老化する身にむち打って達者でいな
ければと願っている。娘は老化防止の親孝
行と思っているのでは……。男女均等に職
を持つ若い女性が増えつつあるとき、育児
は社会的に深刻な問題になっていくのでは
ないだろうか。

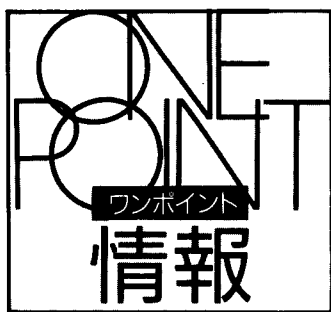


(え・角南有加)

★わいふバックナンバー

(各号特集テーマ)

- 176号 わたしの恋愛体験
 - 184号 私の災害体験
 - 186号 お医者さんを診断する
 - 208号 わが子の留学
 - 209号 わがふるさとと現代史
 - 211号 病院に入ってみたら
 - 213号 私の夫の労働人生
 - 214号 わが子の成績
 - 216号 海外赴任——その光と影
 - 217号 大人が学ぶとき
 - 218号 開花する性——私の場合
 - 219号 家の子は保育園育ち
- 定価二一八号までは四五〇円、二
一九号より四六〇円。
送料は実費負担でお願い致します。
- ☎〇三一二六〇一四七七・四七七三



●夫の道楽●

よみがえった ピアノ

神奈川県横浜市

酒井智恵子

年金生活に入って二年目、六十六歳になる夫にこの四月から趣味がまた一つ増えた。

我が家には二十年前に買ったピアノがある。娘にねだられて買った当座はよく弾かれたものだったが、長ずるにつれ、ヤレ陸上クラブだ、試験勉強しなくちゃと、だんだん遠のき、高校生になるとピアノのレッスンと

高校生活は両立しないなど言い出し、チェルニーを最後に見向きもしなくなった。せっかく大変な思いでローンで買ったのにと思わないでもなかったが、これも仕方がないことと諦めた。

以来、ピアノは無用の長物と化して洋間に鎮座していた。このピアノの音が出るのは二年に一回頼む調律のときだけである。弾かなくても調律だけはやらなくてはと律気に頼んでいたから……。

年の初め、夫は黙りこんでいるピアノを横目で見て言った。
「俺がピアノを習う」

さてどこで習おうかということになった。夫は巷にある音楽教室に行くのは嫌だという。小さな子と一緒に尻ごみの様子。私は考えてハタとあることを思いついた。それは私の教会でオルガニストの奉仕をしているAさんがピアノの教師といっ

か聞いたことだった。もしかして引き受けてくれるかも知れないと、おそろおそろ尋ねた。お忙しい先生という噂なのに、意外にも色良い返事が返ってきた。月二回出張教授で月謝は四千円でいいという。願ってもないことと喜んだ。

夫はもともと音楽好き、歌もうまいし、その昔、尺八もふいたことがある。現在は観世流の謡にこっている。新婚当時は何もない空っぽの我が家に夫の持ってきたギターだけが光っていた。会社から帰るとギターをかき鳴らし古賀メロディーを口ずさんでいた。

先生の日程に組み入れていただいた四月から、夫は生まれて初めてピアノの前に座った。先生はこれから音大を受験するわけではないでしょうし、お楽しみですから、こちらも気が楽ですという。先ずは童謡から入り

ましようかと「ピアノ フォルテ(1)」という本を持ってきて下さった。これ一冊マスターしたら次はバイエルですという。

さすがに小さいお子さんを教えているだけあってはめるのが得意。「お年の割に左手がよく動きますね」とか「お上手。お上手」と繰り返す。先日など「来年の今ごろは簡単な名曲がひけます」と励ました。白髪頭の夫は若い女性におだてられ、満更でもなさそう。

肩に力を入れボロン、ボロンと弾く。現在は「ロンドン橋」の猛練習だ。

つい先日夫は「このごろ肩こりがする」と言い出した。「どうしたのかしら」と私。肩こりを訴えてから暫くして、何かの会合で友人にあい、ピアノをひくと肩がこるときいてきた。「肩こりや首が痛いのはピアノのせいダー」と言い出した。頭の

体操、心の安らぎになるピアノのレッスン、総てにいいとは限らない。肩が痛いという夫に私は「トントンお肩を叩きましょう」と歌いながら夫の肩に手をかけた。

いろいろあるが やはり「仕事」かな?

埼玉県所沢市

花岡由美子

道楽とくれば「飲む、打つ、買う」が代表格のようである。仕事人間の夫は「飲む」については相当なもので、若いころからの飲み代を換算すれば蔵が建ちそうだが、「これは仕事のための必要経費だ」とのたまひ、「打つ、買うをやらない俺は本当に良い夫だぞ。ありがたく思え」と感謝を要求する夫でもある。

趣味は多く、民謡、三味線、アコーデオンなどを少々たしな

む。わが家の居間にはズラッと民謡のカセットが並び、三味線が二本、ヤマハとエクセルシャー（中古）のアコーデオンが二台置いてある。

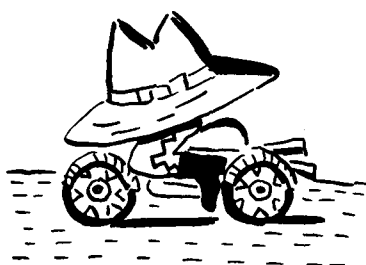
だが何といつても、一番の道楽は「オートバイ」であろう。オートバイは車と違い小回りがきく上に、乗った者にしか分からない魅力があるらしい。夫は五十ccからスタートして百二十五cc、二百五十cc、四百ccと乗ってきており、私はそれで充分だと思っていた。

ところがなにを血迷ったか、ナナハン免許に挑戦したいと言いつ出したのである。ワーカホリックの夫にわりあい時間の余裕があったころのこと。四十二歳だった。私は呆れたが、夫の「こんな機会は今しかない。これから仕事は忙しくなる一方だから」の言葉に折れた。

どうも夫はオートバイ歴十六

年の経験で、ナナハン免許も簡単に手に入ると思っていたらしい。だが音に聞くナナハン免許の難しさ!

そうは問屋がおろさなかった。一度、二度と受験に失敗するにつれて真剣さが増し、五回目で合格したときは本当に嬉しそう



だった。

さて、合格すれば乗りたくなるのが当然の心理である。だから哀願口調で「お母さん」（私のこと）と呼び掛けられたとき

には、ピンときた。「酒を月、水、金と週三日抜いて節約するからナナハン買っていいか?」と言う。「へエ殊勝なことを言うじゃないの。アルコール中毒一歩手前の体で……」と思いつつ、職場で少々の地位もある夫が、幼児が物をねだるとき物言いをするのがおかしかった。

かくして、ナナハン講習代と受験料、ナナハン（中古）購入に保険料でボーナスの大半が消えた。むろん酒を抜く件は、一週間と守れなかった。数日は言い訳をして飲んでいたが、すぐに口実もなくなくなり、今はあんなことを言ったのを忘れたふうである。おじさんライダーは今、所沢から赤坂六本木まで一時間二十分の距離をナナハンで通勤している。

夫の道楽話は以上で終了の予定だったが、これだけではどうも片手落ちのような気がしてな

らない。というのも、わが家の真南の土地四十坪が売り出されたとき、泣く泣く多大のローンを組んで購入した土地を夫は

「土いじりが好きだ」の理由で畑にしてしまったのである。しかし日曜大工ならぬ日曜農夫では、せっかくの日曜日に雨が降ったり、付き合いゴルフが入ったりすると目の前の畑がどうなるかは分かり切ったこと。私がやっている。

地価高騰率日本一の所沢で、銀行ローンにあえぎつつ、固定資産税四万弱払っている宅地を畑にするのは贅沢の極みであろう。夏はナス、キウリ、トマトばかり食べ、冬は菜っ葉ばかり食べ、外食はもとよりレジャーもホビーも全て我慢する生活をしながら……である。

仕事しか念頭がない夫は、家計を二の次にして好きなことをしながらも「ギャンブルも女遊

びもしないで、こんな健全な趣味のある夫を持ってお前は幸せだろう」と言うのである。

しかし、「民謡」「三味線」「アコードオン」に共通点はあるそうだが「オートバイ」、さらに「畑」とは夫の頭の中はどうなっているのだろうか……。何よりも一番の趣味は「仕事」ときているのだからなおさらである。

サークル活動も趣味ならば

大阪府高槻市

内海 庸子(66歳)

夫の無口はもう救い難い。若いころは「年とれば喋るようになるから」と仲人の伯母はひたすら私を慰めてくれた。その伯母も逝って十五年。七十五歳になった夫は今も旧態依然で、できるなら伯母にもう一度愚痴が言いたい。

八年前、その夫が二度の勤め



を終える日の近づくにつれて、終日もの言わぬ人と顔を合わせると、一体私は彼にどんな態度がとれるかと、思えば我ながら全く自信がなかった。

夫にも確かに謡曲という三十年来の趣味はあったが、しかしそれも定年後の無聊を埋めてくれるほどのものではないであろう。さていよいよその日がきて、

始めのうちこそ「長年ご苦労様」とねぎらう気持ちでサービスタにつとめていた私も、もう限界と思えてきたころ、外出していた夫が弾んだ様子で帰ってきた。

「富田^{とんだ}(高槻市)の公民館で珍しい人に会ってねえ。なに、会ったのは今日で二度目なんだが、建築科の七年先輩で、^{おおい}大家さん(曾ての会社の上司)と同期の人なんだよ」

夫は一か月前講演を聞きにいったこの文化サークルに入会することにした。たまたまそのとき受付をして下さったのが大学の先輩だったというのだ。口下手な夫が初対面のその方と、どんなきつかけからそんな話になったのかは知らないが、その先輩(中西氏)はサークルの副会長をされていて、病気の会長のあとを引き受けることになっていたらしい。

「実は副会長が決まらなくて困っているが、内海さん、私に協力してくれませんか」そこで、「仕方なく引き受けてきたよ」というのである。入会したばかり、まして人付き合いも、人の

気持ちを読むことも、この上なく下手な夫には、全く相応しくないと思ったのに、案に相違して気楽にやり始めた。それは電話の応答の様子をみていてもわかる。比較的達筆の夫は、諸先生への講演の依頼状や、お礼状などは一手に引き受けていたようだが、中西氏が入退院を繰り返されるようになった昨今、いまや夫は八年前の中西氏と同じ立場になっているようである。

何はともあれ、思いがけない夫とサークルとの出会いは、ひとり彼のためだけではなく、私にとっても全く幸いであった。彼はまた、二年前から大阪の朝日カルチャー水彩画教室にも入会している。これは以前からの夫の望みであったそうだ。日によつては上手、下手の落差の大きいのも面白いが、時には「へー、いいやないのー」というような絵も描いてきて、今や私の

楽しみにもなってきた。

今日も月二回の謡曲の同好会に出かける夫を見送りながら、私もここで会話不足への不満をすてて、この生活の一日も長からんことを願いつつ、健康な老いへむけての日々をかみしめながら歩いていくと思ったのである。

サッカー選手 現役からコーチへ

岐阜県可児市

鶴留 百合 (38歳)

大手機械部品メーカーへ勤務する私の事務所へ研修生がやってきました。ボサボサ頭の、まだ坊や坊やした彼が所属のEDP室でプログラマーになったころ、どこをどう気に入ったのか私に猛アタックしてきました。

学生時代からのサッカーを会社のクラブ活動でも続け、休日には夢中になってボールを追って

います。日曜日の試合には私の座席まで確保しておくため、車に同乗して応援に行かざるを得ません。当然、二人の仲は約束済みと受け取られ、他のどの男性からもデートの誘いがかかりません。止むを得ず(?)結婚するに至りました。

都合の良いときだけ応援に行けばよかったのが、事情が違ってきました。日曜日の朝ぐらいゆっくりしたいのに「試合がある」とソクサと外出してしま

います。長男が生後四か月で大学病院へ入院し、頭部手術の日も試合に行ってしまう、電話すらかけてきません。このときばかりは夫とサッカーを心底恨みました。

「もう走れないのだから後輩に譲ったら」と進言しても耳を貸さず、洗濯物の山を抱えて「おみやげ!」とひとりご満悦。全く、サッカーときたら台風も雷

もないのですから。

数年後、少年サッカー熱が盛り上がり上がってきました。小学四年から入部できるスポーツ少年団。サッカー希望者は多いのですが、指導者が足りず、会社のチームへ依頼が来しました。そろそろ走れなくなったのを自覚し、今後の活動に苦慮していたときです。「断わり切れなくて」などと言いつつ、本心は喜んで引き受けました。

長男が四年になると有無を言わさず入部させて毎日曜日の朝、車に乗せて登校します。夫ひとりで手を焼いているのに、この上息子まで足くせが悪くなったかどうか。なにしろ、足元にあるものをすぐに蹴ってしまうのですから。それでも、自分のことばかりにかまけて子供の相手などしたことのない父親が一緒に連れていってくれるのだから喜んでいました。

長男が小学校を卒業してもコーチは留年のまま。娘に「女子のチームを作ろうよ」と持ちかけては「イーヤツ」と断わられているありさま。

「子供なんか嫌いだ」と言っているばかりでなく、夫がよく続くものだと、半ばあきれて眺めています。

私の仕事の都合も関係して、我が家は一月二日以外、年中朝七時には食卓に家族の顔が揃います。ああ、この健康家族!!

繁栄を続ける 鉄道

神奈川県横浜市

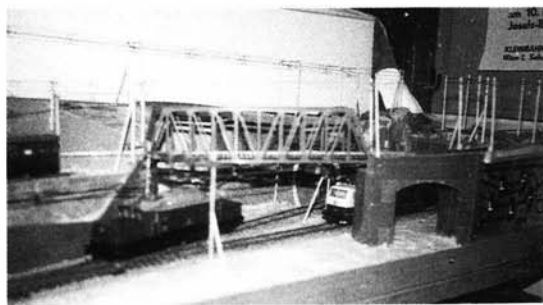
原 眞智子

「夫の道楽」と聞いているのは黙ってられない。他人様に話したいのがあるのだ。鉄道模型である。話は二十数年前に遡る。二児を擁して共働き、住まいは夫の家族の住む庭先の六畳だった。

その窓の敷居に沿って彼は線路を敷設した。ほんの一メートル余りの距離を蒸気機関車の模型が走るのだ。H〇というゲージで、実物の八十分の一くらい。私にとってはそれが始まりだった(彼自身は幼少のころから親しんでいて、いつか本格的にと思っていた由)。

以来機関車は蒸気、ディーゼル、電気の別なく数を増した。完成品を買う場合もあるし、キットとして車輪や真鍮板が揃ったセットを買い、自分で組み立て、塗装する場合もあった。客車も同様で、完成した品の他に金属や木材から切り出し細部に凝ったりして塗り上げることもあった。数が多くなると収納が問題だった。市販のレコードケースを区切ったり、自分で奥行き浅い棚を作ったりした。普通事務用に使うプラスチックの引き出しもたくさん買って積み重ねて使っている。

走らせる場所もあれこれと試みた。押し入れの中段をそっくり利用したり、長い棚板に取り



つけた。現在の百五十cm×四十cmくらい、高さも四十センチほどで(鉄橋や立体交差があるし、架線も張ってあるのだ)夫のホビー室(になってし

まった)に置いてある。機関車は各種とりまぜ五、六十輛とか、客車は数えたことがないらしい。

このゲージは片手で摘まみ上げられる程度のもだが、この他にまだあるのだ。両手で抱え上げるくらいのも、庭園鉄道と称するのが。線路は実際の池をめぐって七、八メートルというところか。彼は休日には草むしりをしたり、道床に小石を入れ、つき固めたりして保守に努め、運転を楽しんでいる。

実はこの路線に間もなく新しい機関車が二輛到着することになっている。二か月ほど前、彼が西ドイツに出張したとき、滞在の最後の日に模型専門店を見つけたのだ。何しろこのゲージは西ドイツ製品なのだから安いし、機種も揃っている。傍で私はそのかした。「たびたび来るところじゃないわよ。欲しか

「買った買ったら」彼はそこで二輛買ひ、船便で送るようにしてもらった。

因みに二輛で円に換算して七、八万円、同じ品を日本で入手しようとするに二十万円をくだらないという。それがもう税関まで来ていると通知があったところだ。新しい機関車が来るのだから、彼の鉄道には当分斜陽はないのだらう。

ゴルフのおかげで夫婦別行動

東京都三鷹市
阿部 小枝

夫の道楽はゴルフ、ゴルフに凝りはじめて三十年以上経つ。

習いはじめはその道のプロについて練習場に通ひ、「お客さん、もう少し若いうちからやんなさったらプロになれた」とおだてられたのが運のつき。

一年もしないうちにコースに

出てメンバーとなり、競技会に参加するたび優勝カップを持って帰宅したものだけれど、妻には嬉しくもなんともなく、やっとの思いでおめでとうを言ったものだった。何せ結婚早々からゴルフウイダーで、初めての子どもが産まれるという当日だった、「では頑張れよ」と言っただけでゴルフに行った夫である。三人目の子が二歳ぐらいのころだった。日曜の朝になって夫は、「今日のゴルフはハーフで切りあげるから、帰ったら子供たちと遊びに行くぞ」と思いがけないことを言っただけで、上の子二人は喜んで、お父さんと遊園地へ行くんだと、社宅内を触れて回った。

だが一旦帰宅した夫は、疲れのなんのと言ひ出し、怒った妻は日ごろのうっぶんを洗いざらいぶちまけ、「一番目の娘はよくうすを知って泣き叫んだっけ。

この見舞で夫は重い腰をあげ出かけてくれたのだが、心配りを知らない夫はただ子供といふだけの有りさまで、楽しくも面白くない遊園地だった。

以後の家族旅行にゴルフはついて回り、海で泳ぐのは母と子で夫はゴルフ。観光地へ行っても夫はその地のゴルフへと変わった。思えばよくぞ子供たちは素直に果立ってくれたものだし、妻も、離婚の仕方教えますなど目には見つつ、我慢できたのはゴルフへの支出は総て本人の役員手当その他で賄ひ、給料全額を渡してくれた救いだらう。

目下ハンデキャップ十三を保つ。四十万余で手に入れたゴルフ会員権はいまウン千万円だと盛んにチラシが教えてくれる。近く還暦を迎える夫だが、同業者、社内、友人などのコンペでは、三つ四つハンデを落としてプレイするそうだが、賞品を

さらってくる夫ではある。

最近の賞品は商品券が多い。妻はもっぱら中元、歳暮の発送に利用して重宝し、近年はゴルフへの恨みが薄れていることに気づく。飾り棚にぎっしり並ぶ優勝カップを磨いてくれた子供たちもいないが、ゴルフ道楽にもかげりが出てきた。

ゴルフのプレイ中に死ぬのが理想よ、と豪語するわりには当日がどしや降りの雨だったりと迷っている。うっかり先走って悪い空模様を告げようものならそれはいいやみかと言った昔を思い出す。夫婦別行動がすっかり定着したいま、妻にもそれなりのスケジュールがあるから、夫が在宅のまま妻は外出する。夫の道楽は身上をつぶすものでもなかったことに安堵しながら、二人で始まった生活が案外新鮮なのに気づき、人間が丸くなって好ましいなどと伝えると、

意地が薄れたのだと夫は嘆いてみせた。

何といてもレコードは必ず

京都市西京区

阿部 史子

夫は、まだ三十代後半だが、今から定年後の生活を楽しみにしている。思いきりレコードを聴き、レコード店巡りをし、好きなだけコンサートに行ける日々が来ることを期待しているからである。

一日中、マラー全集を聴いてみたいと常々言っている。ベートベン、ブルックナー、スメタナ、ドボルジャーク、モーツァルト等彼らの心情に思いを寄せ陶酔しきって聴いている。そんなとき、私が話しかけても全く気がつかない。レコードカタログを詳細にみて一日を過ごすことも非常に楽しい様子である。

夫が家にいるとき（わりと家にいることが多い）は、朝、昼、夜、ともに適当な音楽をBGにして家族と食事をする。家で仕事をするとともに、仕事に邪魔にならないレコードをかけている。音楽にもいろいろあるようであ

し、ピアノもそもそも夫が弾くために購入したものである。友人とトリオを組んで合奏も楽しむに至っている。

経済的にはどのくらいかっているか私は知らない。レコードだけなら月に二、三万円というところだろうか。アンプとかスピーカーとか次々に買い替えるのでそれにはかなりかかっているだろう。

LPレコード、CDレコードのみならず、VHD、ビデオ（VHS、ベータ）もあり、これらソフトの上にハード（プレーヤー、アンプ、スピーカー等）があるので、狭い我が家にそれらをいかに置くか、目下のところ、主婦としての私の最大の悩みである。「病書言に入る」という言葉があるが、夫の場合は徐々にそれに近くなってきている。聴くだけではなく自分も演奏するといふのである。ギター、チャランゴ、バラライカも買った

夫は普通のサラリーマンより仕事の関係からも趣味の上からも家にいる時間は長いが、自分のことは自分でするので「亭主達者で留守が良い」という感覚は私には全くない。定年後の粗大ゴミ化も全く心配していない。私自身は音楽については残念ながら大して興味はなく、たまには彼とコンサートに行ったり、レコードを聴きたいと思う程度である。私は外出が好きなので「亭主達者で留守番が良い」と

いう生活が実現すると期待している。

鮎釣り一筋

北海道札幌市

加藤 君子（46歳）

結婚してすぐ始めたので、もう二十年近く続いている。当時は名古屋市に住んでいた。六月の解禁近くになると、そろそろ釣り仕度を始める。釣り専門なので、おとり用の鮎を二、三匹（当時一匹三百円〜五百円ぐらい）買い、入川料（年券三千元〜五千円ぐらい）を払い一日中川に入ってねばっても、マイナス一匹というときもあった。マイナスというのは買ったおとりの鮎を逃がしてしまったのだ。年ごとに腕をあげ、釣り道具も既製品では物足りなく、自分なりに工夫した物を作っていた。釣りシーズンは八月中旬ごろ



までがピークで、その後は漁師の網が入るので、友釣りができなくなる。その間、残された私と幼い子供二人は近所の市営プール通いとなる。

だから毎年欠かさず行っている夏の家族旅行はいつも八月下旬になってしまった。

夫のイキイキ、キラキラしている姿を見ていると文句もいえず、二、三年おきに買い替える

高価（五万円～十五万円）な釣り竿も道楽にしては安い物と思

い、美味しい天然の鮎の塩焼きや赤煮（煮付け）がたらくく食べられるので、私もこの時期は

楽しみである。川によって鮎の味が違うのを知ったのも、夫の釣りのおかげと感謝している。

八年前、大阪へ転動になったときも、朝早く二食分のおにぎりと水筒を持って、毎休日には

出かけた。鮎釣りは天候の影響をとてもらうるので、休暇を取ったときなど、しきりに雨の降

り具合を気にしていた。また、いろんな川に挑戦したが、清流長良川の流れる岐阜市の金華山

の麓に生まれ育った夫は、どうしても岐阜の川が一番良いように、名神高速をとって大阪から通った。

一昨年、札幌へ来てからは北海道唯一の鮎釣り場、余市の川へ行って七、八匹釣ってきたが、

その味の悪さ、川の姿の悪さに辟易していた。

今年は大阪出張の帰り、休暇を取って行きつけの岐阜市から車で一時間ほどのところにある

板取川へ三泊の予定で出かけた。宅急便とレンタカーということも気楽にできるようになっ

た。常宿を久し振りに訪れると、満室にもかかわらず、私用の部屋を空けてくれたそうで、感動的な対面だったようだ。生憎の雨天で釣果は今一つではあったが、美しい板取川に入ることができ、また近くの河原でライトを消した車のウインカーに寄ってくるホテルの群れを見ることができ、感激して帰ってきた。

板取川の近くに住んで釣り三昧をしたいという夫の定年後の夢に、私は賛成しかねるが、ゴルフに比べれば安く楽しめ、足

腰が弱まるまで続けるだろうと思う。

ああ、ラグビー人生 ひた走り

千葉県船橋市

大味 恵子

夫、三十七歳。根っからのラグビーの虫である。高校時代から、もうかれこれ二十年以上も楕円のボールを追ってきた。学生時代はもちろんのこと、社会人になってからも、勤務地の地元のチームでプレイを続けてきた。私達が知り合ったのもラグビーの試合のときだったし、新婚旅行もちょうど全日本チームがフランス遠征した時期に合わせ、現地まで応援に行ったりした。

名古屋で過ごした新婚時代は、休日という休日はほとんど試合のためあちこちのグラウンド巡りで埋めつくされてしまった。

「ああ、その気になれば、名古屋周辺はいくらでも良い行楽地があるのに……」と、幾度ばやいたことか。

福岡のクラブチームにいたとき、市内の公園で週二回の練習が夜七時から行なわれていた。周囲二キロの大きな池があるこの公園は、トレーニングには格好の場所であった。冬場はかなり冷え込むのだが、池の周りをタイムを競いながら走り込む。冬の寒空の下、ごつい男達のデッドヒートがここに繰り広げられるのだった。

「やったぞ、今日はY君に勝ったぞ」

帰宅した夫の第一声がこれだ。その嬉しそうな顔はまるで子供のようだった。聞いているほうは、呆れるやら、感心するやら。練習に集まる顔ぶれは大体決まっているらしい。メンバーの職業はさまざまであるが、ただだ

だラグビーをこよなく愛する気持ちだが、彼らの足を練習場へと向かわせるのだ。

子供が増えるにつれて、私も



以前のようにたびたびは応援に行けなくなる。が、夫は相変わらず毎日曜、グラランドへ出かけていく。それでもちよっぴり気は遣っているらしく、
「悪いね。帰りに買い物して来ようか?」

「結構よ。あなたの帰りがなんか待っていたら、何時になるかわ

からないもの。ごゆっくりどうぞ」

と、皮肉たっぷりに答えながら、「この埋め合わせは、いつかしてもらうわ」

と、心の中で呟く。

そんな夫が、昨年から体をこわした。そして、今年の初め、心臓をはがす手術を受けるに至った。当初、もはや運動は無理だろうと言われた。夫にとって、これ以上酷なことはないものだから、周囲の者は心を痛めていたが、幸い術後の経過は良好で、入院中から、病院の階段を利用してのトレーニングを開始して、医者も驚かせたりした。果たして、再びラグビーなどできるかどうかはわからないが、少なくとも、夫はやる気である。年齢相応のチームに入りながら、多分、一生ラグビーとの縁は切れないだろう。

「これほど、金のかからない道

楽はないぞ」

と言う夫は、今日も近くの小学校のグラランドで、黙々と自主トレーニングをしている。

ある日の 趣味談義

東京都大田区

荒井 照子

妻「ね、あなたの趣味ってやっぱり映画を見ることかしらね。それも平日の雨の日に古い映画館で」

夫「うーん、見るといっても眠るほうが多いな。いつも睡眠不足だし、疲れてるし、趣味っていえるかな」

妻「でも、楽しみといえば、少しアルコールをいれて、それしかないもんね。かわいそうみたい」

夫「そうだな。若いときは、一日に何館も映画館をはしごして、何本も見たって」

H.ウェインライト他
今村仁司他訳

断片を超えて

フェミニズムと社会主義 英国女性運動の現状と思想。2987円 310

S.ファー／賀谷恵美子訳 日本の女性活動家

性役割との葛藤に悩みつつ政治行動を模索する女たち。2781円 260

金井淑子 ポストモダン・フェミニズム

差異と女性 女性運動の現場とフェミニズムを架橋。2060円 260

C.トマリン／小池和子訳 メアリ・ウルストンク ラフトの生と死 全2巻

最初期フェミニズムの旗手の生涯と時代を精緻に描く。各2060円 260

リン・シーガル／織田元子訳 未来は女のものが

80年代理論の批判を通しフェミニズムの発展をめざす。3820円 310

大沼和加子・佐藤陽子

家で死ぬ

柳原病院における在宅老人看護の10年 朝日新聞で絶賛。2270円 260

* 定価は消費税込みです。



勁草書房

東京都文京区後楽2-23-15
☎ 814-6861 (獨) 東京5-175253

妻「そうそう、筋とかセリフをよく覚えてるわね。テレビの再映見ながら先に言っちゃって子供達にうるさがられてるけど」
夫「こんなに眠ってしまうようになったのはいつごろかな。やっぱり仕事が忙しい上に人を使えるほどもうからないし、子供達も二人とも大学生で今が一番お金がかかるし、のんびり映画なんか楽しんでられないからね」
妻「そうね、家が狭いから子供達がけっこう夜遅くまで起きてると熟睡できないものね。」

でも久美は来年は卒業するし、有紀もあと三年ちょっとだから、もうすこしよ。そしたら二人でロードショーでも行こうか」
夫「いいね。でも一人で誰にも束縛されないでいるのもいいもんだよ。前はおれが出るとなんだかんだ文句言ってたけど」
妻「だって、お客さんは来るし、仕事はあるし、自分ばかりと思っただけ、来年はもう結婚二十五年だし、不器用な私だってけっこう一人で店番できるし、最近はずが降らなく

ても疲れてるなと思うと、ちょっと休んだらなんて言ってるじゃない、いい奥さんでしょ。ま、私も一人の時間がもてるというメリットも考えてだけだね」
夫「お金もかからないし、いい道楽だと思うよ。古い映画館がだんだんなくなっていくのはさびしいけどね」
妻「そうね、ロードショウをやるような所じゃいびきをかいて眠るなんてできないものね。けどもうあんまり若くないんだから、ふだんの日出るからと、日曜日はきちんと休ま

ないけど、そろそろ日曜日も休んで、ふつうの日も、時間があつたらふらっと出られるように仕事の調整したいね。それが自営業の気楽なところだから、二人共通の趣味も持ちたいわ。やっぱりロードショウめぐりかな」
ある日お互いに背中あわせで仕事をしながら夫の趣味についての対話です。雨の日出るとあるのはお客さんが少ないからです。
夫 五十三歳、妻 四十六歳
職業 クリーニング業

燃えている 四十八歳

奈良県生駒郡

高松 恭子(37歳)

夫の趣味はランニングである。高校時代から走り始め、かれこれ三十年になる。就職して高校教師になってからも生徒とともに走り、結婚してからも趣味の一つとして、十キロ程度のランニングは続いていた。

夫のマラソン人生が大きく変わったのは三十七歳のときである。初めてレースに出たのだ。そこで上位入賞を果たした夫は、上には上が、下には下があることを知った。人と競り合うことに限らない興味を覚えた夫は、次第に距離をのびし、練習に伴いタイムも向上した。十五キロ、二十キロ、三十キロ、そしていきつくところがフルマラソンである。一流選手にしか走

れないと思っていた四十二・一九五キロに四十一歳で初挑戦、三時間十四分で完走し、これが病み付きの始まりとなった。初マラソンから四年後には憧れのボストンマラソンに出場し、世界の一류選手にまじって、二時間五十三分台の好タイムで完走した。

このころになると他の趣味は影をひそめ、生活の中にマラソンが深く浸透してきた。年を経るに従って夫はますます若く、健康に輝き着実に力をつけていった。

この間、私はエネルギー源となる食事作りに精力を傾け、ウェアの洗濯に追われたが、マラソンウイードとなって、潑刺と走る夫をただ指をくわえて見ていたわけではない。ヨタヨタと走り始めたのである。水泳をやっていたものの、喘息という持病があり、走るのが大の苦手な

私には五百メートルがやっと。

しかし取り残されるのは、まっぴらという気持ちで、いやいやながら私を走らせ、気がつく

と二十キロ近く走れるようになっていた。

十三年前、千九百ccしかなかった私の肺活量は、今や四千ccを越え、医師も驚いている。これは夫のランニング熱の結構な副産物であった。

ランニングは意志さえあれば、いつでも、どこでもでき、度を過ぎなければ、きわめて健康的な趣味である。費用は靴代(年間二万円ほど)と、レースの参加料と旅費で、これは結構高くつくが、医療費に使うことを思えば安いものだと思えることにしている。

ふだんの生活は当然、規則正しくなり、ランニングを理由に煩わしい義理の交際は最小限にとどめることができる。またラ

ンニングを通して得た友人はその数、限りなく、多くの出会いは私達の人生を大変豊かなものにしてくれた。そして夫は何よりも教師として、人生もまたマラソンであることを、身をもって生徒に訴えられるというものである。

夫の目標は、まだまだ勝つこ



とであり、タイムを縮めることであるが、やがて限界を知るときが来るだろう。

そのときは私といっしょに、楽しんで走ってほしいものだと思っている。

(え・松本圭以子)

締め切り二〇二号室

再び職場へ

久しぶりにつけるキャップ（白帽）がうまく頭になじまず、中年肥りの体にしっくりしない白衣姿を、更衣室のロッカーのドアについた小さな鏡の中で私はしばらく眺めた。これまで口ずさむこともなかった「……看とりの道を生きたとき我が白帽に栄えあれ」と歌った看護学校の校歌のフレーズが想い浮かぶ。二十年の空白が嘘のように、白衣のぎこちなさとは裏腹に心はきっぱりと看護婦になっていた。自転車の乗り方を一度覚えると何十年経っても忘れないというが、それと似ているのかなと思える。

八時五十分までにタイムカードを押せばいいと言った総婦長の言葉通りに出勤してみると、三Fの広いナースステーションのセンターテーブルをかなり年配の七、八人の看護婦がぐるりと囲んで、夜勤者からの引き継ぎがすでに始

まっていた。

「……体温が四十度、呼吸は浅表性で三十二、脈拍は不整で百二十、血圧は上が八十で下は測定不能、四肢のチアノーゼが顕著、クーリングを続行、酸素を五リットルで流しています。当直医の指示でヴェノビリン1A、メチロン1Aを施行、体温は依然として下降せず、対光反射プラス、呼名反応はかすかに……」

夜勤看護婦は髪形も身だしなみも化粧も、昨日の四時半からの勤務者とは思えないほど整い、疲れた表情はまるで感じられない。何ときれいだろうと思う。張りのある声で重症者の容態、徘徊者、不眠者、不穏者と次々に細かい報告が続く。

淡々と続く患者の容態報告を聞きながら、今日から人の生死に直接関わるんだと言う決意が自分の中にだんだん現実味を帯びてくるのがわかる。不安はない。むしろ心地よい

神奈川 県川崎市 十字街 美恵

緊張感のようなものがみなぎり一言一言が心に畳み込まれてきた。二十年ぶりの初出勤で私が「浦島太郎」のような気持ちにならないのは、バイトにしてきた某医大のテープのリライトの仕事のお陰だとこのときははっきり感じた。こんなふうな役に立つとは思いがけないことであった。

立ちすくむ「処置」

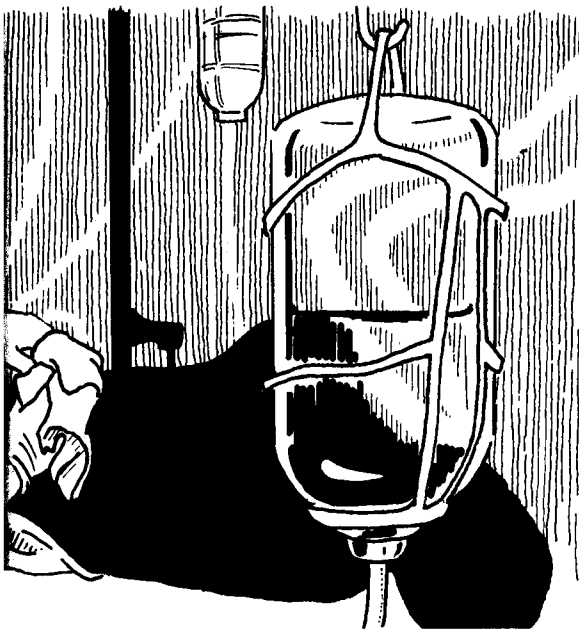
その日、私に与えられた役割は「処置」番で、半日パートだというSさんの後について病室を回ることになった。色白で目の大きいきはきはした感じのSさんは、私と同世代くらいだろうか。

私の職場となった3Fは全部で百床、すでに九十二床が埋まっている。十人部屋が十室、患者のネームプレートは隙間なく並んでいた。

ナースセンターの隣が三〇一号室、そこは重症部屋で、正真正銘、命の「締め切り」日をひたすら待つ場所である。「処置」当番に必要な物品一式を積み込んだキャスターつき回診台をガラガラと押して私たちは三〇一号室に入った。一歩足を踏み入れるなり、ぱっと私の目に飛び込んだのは、黄やオレンジ、白や無色透明、どす黒い血液など、大小さまざまなボトルからソーメンのように垂れている透明なビニール管であった。広い窓から差し込む太陽の光が管の途中の賑らみにボトリ、ボトリと滴下する水滴に反射して、キラキラと光る。

一人に五、六本は垂れているだろうか。ソーメンの束は男か女か、生きているか死んでいるかもよくわからないような老人たちの腕や首、足や股につながっていた。誰かわからないが、気管切開のカニューレかららしい笛のような音がヒューヒューと鳴っている。

私は立ちすくむような気持ちを振り払うのに必死だった。Sさんはそんな私の気持ちにお構いなく、最初の患者さんの「処置」にとりかかった。M、♀九十二歳とベットネームで知る。Sさんは手際良くMさんのおむつを外し、背中を軽く手前に起こした。それはイカの薫製にも似た、黒と



も茶とも紫ともつかない焦げたような色の一枚の板のようだった。フィルムで見たことのある平泉の藤原氏のミイラか、餓死寸前で横たわる黒い人々を連想させた。が、口からはアオー、アオーと意味不明の呻き声を発し、体は温かく確かに生きている人間に違いなかった。

そのMさんに、Sさんは「きれいにしましょうね」と声をかける。おむつをはずし、お尻に貼ってある絆創膏とガーゼを剥がすと腐敗臭がむっと鼻をついた。超特大のピザにも似た床ずれが仙骨を剥出しにし、膿がだらだらと流れ出た。

「ここに来る患者さんは、みんなでっかいジョクソウのお土産を持ってくるの、この人だってM医大からよ、看護学生の実習現場でジョクソウを作るなんて考えられないわよねえ」とSさんは力を込めて言う。

どろどろの膿だらけのピザの洞窟の中に、Sさんは生理的食塩水をシュッと勢い良く飛ばして膿を洗い流した。何回も何回も流した。Mさんのアオー、アオーはますます激しくなる。「わかった、わかった、もう終わりですよ」と言いながらピザの周りを消毒し、ホルムガーゼを当て、その上に何枚ものガーゼを重ね、さらに青梅綿で覆い、太い絆創膏で腰から腰までを止めた。

その間に付き添っている東北弁丸出しの六十年代前半と思われる家政婦は、手順を心得ているらしく、熱いお湯でタオルを絞り、薫製のような背中や首、腹のあたりまでを手



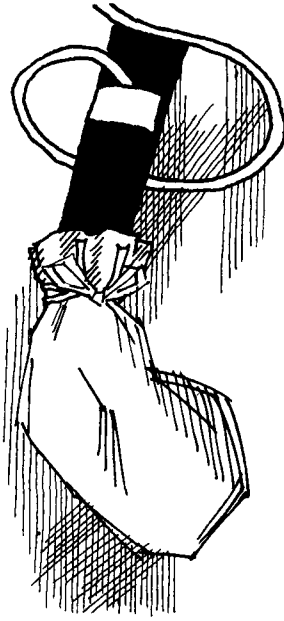
早に拭き、そこら中をビタビタと叩き（血の巡りをよくする）、おむつと病衣とシーツを一緒に取り替えた。その家政婦は青森からの出稼ぎで、なかなかよくやる部類だとSさんが教えてくれた。

こんどはボウコウに留置してあるバルン（管）の交換である。横向きのMさんは仰向きにされ、家政婦は無言で、今当てたばかりのおむつを外して骸骨のような錆び付いた股を力を入れて広げた。カーテンを引くことなど眼中にないらしい。Mさんの陰部はタコのように粘膜が肥厚し、尿道がボーンと開いたままボウコウまで達しているのが見える。

あらゆる恥部を曝けて、薫製のようになんとも生死を選択できない人間の末期が私の目の前にある。ソーメンのような数本の管の元を辿ると、高カロリー液、血液、抗生物質らしきものなどがぶらさがり、それらが三方活栓で一つの束となってMさんの鎖骨下静脈に刺し込まれて固定、二十四時間キープされていた。

ボウコウに入れた管が抜けないように、ボウコウ内部に水風船を作って固定しているのだが、その水を抜くと管はひとりでにするりと抜けた。Sさんは陰部を消毒してから予め準備してあった新しい管を入れて、再び水を入れて風船を作り、さあこれでよし、と管を引っ張って抜けないことを確かめる。

新しいバルンに交換が済むと、こんどはボウコウの洗浄である。消毒した専用のピストンに温くした生理的食塩水



を五十ccほど吸い上げ、今入れたばかりの管から静かに注入して、それからゆっくりと引く。はじめは血や膿の混じった悪臭の伴う混濁の尿が、それを数回繰り返しているうちにだんだん透明になっていく。「さあ、きれいになったわよ」とSさんは明るい声で言ったが、Mさんの虚ろな目はどこを見ているのか焦点は定まらず、アーオー、アーオーと呻き、グローブのような袋をかぶせられた（管を抜かないために）麻痺のない左手は、まるで宇宙遊泳をしている

るように空中に弧を描いている。

腐敗臭がしみつく

「さあア、こんどはMさんの一番嫌なことだわ」といいながらSさんは、Mさんの鼻に絆創膏で止めてある五十センチもあるビニール管をさっと抜いた。マーゲンチューブと呼ばれるこの管は口から食べ物を摂取できない人に、食べ物を流し込むためのものである。

家政婦はベッドを少し起こした。Sさんは私にやってみますかと言って、新しい消毒済みの管を手渡した。二十年前の五十二歳の復職、その初日を家政婦に気づかれるのも嫌で、私は覚悟を決めて進められるままに摂子と管を受け取った。管にキシロカインゼリー（麻酔と管を滑らかにする）をたっぷり塗ってMさんの鼻に入れようとすると、アーオー、アーオーは一層激しくなり、しきりに顔を動かす。

私はそのとき初めてMさんの顔を正面から見た。一本だけ残っている長く突き出した前歯で唇は切れ、開けたままのどの奥にはタンが絡み、皮膚は垂れ、この世のものとも思えない悲しげな表情に見える。一瞬、私の緊張は弛んだ。家を出るとき絶対に泣かないと決意してきたのに眼鏡が白くボーと霞んだ。からからになっているのどでツバを飲み込み、汗を拭く仕種で眼鏡を拭いた。それから透明なビニール管を持ち、Mさんの鼻にそりそりと押し込ん

だ。汗がどっと噴き出す。

意外にも一回で抵抗がなくなるりに入ってほっとしている私に、Sさんはもう道がついていて、間違って気管に入る心配はないのよと言った。念のため、聴診器をMさんの胃袋に当て、管の先から空気を十ccほど勢よく入れると、聴診器からはボンという空気の入る音がして、管が胃袋に入っていることが確認できてほっとする。

三〇一号室には、Mさんの他に、脳溢血後遺症二名、筋萎縮症一名、脳腫瘍術後一名、クモ膜下出血一名がいて、私たちは順番に「処置」をして回った。どの患者もMさんに勝るとも劣らぬ重症者である。

「家族は待ちくたびれているのよ、面会にもさっぱり……」
Sさんの言葉は家族への同情とも怒りとも聞こえる。一年ほどの入院で、自分の親を「錢喰い虫」と言った知人の切羽詰まった暮らしが重なり、気持ちには複雑だった。し

かし、こんな高齢の老人をどうして病院に連れてくるのか、もっと苦しまない締め切り日の迎え方があるのではないか、やり場のない憤りが渦を巻く。

その日、私の足は棒のようになり、家の玄関の敷段を登る足が上がりなかった。腰につけた万歩計が七千を指していることよりも、人間の死に方、死ぬことの大変さ——想像を超えた悲惨さに、気持ちの整理ができず、初出勤を案ずる夫や息子に説明する言葉もなかった。

Mさんの死んだ魚のような目と、呻き声や薫製のような肉体が払っても払っても喉から消えず、血液の腐敗臭のような臭いが体中に染みついて、風呂に入っていくら洗っても洗い流すことができなかった。

檜山節考のあの姥捨てが、残酷なのではなく、もしかしたら最も自然で幸せな人間の死に方ではなかったかと思えてくる。

(元・西田淑子)



介護費用保険

子どもからの自立への

ワンステップ

それが介護費用保険です

「ねたきり」「痴呆」による問題行動を
終身にわたってケアする「介護費用保険」
は時代のニーズによって生れました



くわしくは「わいふ」
あて電話で資料請求して下さい。
火災・自動車・海外旅行
など
損害保険のことは

わいふ指定代理店

東京海上火災保険株式会社
杉本保険事務所 杉本侑子
☎ 03-260-4771

生む 生めない

「一人っ子」は淋しい?

千葉縣市川市

犬伏 裕子

「お子さんお一人、そろそろ二人目は？」と、近ごろよくきかれます。またか、と思いつつも、「私、子育てに向いてないものですから、一人でたくさんなんです」と、答えることにしています。

社交辞令のやりとりですから、そのあと子供の数についての議論が始まるわけではなく「あら、それはお淋しいですわね」と、相手がしめくくってこの話はおしまいになります。

でも、実を言うと私は、娘が「一人っ子」だということに、かなりこだわっているのです。「子育てに向いてなくて云々」という決まり文句をとこなながら、

実はせわしく頭を働かせて、相手の表情の中にいろいろな思いを読み取ってしまっているのです。

「一人娘じゃ、甘やかしてわがままになるんじゃないのかしらね」「子供が一人だったら、子育ても楽だわ」「大きくなってから兄弟がいらないじゃ、淋しい思いをするわよ」

何だ何だ余計なお世話じゃないの、とこっそり毒づいてみても、本当は分かっているのです。これは、みんな私自身の心の声だということを。折りにふれて引っ張り出しては反すうしている、わたしの中の迷いの声なのだということを。

もともと私は、子供のいない生活で十分という考えでしたから、娘を出産したときは、さあ、これで誰にも文句は言わせないぞ、と思ったものです。夫に対しても、夫婦だけの気楽な暮らしを諦めた

のだから、一人娘だって上等じゃないのとふてぶてしく居直る気持ちさえありました。

とはいっても、一方では、一人っ子というのはやはり少数派だなあ、と不安を感じないわけにはいきませんでした。幼稚園時代の娘のクラスで、兄弟なしの子供は、三十二人中、娘を入れて三人だけでした。一割もいないのです。しかも、意識的に一人っ子を選んでいるのは、私一人だけのようでした。

どのお友達にも、妹やお姉ちゃんがない、いざとなると、兄弟ならではの連帯感を見せつけられる……。そのたびに、「どうせやすこは一人っ子ですよ」と淋しくつぶやいている娘。

そんな姿を見るにつけ、あるいは、さまざまな本を読み、話を聞くにつけ、やはりもう一人産むべきなのか、と心が揺

れ動きます。たとえ一人でも妹か弟がい
たら、娘にとってはどんなに幸せなこと
だろうと、三人兄弟で育った私は、悩ま
ます。それでも、どうしても二人目を産
む決心がつかないまま、今日まできてし
まいました。

「子供なしもよいけれど、やはり一度は
産んでみたい」、「一人でも子供がいれば、
周りからうるさく言われることもないだ
ろう」などという大人の都合で子供を持
ったことが、そもそも間違いだったのか
も知れません。つくづく、私は自分中心
の人間だと思います。子供のことを考え
るより、自分自身の思惑を優先させてし
まっているのですから。

夫とすったもんだした挙げ句、今年の
四月、やっとの思いで再就職——といっ
てもアルバイトですが——にこぎつけた
とき、まず実感したのは、「ああ、子供
が一人でよかった」ということでした。
娘は大きくなる一方ですから、少なくと
も今後、子供を理由に私が家に引き戻さ
れることはなくなるはずです。もし二番
目の子供がいたとしたら、あと三、四年

は子育てに追われる日々が続いたでし
う。やはり、私の選択は間違っていたな
かったと、自分勝手なことを思ってしまう
のです。

今や「二人っ子の時代」といわれるけ
れどいったいどうして、こんなにも多く
の母親たちが、二人目、場合によっては
三人目の子供をちゅうちよなく(?)産
むことができるのか、私は不思議でなり
ません。越えてしまえばほんのひとまた
ぎの決断の川を、私が渡れないでいるだ
けなのでしょう。

子どもってなに

奈良県北葛城郡

和田 澄

「前向きに生きます」を書かれた野上由
美子さん、あなたの生き方に敬意を表し
ます。

私も妊娠しにくい体質で、結婚して十
年、しかも三十九歳という年齢にもかか
わらず、今も子どもへの未練は捨てられ
ません。生めないものは仕方ないじゃな

いか、となぜ思い切れないのか、子ども
が欲しい気持ちは、うすらぐどころか高
まるばかりです。

多分、野上さんも私のような時期を経
た末、今の考えになられたのだと思いま
す。二十六歳の若さで、「子どもがいな
いことはそんなに悪いことでしょうか」
と逆に世間に問われるようになるまでに
は、どれだけ女性として深い悲しみを通
過されたことかとお察しします。

「生めない」ではなく「生めない」の
は切ないことです。女性の高学歴化、社
会進出が多くなっても、自分の子どもを
持ちたいと思う女性は、それほど減少す
るものではないと思います。

先日ある方から、「あなたには男の子
の影が見えます。心配しなくても、子ど
もに恵まれますよ」と言われました。私
は体が硬直するほどびっくりしました。
医学的根拠は何もありませんが、三十九
歳の誕生日を過ぎた今も、私は、あのひ
と言を信じて生きているのです。

子どものいる方、いない方、あなたに
とって子どもってなんなのでしょう。

座談会

親と子——このむずかしい関係

——わいふ二九号合評

●出席者

稲岡 幸子

上木 千壽子

神谷 紫津子

広瀬 理枝

森本 邦子

渡辺 しほ

●編集部

和田 好子

●司会

田中 喜美子

保育園はいい!!

司会 「わいふ」二九号の合評会、今日は私田中が司会をさせていただきます。一番最初に、お読みになって、これが面白かった、これについて話し合いたい、というものを順ぐりにおっしゃってください。

神谷 私は、「生きるが勝ち」。

司会 だけ?

神谷 他には「アゲハチョウは翔び立った」

「シンガポールとの出会い」。「シンガポールとの出会い」は今回も感動しました。

上木 私は、特集では、ご本人を存じあげているせいもあるんですが、「子づれか子別れか私の選択」。あと自分も興味がある

「親は分けられない」。

広瀬 「生きるが勝ち」。「シンガポールとの出会い」。「ながら坂越えて」。「親は分けられない」、子ども中ども大どもの中の、

「わからない」です。

稲岡 特集「家の子は保育園育ち」全体と、

「親は分けられない」、エッセイのなかの

「彼岸に逝く」「一枚の広告から」「パチンコ命」、そんなところです。

渡辺 「アゲハチョウは翔び立った」(書いたご本人なので照れる)、「生きるが勝ち」「一枚の広告から」。

司会 それじゃあ、これで大体出ましたので、皆さんの興味が相当あつまっている特集からいきますか。

このテーマは、やはり特集として取り上げてみて良かったなと思っているんですね。保育園の話というのは方々で出ていますけど、こうして直接に寄せていただくと切実感があります。この中に出てくる問題でも、保育園に入れないで年寄りがみる、という場合がありますね。そこらへんの見極めをふくめて、お読みになった感想をきかせてください。

稲岡 娘が、子どもが五歳になるまでお勤めをしていたんです。おじいちゃんおばあちゃんが家にいるので保育園には入れませんでした。でも、保育園でいいなあ、と。

司会 これをご覧になって？

稲岡 そうです。子どものためにもこれから保育園はいいんじゃないかな、と思って。

もし不都合があれば若いお母さんたちが積極的に変えていくようにすればいいんじゃないか、と。これは割合成功した例ばかりでしたが、一つぐらい落ちこぼれた、という話はなかったんですか？

司会 なかった。成功談ばかりで。

稲岡 じゃあ結構大丈夫なんですね。年寄りに預けるというのは、私、いまだに問題をひきずっている部分があるんです。主人の母ですけど……。理屈じゃなくて何かあるんですよ、かけひきみたいなのが。それがもうたまらない感じ。

渡辺 理屈がないだけにモヤモヤして、よくい変なふうにいっちゃう。

キツチリした追跡調査を

司会 集団保育というのは、ある程度いっせいにしなきゃならない、ってことはあるでしょうね。

和田 いい面もありますよ、いっせいに食べてお昼寝して、というのは。生活の習慣がキチンとついて。

司会 お宅のお子さんは、それを非常にっらがった？

稲岡 可愛がられれば可愛がられたで、うまくいかなければいけないのであるんですよ。

渡辺 でも保育園でも、シャチほこだった規則があって、すぐく抵抗がありましたねえ。たとえば、予定の時間より早く迎えに行くのは他の子のためにならないから、あまりしないでほしい、とか。家は自営業なので時間の融通がきくからなんですが、そういうことするとやっぱり孤立しちゃう。

お昼寝のことにしても、体力の余っている子、ウチもそうなんですけど、お昼寝ができない。でも、ジッと横になってなければいけない。静かにして本を読んでもいいとか、そういう融通が全然きかない。

追跡調査を

渡辺 つらがったですねえ。四番目の子を一年でやめさせちゃったら、ガンガン怒られてね、「オレだけ行かされた、クソッソ」って。

司会 なんでやめさせたの？

渡辺 ちょっと夫婦ゲンカをしましてね、それで家を追い出されたことがあった。そのとき、おばあちゃんも亭主も園へ送って



渡辺しほさん

いけなくて、一か月くらい休んだんですよ。一か月行かないと、他の子と相打ちがっちゃう。じゃ、やめちゃうのか、って感じで退園させたんです。でもやめさせなきゃよかったかな、と思ったり。

子どもが保育園のことをやたらと言うんですよ。こういうことした、ああいうことした、って。「あんた、ホントは保育園に行きたかったんじゃない？」って聞くと、イヤ行きたくなかった、って。

稲岡 もう大きくなったんですか？

渡辺 小学一年になりました。

神谷 普通の幼稚園にはお入れにならなかったんですか？

渡辺 家のそばにある幼稚園は、ある代議士さんが経営していて、すごいんです。運

動会のとき、選挙後だったのでナントカ先生にバンザアーイなんて。一番上の子は何も知らないで入れたワケ。その幼稚園が嫌だったから保育園にしたってところもある。

和田 近所にいい幼稚園がないとホント困りますよね。遠くまで行けないしね。

神谷 私はこれを読んだときに、保育園へ入れるということの方がすごく自立なさった、自分自身をみつめてこれから頑張ってるってこういう気持ちになられたことに、すごく感動したんです。でも幼稚園だったらどうだったのかな。

渡辺 やっぱ幼稚園とは違いますね。

稲岡 ま、幼稚園では子どもは自立しない気はしますね。生活習慣を教え込むということはあまりなくて、むしろ親が園に協力

人間的とは？

和田 保育園へ行ったら子どもは苦労するんですよ。だから本人はイヤだって言うのよ。でも苦労しなきゃしつけないというのは身につかないワケ。あんた保育園へ行ってよかったワ、なんて言う子どもは、ジョーダンじゃない、ってことになる。それに

して手助けする、ということが比較的多い。それをまた、親も楽しみ、子どもも楽しみにして、その良さもあるけれど、子ども自身の自立とか親の自立とはちょっと違うような気がします。

司会 親もそういうことはやっぱり求めてないでしょうしね。

和田 お母さんにいろんなことを要求してくるからね、幼稚園のほうは。

稲岡 草むしりに行ったり、お掃除に行ったり、いろんな手づくりのものとかな……。

司会 保育園は私もいいと思います。ただ、保育園は子どもに幼稚園と保育園は違うところなのか、学者にきっちりした追跡調査をしてほしいと思います。

よって得たものは非常に多くても、本人にはそのへんが自覚できないので、保育園はイヤだった、という発言になるのよ。

上木 私たちのころは、保育園というのはなんか悲惨な感じがして、やりたくないという気持ちがあったと思います。姪ぐらい

の年代になりますと、親だけよりかえっていい結果になる、という考えが出てきた。

今回の特集、いろいろなケースがあって、太田さんは情報を集めて研究・分析なさってらっしゃる。やはり今のお母さんだな、若い方は利口だなと思いました。

広瀬 まず、社会の背景が昔とすぐ変わってきた、ということがありますよね。

和田 どうなんですか、森本さん。保育園の場合、子どもが何人につき保母さんが何人、という基準は二十年前とくらべて上がってきているんですか？

森本 上がってますねえ。とくに公立の場合は、保育園の先生の労働条件がとてよくなかった。それから保育内容にかぎって言えば、どんどん良くなっていますね。

和田 物理的な条件は良くなっているよ。
森本 そうそうそう。昔は入園するのが大変だった。いまは、いらっしゃいいらっしゃい、って感じてすからね。

子どもがみじめているとか、そんなことはないですね。昼食なんかけっこうなのを食べる。昔は四十人くらいの子どもを並べて自宅で食べさせてるみたいな雰囲気

だったけど、今は食堂が完備して、逆に管理されているような感じがえしますね。安全は保障されているが、管理的にキチンとされすぎているのでは……。

司会 管理的というのは、つまり、子どもの数が減ったから先生の目が届く、っていう意味なの？ それとも、システムとして？
森本 システムです。

司会 どういうところですか？

森本 たとえばね、前は教室で食事をしましょう、と。すると、今日は良いお天気だからお庭に出て食べましょう、ってな感じだった。ところがいまは、教室ではお食事はしません、食堂で食べます、と。

司会 それはかまわないんじゃないかしら。だって食堂で食べるのは当然でしょ。

森本 それはいいんだけどね、お庭だったら泣いている子もニコニコして笑いながら食べるということがある。いまはそういう自由裁量の余地が少なくなった気がします。保育園の建物が新しくなると、イヤねえ、という感じで受けとる先生が多いよ。
和田 それはね、私、頭の老化だと思うよ。つまりね、我々は自分たちが子どものとき

の状態を、人間的だと思ふ傾向があるのよ。年を取って昔のほうがヨカッタというにすぎないんで、そういうことを言い出したならもう頭は老化しているんですよ。

渡辺 あのね、うちの保育園では遊んでいるところに布団しいて寝るの。だから頭にシラミが発生したことがあったのよ。ごはんも遊んでいるところで食べるわけ。食堂があるのって、私はちょっといいな、と思っちゃうわ。

広瀬 それは私たちのいままでの状態がそうだったでしょ。昔は、畳のしいてある部屋で丸テーブルを出して、食べて、片づけ、という暮らしだった。ところがいまは、何しDKか知らないけど、全部わかれた生活だから、それはもうあてはまらないんじ

森本邦子さん



やないかしら。

和田 今の子育ての状況で決定的に悪いことは自然にふれる機会がない、遊び場がないということ。

これは保育園へ入れるとかなりの部分解決する。遊び場はあるし、保育園によっては自然にふれさせるべく公園へ連れていたり、何かするでしょう。親では、なかなかそこまでいかないですよ。その点でむしろ保育園のほうが環境がいい、ってことはある。

保育園の管理保育どころか、いまのお母

察してください、は傲慢

司会 保育園の問題は本当に重要なことです。皆さんに十分議論していただきたいのですが、だいたい時間をとってしまいまして。次に、これも皆さんの反響の大きかった「親は分けられない」にいきいたいと思います。

これ、ずいぶん前に投稿いただいていたね、出すべきか出さざるべきかで我々も迷っていた部分があって、結局出したんですけども、多少年代的に近い方、どうでし

さんはものすごい管理教育やるでしょ。マシオンなんかで、遊ぶ所がなくてね、親がキラーとしてたらたまったもんじゃないですよ。

稲岡 設備が良いか悪いか、ってこと以上に保育する人間がどうか、ということのほうが先で、人間のほうさえ良ければそう心配ないんじゃないかしら。

和田 できるだけ質の高い保母さんが入っていくような体制は必要ですね。職場に長く勤められる労働条件も整ってほしい。

よう、ご感想は。

上木 この方の文章、ちょっと分かりますところがありますね。取り上げているものが夫の親ということで、明確に書けなかったのでしょうか。

文の書き方が、九十八頁なども何がこうだということがハッキリ入っていないために、前後の関係からいってよく分からない。その状況の説明の仕方がお上手ではない、のみこめない。やはり状況が明確に分か

上木千壽子さん



ないと、この方のいろんな気持ちも理解できない。

和田 とてもいいご批評ですね。

上木 私も、舅姑を去年の暮れから亡くしまして、それまでにいろいろ負担になることもあったものですから、そういう意味でこれが一番印象に残りました。

司会 その分かりますところはおき、内容的に他にも共感を感じた、ということはありませんか？

上木 この方、私よりもずいぶん、十三歳もお若い方なんですけれど、こういう若い方でも親を引き取らなきゃいけない、っていう気持ちと、引き取るというんなことがあってその狭間で揺れ動いていらっしゃる。非常に良心的なところがあるんですね。こ



神谷紫津子さん

んなお若い方でも割り切れないのかなあ、
と思いました。

私たちの年代はちょうど過渡期なんです。
私たちの親というのは、年をとった子ども
の世話になるつもりで自分の舅姑をみて
きたと思います。ところが私たちは、もう
子どもにそんな世話はかけられない、と割
り切っているつもりです。けれど、私たち
も自己主張をして「自分たちだけでやって
ください」と親に言いたいような、でも言
えない、っていう気持ちの間で非常に揺れ
動いています。

ただ、この親を分けられないというのは、
分けて両方が見たいという意味なんでしょ
うか？

稲岡 半分ずつ分けてみるということは

きない、ってことじゃないですか、親をね。
神谷 親自身も長男のほうへ行ったり、三

男のほうへ行ったり、そんなことは嫌でし
ょうし、自分の居場所はやんと欲しい。
親御さんの立場から考えても、分けるとい
うことはとても失礼なことですよ。

和田 ただこれで見ると、親自体もだいぶ
ハッキリしていない。

上木 ハッキリおっしゃらない。言ってく
れるのを待っている。そういう感じ、私共
の親の年代にはよくあるような気がします。
稲岡 おばあちゃんの立場からは言いたい
こと言えないですよ、自分にマイナスに
はね返ってくるから。

上木 お年寄りの、察してください、とい
うのは本当は傲慢なことじゃないかなと思
うんです。本人は謙虚なつもりで、ここま
でやったんだから後はよろしく察しなさい、
というのでしょけれど、じつは謙虚じゃな
く傲慢ですよ。

そういう意味で、この方の気持ちはすこ
く理解できる。

稲岡 この人が非常に良心的だと思うのは、
自分が一番いいんだという立場に立たない

で、「都合次第で三男を振りかざしたりひ
つ込めたりする、私たち夫婦の卑劣さが浮
かびあがる」（九十七頁）と、自分たちの
ことを批判しているんですよ。だからこ
れが読めるんだと思います。どうしやうも
ない気持ちの動きがあるから。

これが、自分は良いことをしたけれども
結果的には裏切られた、という書き方だっ
たらとても読んじやいられない。

和田 一生懸命公平であらうとしている……。
渡辺 でも葛藤があるわね。言いたいけど
我慢している。そこがわかりにくくしちや
ってる原因じゃないかしら。

和田 長男のところだね、長男の親は長男
がみて、お嫁さんの親はお嫁さんがみる、
つまり夫と妻がそれぞれの親を看たい、と
いう考え方はいかがですか？ これを彼女
は新憲法といっているわけだけれども。

広瀬 私の場合はね、夫が長男なんですよ。
親を看るということになってたんだけど、
偶然病院へ入院してしまった。私のほうの
兄弟は、男が六人いて女が二人、計八人い
るんです。母（実家の）が亡くなった時点
で兄弟ゲンカが始まった。大きな家に父を

一人おいとけないから、どっかへ行くことになったけれど、誰も連れていけない、男連中。(大笑) なかにはすごいお嫁さんが

財産と新憲法

広瀬 葬式の日、焼き場でケンカしているっていうんですよ。私は姑が具合悪くなってる焼き場まで行けなかった。そしたらケンカしている、っていう。家に来て皆で話し合いをしたら、誰も連れていけない。とにかく六人もいてみんな拒否なんです。これが母親だったら連れていくと思うの。父親だから連れていかない。(爆笑)

私、聞いていてイライラしてきて、人がいもんだから「ウチへいらっしやい」って言っちゃったんです。で、家へ連れてきて、しょうがないから主人の親に言ったら、当分の間は病院暮らしで帰れないから、じゃあ、いいでしょう、置いたら、と。私は乳飲み子を抱えながら、なんでこんなことしなきゃならないのかな、財産ももらっていないのに、と思ったけど、父はずーと家にいたんですよ、死ぬまで、結局。
渡辺 そういうの、書かないと。

いて、お父さんを見るくらいなら離婚します、って。

広瀬 でもね、死ぬときは北海道の長男の家で死んだんです。夏にたまたま、旅行してくるよ、って向こうで。ウチの主人はね「よかったね、長男の家で死んで。それだけよかった」って。男の子が六人もいて、結局誰も引き取らないで嫁にいった娘の家で死んだということになったら大変ですよ。立場上。

渡辺 葬式をあげることで、どこであげるか大変ですよ。

広瀬 でもそのことでね、いったい長男で何なんだろう、って思った。私自身、父は長男の家へ行けばいい、私は主人の親を引き取ればいいだろうと思っていたのですけど。

でも考えてみたら、財産も何も貰ってないんですよ。昔は財産貰うから面倒をみた。いまの兄弟というのは、貰うものは貰う、だけど面倒みるのはイヤ、それが新憲

稲岡幸子さん



法かな、と。

渡辺 おじいちゃんの在り方というのも多
少は……。

司会 でもボケてはいらっしゃらなかった
んでしょう？ その兄弟の話し合いのとき
はどうしてらしたの？ お父さんは。

広瀬 隣の部屋で悲しんでいたんです。オ
マエ、どうして先に逝ったのか、と。

私は、ご飯の炊き方、父に教わったんで
す。父は店をやっていて、いまでいえば共
働き、ものすごく働いた。そういう父をね、
さんさん自分たちのためにコキ使っておい
て、イザとなったらなんで突き放すのか、
私は泣いて「誰んとこへ行かなくていい、
私のとこへ来い」って言っちゃった。

ところが私が嫁にいくときに、父は「お

まえみたにきかないヤツは一日ともしない」と言っただけです。父が家に来たとき、私が嫁にいつて追い出されなくてよかったね、って毎日イジメていたんです。来るところがあつてよかったね、って。

司会 女のご姉妹、他には？

広瀬 十六歳はなれた姉がいるんですけど、そこには旦那の親がいた。

和田 とにかくね、これから子どもの世話になろう、というのはダメですよ。

司会 私はね、大きな家を売って、老人ホームか何かに入るとか、なさりようがあつたと思うけどね——。

森本 どうなんだろう？ 身内に看てもらいながら畳の上で療養し死ぬことが一番幸せだと思つている年寄りにとっては。身内、血縁とのふれあいが一番楽しい、喜びだ、つていう生活をしてきているからね、年とるまで。

和田 自立心というのはね、日本の老人にはまだないのよ。自分一人で楽しむこともできない。とにかく子どもといっしょにいいことが楽しい、つて思っているし、いっしょにいないと精神的安定がない、つてい

うワケだから。

渡辺 周りもそういうふうに思わせちゃつてるからね。

司会 そうかといつて、本当に子供と仲良く楽しく暮らす人も、あまりいないのよ。

和田 その人たちはねもう、自分というものがいないのよ、子供に頼る他に行くところがないのよ。

広瀬 それは老人ばかりじゃなくて、我々の夫にだつて言えるんじゃない？

稲岡 肉親とか家族の温たかさ、というのはかけがえのない部分もあるんですよ。

抜群のつまず

司会 次々と話題が出ますが、こんどは「生きるが勝ち」をやりましょう。あまり明るい話ではありませんが、これはずいぶん皆さん面白かつたとおっしゃってください。どうですか？ お読みになって。

渡辺 私、電車の中で読みましたけど、ウツつて泣きそうになつちやうた。上手。

「四人家族、ほんとに、この地球に、宇宙に、たった四人だけ生きてるような感じがした」（四十七頁）という感じがねえ、表現

足が痛いという場合、治療してもらうのはお医者さんだけど、さすってもらつただけで治る場合があるんですよ。家族がイヤイヤやつてもしょうがないけど、そういうことはこれからも残っていくと思うんです。一人がつきつきりで看護するというのは無理だから委ねていいけど、だからといって一べんも顔を出さないのじゃなくて、おはようってニコリしてあげるだけでパツと気分がよくなつたりする。それは大切なことだと思う。

がすぐくうまいですよ。

血の引き合い、つていうか、DNA、ちょっとした単位での引き合い、つていうのがある本で読んだような気がするの、血つて恐ろしいなあ、家族つて何だんべ、いま思つてるところ。いろいろ葛藤がありますよね、一戸の家に住んでると。

でもまあ、ずいぶん前のことなのによくこんなにキチンと……。稲岡 効果的にね。



広瀬理枝さん

和田 この方、日記をつけていらっしやるのよ。

稲岡 あー、だからね。

和田 でもまだ、わりと最近のことなのよ。五年たっていないんじゃない？

稲岡 題もこの方がおつけになったんですか？

和田 そうです、そうです。

稲岡 この「なま乳房」って、ちょっとギョツとする書き方だなあ。

渡辺 主人の母がね、やっぱり乳ガンで、手術後に取った乳房を見せられたとき、ガァーと脳しんとう起こしちゃった。これはすごく分かるわねえ。

森本 その後手術なさって、もう……。和田 だから、医者が九五パーセント大丈

夫だと言っても、疑っているやっただから、いま元気なの。

渡辺 九五パーセント大丈夫だといわれたら次の病院には行かないわね。こわいわねえ。

和田 前号の合評会に出ていた看護婦さんが、もし私がそうだったら、そこら中の病院五軒も六軒も回る、って。一軒じゃダメだって。

稲岡 自分を守るのは自分だ、って私も言われたことがあります。

森本 以前胃ガンの疑いがあったときね、結局、高邁な思想よりも日常の暮らしみたいなものがやっぱり人間には一番大事なんだな、と思った。

パチンコと麻薬

司会 次が皆さん、シンガポールの話ね、息抜きのいきましようか。これ、面白いって言うてくださるんで嬉しかった。話が政治的なので、皆さんの興味引かなかつたら困るなァー、と思ってました。

神谷 データをちゃんと調べて、ご自分の目で新聞を読んで、そういう強味というか、説得力がありますね。

だからこの人の、泣いたり笑ったりの表現、よく分かるのね。冷静に書けているから、読ませる力がある。もっとフツの人が書いたら、つまんなーい、ごくろうやったのオ、で終わってしまうかも知れない。この人はそういうところをうまくで切り抜けているんだなあ、と。

稲岡 すごくよく分かるわよね。

森本 こういうの書かれると、あといいかげんな体験記が書けなくなる。

司会 善し悪しかも知れないわね。

森本 そう、善し悪し。

司会 こういう拔群のうまさの人、なかなかいませんよ。

上木 ただ、知らない人には面白いだろうけど、ちょっと知っている人には物足りないんじゃないかしら。

和田 だけど、地下鉄のドアがさ、こうなっているなんて、面白い／＼ なぜこんなことするのかねー。飛び込み自殺防止には一番いい方法ですよ。

司会 今日だから昨日だかの朝日新聞に出て

いたけれど、シンガポールは学歴の高い人がどんどん流出しちゃってるんだって。こんな国イヤだって。

和田 こういう国では賢明な人が独裁する、っていうのがうまくいく面もあるんでしょね。

司会 一概に独裁はいけなくて、キレイ事ばかりも言っていられないのかもね。そういうことが分かって、そういう国もあるのかと、とても勉強になる。

森本 安心して読めるのよ。

神谷 早川さんのお人柄も出てるし。

司会 そりゃあ、よかった。出しがいがあった。次に「パチンコ命」を、ちよつと。これが面白くてねー。こういう面白いの、もっと来ないかと思ってるんだけど。
渡辺 こういうのは、ハネられそうな感じが……。

司会 そんなことないわよ。皆さん、どうです？ パチンコなさる方いらっしゃるか？
上木 私の同級生にいます。一人はパチンコで何でも稼ぐんです。腕時計でも何でも。もう一人は地方都市の助役の奥さん。助役の奥さんというのは、多少世間体があり

ますから、マスクかけて……。 (爆笑) しょうがないから変装みたいにして。

和田 面白い！

上木 その人、電車に乗るのがイヤなんです。閉所恐怖症みたいで、トンネルがキライなんだそうです。だから隣の市まで行けなくて、地元でやるもんですから……。

司会 しかしいろんなものがはやってたけど、パチンコってすたれないのね。

広瀬 私、よく朝早くバスでパチンコ屋の前を通りますけど、開店前にズラッと並んで、この人たちの職業は何だろうか、って思うんですよね。日曜日でもないのに。
渡辺 この方、ワープロも始めた、って書いてあるでしょ。だから人間と対面するよ

病院か姥捨山か

司会 あと「一枚の広告から」と「わからない」の二つだけになりました。「一枚の広告から」は、看護婦さんが復職なさったんですよ、五二歳で。

稲岡 母親がひどい老人病院へ入って亡くなったものですから、こういう老人病院だったらいいな、と思った。

り、モノとか機械との対面のほうが気が楽なのかも知れない。

森本 パチンコに命をかけんならん、なんてサ、これ、面白い男に出会ったらそんなもののフツ飛ぶのになア。

司会 パチンコは国民的悪徳(？)かも知れないけど、麻薬と関係ないかしら？

和田 こういうのがあるから日本で麻薬がはやらない、とか？ アメリカはこれ(パチンコ)ないんですよ。

森本 パチンコは相手を傷つけなくてすむしね。

広瀬 金額もそんなにいかないんじゃないかしら。ボートレースとか競馬でスルよりは。

上木 私、感心したのは五十二歳で仕事を、最初のドキッドキッて感じが、その過程が実に正直に書いてある。

司会 この方が最年少なんですからね。老人が老人を看取っている感じで、こりゃ大変なことだな、と思います。
稲岡 そういうの知りたいわ、すぐ。



田中編集長

なるべく起きてごはん食べなさい、ピンクの洋服を着なさい、ってやってくれるんですよ。

司会 こういうの、病院を实名で「わいふ」に出しちゃいけないかしら。

和田 いまは、寝たきりにしちゃいけない、という風潮になってきてはいるんです。

稲岡 ところがその病院には、良くなっても家族が引き取りにこない人がいっぱいいる。

広瀬 患者になったら言いたいこと言わなきゃ絶対ダメですね。言いなりになってた

一人でも多くの投稿を

司会 では最後の一つ、お一人しかあげてらっしゃらないけど、「わからない」にいきましようか。

神谷 読んでて、すごく切ない感じがしてね、もうちょっと頑張れば抜け出せるのにな、と思いました。渦中にいらっしゃる方には申し訳ないんだけど、抜け出すと、アッこんなことだったのか、って。だから、もうすぐ楽になれるのにな、と。

和田 この方も若い方だけど、このごろ若

らダメ。姉の旦那が医者だけど、自分がケガをして入院してみても、初めてこれじゃイカン、ということが分かったそうです。

和田 病院で、入れた以上は検査治療をせにやなんのよ。

広瀬 検査はね、統計とるがためにやっているんですよ。もちろん収入にもなるし。

私なんか身内に医者が多いからよく聞くんだけど、医者のミスってものすごく多い。医者のミスで筋切られて一生動けなくなっただ、とかいうの、ものすごくあるんですよ。

い人の中で三人産むの、はやってるのかねえ。

広瀬 私なんかね、おばあさんになってから子ども産みましたでしょ。子育てがすごくいいんですよ。ホントに、平気でみていられる。余裕があるんですね。いま中三の子を四十一歳で産みましたから。

司会 それは最初の子？

広瀬 いえいえ、最初は三十六です。

森本 五十すぎてから子どもを産んだ人、

昭和五十八年の春、兄が近所に病院があるからというので、母を連れていったんです。肩が腫れてきたみたいだし、風邪がひどくなったから、一度も入院したことのない母だけ入院させたら、って。

で、病気だけは治してもらって、あとはまた家で看ようと思っていた。ところが、オムツは時間で取りかえる、トイレへ自分で起きて行くといっても行かせない……。
和田 病院に入ると、一ぺんで病人になっちゃうのよね。

稲岡 そう。いったん良くなったんだけど、瘡瘍ができて結局亡くなってしまった。そこは、病気を治す病院じゃないんですよ。兄弟たちはそういうことが全然分からなかった。

逆に、夫の母親のほうは素晴らしい病院でね、一日三回くらい休ふいてくれるし、

おとしの登録だけで三人あるんですよ。

一同 ヘ〜〜〜／

広瀬 子どももラクだと思う。すぐく安心していられる、っていいです。うちの子なんか、いま私をおばあちゃん、って呼んでいますね。

和田 それはあなたの場合ですよ。私も年とって産んだけど全然そうじゃなかった。

広瀬 兄弟のなかに、自分の子どもみたいな弟がいたわけね。それを見て育ってるから、初めて産んだような感じが全然しない。渡辺 男がサ駄目なのは、子育てしないからじゃないかと思うの。頭へきたり、なだめたり、おさえたり、後で反省したりする葛藤がなくてね、おまえが育てりゃいいんだ、なんて言ってるから。

森本 男は果たして父親になれるか、これは大テーマね。何かあると、母親は、とい

うことでさばかれるけど、男は父親になっ

たという生理的な実感がなければ、果たして父親になれるんだろうか。ならなきゃいけないという観念はあっても、なるための努力を現実に行っているのか。昔は家父長制があったから、イヤでもならなきゃならなかった。でも、今はどうなんだろう？

和田 「わからない」、っていうのは子育てのつらさだけじゃないと思う。自分が将来どうしていったらいいのかわからない。自分の問題が将来にとってどういうことなのか、ということ、わからない、って言うてるんじゃないかな。

一同 そうですね。

森本 ちょっと話のはかわるけど、最後に、編集部に言いたいことがあるの。座談会なんか、こんなにスペースをさくなら、一人でも多くの投稿を載せてほしい。巻頭のグラビアも二頁で十分だと思う。これはサークルの意見です。（まとめ・宮前和）

●次回合評会は十一月二日（木）二時より編集部で行ないます。ご希望の方は十月二十七日（金）までに電話で編集部に申し込み下さい。

自費出版は

「わいふ」へどうぞ／

「わいふ」編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方はぜひご利用下さい。

自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで、何でも作れます。

費用はモノによりいろいろ違ってきますが、市価よりは確実に安いのです。ご事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせ下さい。

最近の例をあげますと、

A5判（わいふと同型）・八十ページ
本文一色刷・表紙二色刷・タイポオフセット印刷・見出しは写真植字・部数五百部のもので、約三十六万円でした。

イラストも用意できますし、お書きになれない方のために、聞き書きのまとめもいたします。

人生の記念にご計画なさってはいかがでしょうか。

ながら坂越えて

埼玉県所沢市 吉原すみえ

もう一大家族が増えた

戸籍上は二女、生活上は長女、第三子の誕生は浩之三歳五か月のときである。

本当に待ちのぞんだ女の子である。道後温泉のある松山（実家がある）で生まれた。

はじめは冴子とつけた。ところが市役所から「冴の字は人名漢字にないので他の名前を……」と葉書が来た。せっかくなので他の名前に全く冴えない話である。

しばらくは、母や妹たちが名無しの権兵衛ならぬ、ゴンコちゃんなんてやっていたが、そのうち

妹が、

「県庁所在地は県都、伊予の国の都で伊都子はどう？」

で、伊都子に決定した。

伊都子は生後七週間目から当然共同保育所である。共同保育所は団地の一軒で、生協が大家さんである。原形は一階が六畳のダイニングキッチンのみ、二階が階段をはさんで南側に六畳間、北側に四畳半がある。庭に九畳のプレハブがつぎたしてあり、その総建坪面積二十坪の家に二十人から、三十人の赤ん坊が預けられていた。

朝七時十分前に四人で車に乗り、保育園で浩之

を降ろし、共同保育所へ寄って伊都子を預ける。そして二人で駅前に借りてある駐車場で乗り捨てると、文字通り脱兎の如く改札を抜け階段をかけるのぼり、ホームを走り電車にとび乗る。

駅の階段をかけたのぼりたりホームをかけるくせはなかなか抜けず、今もって走っている自分に気がついて苦笑する。

福祉の貧困

伊都子を共同保育所へ預けるようになってから私はずい分勉強した。いわゆる社会勉強である。

その大きなものは日本という国の福祉の貧困である。共同保育所というのは、一切切親たちが運営するものである。したがって保母さんに給料をたくさんあげたいと思えば、保育料を多く出さなければならぬ。ボーナスもしかりである。

親のほうは、公立保育園へ入れるまでの間であるから、それまではがまんして言われるだけ出しましようというのかもしれない、ゼロ歳児保育を行わない行政の肩がわりを親がしているのだから、市に要求すべきだと言うものもある。

私たち夫婦は後者のほうである。そんな話をする父母会で、ついつい余計なことをしゃべってしまふものだから、とうとう運営委員を仰せつかっ

てしまった。

運営委員になると市長交渉なども率先して参加しなければならぬ。市長交渉に参加すればいいやでも市長の言動が見えてくる。

「あなた方は、自分の子どもは自分で責任をもってみるべきでしょう」

「冗談じゃない。子どもは未来のものではないです。か。国の未来のために行政が手をつくすのは当然じゃないですか」

「そうだ、そうだ」なんて、周りの人たちの口に合わせて言うてはみたものの、その当時は「未来のもの」の真の意味が分かっていたわけではない。その意味が分かっていたのは、もっとずっとあとになつてのことだが――。

国から地方行政へのしめつけもだんだん分かってきて、税金はおとなしくとられっぱなしで過してきたけれど、憲法も児童憲章も政治を行なう人にはただの空文なのかと、国政選挙への関心に目ざめてきた。

勉強になることはまだある。他の職場の人たちのことである。産前産後休暇が無給の会社（健康保険組合から六〇パーセントの補給はあるが）、一日一時間の育児時間も無給という人もいる。

一日九十分の育児時間、前後六週間ずつの出産

ながら坂越えて

休暇も賃金カットはもちろん、ボーナスの査定などもないという、自分の職場がいかに恵まれているかを知ったが、同時に日本という国は女性が働きにくく、それがいかに女性の地位を低いものにしていくかも分かってきた。

夫が結婚するときに言った、「家事と育児に追われていたのでは女性が進歩しない」というのはこのことであつた。

そして働くお母さんたちが生み出すチエと勇氣に直接にふれ、私は自分が世間知らずであつたことを悟つた。

「育児時間とすると毎月賃金カットされるのよ。そしてね、そういう人はボーナスも査定されるの。でもみんなで取ろうよって実績作りやってるの。そうすれば、これからお母さんになる人も安心して働けるでしょう」

共同保育所で知り合つた小畑さんのキラキラした瞳が忘れられない。

共同保育所の運営委員会は、子どもを寝かせて夜九時から始まる。十二時までに帰れば良いほうで一時くらいはザラだった。

集まる人たちは、その間子どもをみてくれる人はいないから子どもを寝かせると鍵はかけないで出かける。そうすれば何かのときには誰にでも助

けてもらえる、と、これも仲間から教わつたチエである。

そのころいっしょにやっていた人たちと今ごろになつてよく話題になる。

「よくもまあ、思い切つたことやってきたわね」

「ほんと。よく無事に育つたものよ」

「若かつたし、必死だったのよ」

「自分の子だしねエ、きつと孫じゃああはいかないわよ」

あのころの鼻タレさんも、泣き虫さんも、寝しょんべん小僧も今やみんな成人し、ばちばち恋の花が咲く季節である。

また一人家族が増えた

「お母さん、僕ゆうべは大変だったんだよ。いったんたんが海におぼれそうになつて、だから僕ウルトラマンになつて助けてあげたんだよ」

どうりでその朝の浩之の布団は大時化の太平洋のようだったと思つたが、浩之の伊都子に接する姿は、兄弟はたくさんいたほうがいい、と私に野望？を抱かせることになつた。

「いいよ。大変だから」

と夫。

「せっかく五体満足に揃つた女の子と男の子がい

るのだから、もうやめておいたら」
実家の母。

「私はお母さんが三十八のときの子で、クラスの父兄会るとき、母親が年をとってとてもいやだったわ、子どもが可哀想よ」

九歳ちがいの末の妹。

「あなたはお産が軽いから懲りないのよ」

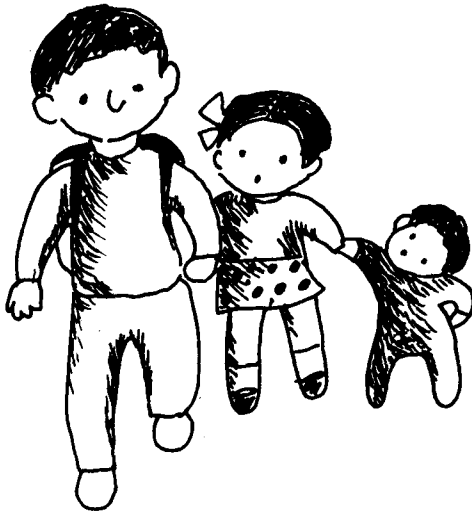
とは、大変な難産で帝王切開で二人出産した同僚の弁である。

が、結局私は押し切った。三十七歳の子である。

所沢で生まれたから沢ッ子転じて佐和子である。伊都子とは二年一か月のひらきである。

ソビエトの教育学者、

マカレンコがその著書『愛と規律の家庭教育』の中で、一人っ子はよくないと書いてあるからというわけではないが、授からなければ仕方がないし、母体が無理というのも致しかたないが、私は若い



人に子どもは最低三人は生みなさい、とおすすめる。

一人目の子どもは何もかもが新鮮で、泣いたといっってはあわて、笑ったといっってはさわざ、もう寝返りをうつ、やれ立った歩いたと他人さまとくらべては一喜一憂し、やがて可愛い声で夕日がきれい、野の緑がきれいといえ、我が子は詩的だと感動する。

二人目になると上の子の影響だと喜び、期待をかける。ところが三人目、我が家の場合、夕日がきれいといえ、何てまあ、子どもって同じようなことばかりいうのだろう」

伝い歩きが早かろうが、遅かろうが、歯がいつ生えてきたのか、育児記録のたぐいさえない。

「昔の親は、洗濯機も電気釜もなかった時代に七人も八人も生んだではないか。これだけ電気製品の揃った時代、たとえ共

ながら坂越えて

働きとて三人くらい何のその」

とタンカを切ったものの、全く不安がなかったわけではない。

結果は、いや佐和子を生んでよかった。育てるのも楽だった。ミルクを吐けば教えてくれる子がいる。離乳食が始まれば食べさせてくれる子がいる。しかも気長に食べさせてくれるから、当人もゆつくり楽しみ、そのせいか大らかでたくましい娘に育った。

女が退職を考へるとき

この二十五年間に、退職すべきか、がんばるべきか、本気で、夜も眠れないほど悩んだことが二回ある。もっとも「お腹すいたァ」程度の「辞めたいなァ」は、お腹がすいた回数よりも多い。

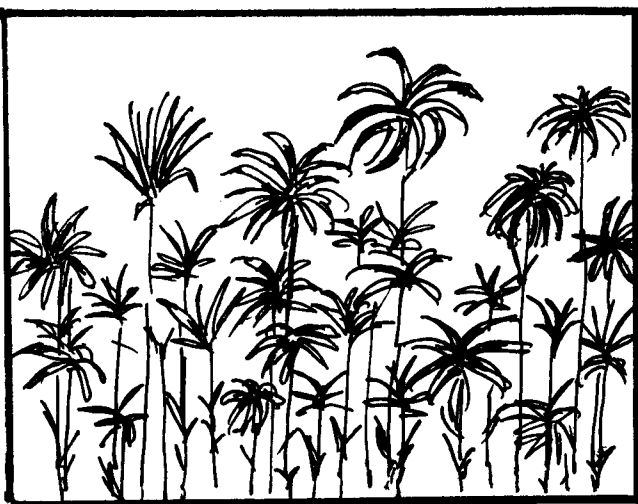
さて一度目である。伊都子はよく熱の出る子であつた。

「いくら知恵熱といっても、こんなに高熱がひつきりなしでは良い頭だって悪くなるわ」

と、ぼやくほど三日にあげずの医者通いである。

年次有給休暇は私の職場も年二十日である。その二十日は毎年それぞれ社員の採用月に付与される。十月採用の人は十月に、四月採用の人は四月という具合で、二月採用の私は五月末に伊都子が

生まれるまではまだかなりもっていたはずである。それが生後半年ではしから肺炎を併発、そのあとがいけない。三日にあげずである。それでも



産前産後休暇もあつたわけであるからその年は何とかなったが、翌年である困ったのは。三日にあげず保育所から呼び出しである。

「吉原さんッデンワッ」

取りついでくれる主任の声もだんだんきつくなる。

ところで脇道にそれて、ここで当時の私の職場をご紹介します。

昔、電気通信省、その後電電公社、今NTTの東京市外電話局がそのころの私の職場である。そこで電話交換手をしていた。

今とちがってまだ全国どこへでもすべてダイヤルでかかる時代ではなかったから、大手町の旧市外局と新市外局の二つのビルに約四千名の交換手がいた。

私の所属は新市外局ビルのほうで、二つの部があり、それぞれ九つの課がある。一つの課に六十名余り、第六課までは宿直勤務のある輪番制である。あとの三つは、体の弱い人や妊娠中、育児中の女性である。

部長、主幹、課長、副課長、係長、主任、ヒラの順で、副課長までが管理職、私はもちろんヒラである。

交換手への私用電話は課長席にかかってくるが、そのとき受けとる人によって、私用電話の行方がちがってくる。

「〇〇はただ今勤務中でお呼びできませんので、後はどこからかお電話するように伝えます」

これはよいほうである。

「勤務中でお呼びできませんので、何かお言伝がありましたらどうぞ——」

相手が言いにくくてそれっきりなんていうのはザラである。

「勤務中です」

ケンもホロロもある。何十人もいる課である。私用電話をすべて取り次いでいたのでは仕事にならないというのも分かる。

そんな中で例外がある。保育所からの電話である。その呼び出し回数が多い私は、取り次ぐほうもいやになるだろうが、当事者の私はもっとやり切れない。

そして——貴重な年休が残り二日になったときである。悩んだ。本当に悩んだ。

真面目氏の手も足も引っぱり、夫婦共倒れの寸前である。何しろあゆみのこともある。もう二度とあんな悲しい思いはしたくない。背に腹はかえられないとはこのことか。一生働き続けたいと思ったが断念せざるを得ないのであろうか——と。

「この年休がゼロになって、そして伊都子が三十八度以上の熱が出たら——退職願いはそのときだ」不思議なもので、そう腹をきめたら伊都子が病気をしなくなった。一歳を過ぎていたことと、夏

ながら坂越えて

を迎えたことが幸いしたのであろうか。

いま思うと、あれは大きな山を越えたような気がする。もっともそんな思いをしなくせに佐和子を生んだのであるから、これも度胸のいい話ではある。

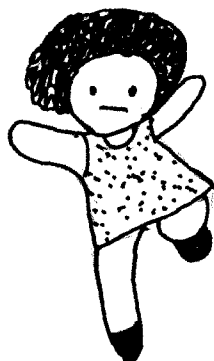
それで佐和子は共同保育所へは預けなかった。保育ママと呼ばれる個人保育である。

個人保育と集団保育と、ゼロ歳の子どもにあなたはどちらを選びますか、と問われたら私は一も二のなく集団保育を選ぶ。しかし、個人差もあると思うが、おとなの出入りのはげしい集団保育は、どうも病気を貰いやすいような気がする。

集団保育のもつ素晴らしさより、勤め続けたい思いのほうが強かったのだ。その個人保育のせいか、佐和子は風邪を引く程度で、無事市の保育園までこぎつけることができた。

さて退職すべきかを悩んだ二度目である。あゆみが生まれたころは、

「赤ちゃん生まれたらどうするの？ 辞めるの？



つづけるの？」

という会話があった職場が、五年の間にそんなことは愚問といわんばかりの、働くのが当たり前、むしろ、

「どこへ預けるの？」

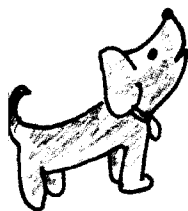
という雰囲気になっていったが、何しろ年ごろの女性ばかりである。それに電話交換台は二十四時間開店である。育児だからと日勤専務の課に居座る人が増えてくれば、宿直勤務の課が成り立っていかないのは当然である。

「宿直勤務の課へ移るか」「都内の営業課等の電話局へ転動するか」「中央電報局へ転動するか」

「退職金五割増しで退職するか」

と百七十名の異動が社側から提案された。

いくら家事は男女がいっしょにやるものといっても、中くらいの印刷会社の真面目氏は残業が多く夜は遅いから、もっともそれが真面目氏の真面目氏たる所以でもあるが、それに子どものためにも宿直はしたくなかった。



さりとて、電報局や営業の仕事は、全く経験もないし、畑ちがもいいところ、他の会社に移るに等しいことである。

退職金の五割増しは二年働けば棒引きの計算であるからこれは論外である。

とはいえ、悩んだ。宿直勤務はどうしてもいやだ。では電報局は？ これはパス。何故ならやっぱり大手町までの通勤ということが最大の理由。どうせ転勤するなら少しでも通勤時間を縮めたい。では都内の取扱局か。しかし待てよ。全くの畑違いの職場で新しい仕事をこなせるだろうか。芋を田圃に植えかえるようなものだ。そう思うと自信はない。

退職金五割増しはどうだ。当時ざっと計算して三百万円に百五十万円がプラスになる。辞めて好きなアイロンもってクリーニング屋でも？

夜も眠れない思いで悩んだ。そして営業課勤務を選択した。



「石の上にも三年というではないか。石にかじりついても、歯を食いしばって三年がんばってみよう。三年たっても仕事ができなければ——そのときはあきらめよう」

そのときの決意である。三十八歳であった。

優しい真面目氏はそんなときも、ああしろこうしろとは言わない。もっとも、じゃじゃ馬の私を先刻お見通しで、私が自分で得心がいかなければ引きさがらないことを心得ていたのであろう。

「本当言うかね。この人なんて頭が悪いのかと思っただよ。あのころ——」

とは、当時私に営業の仕事のイロハを教えてくれた津田先輩のその後の弁である。それほど仕事をマスターするのに時間がかかった。

あれから十六年。今では営業の仕事のイロハはンまでできるほど経験を重ねてきた。

二つ目の山は、親切で優しい先輩たちに助けられて越えることができたのである。



浩之七歳小学校一年、伊都子三歳九か月、佐和子一歳八か月の冬であった。

ながらながらの本番

二十五年間に住まいを四度替えた。蜜月を過ごしたのは中野区の通称「ナベヨコ」の奥の六畳一間のアパートである。

一年経って住みかえたのが、夫の母と同じ敷地内に建てた小さな家である。七年余りを過ごしたが浩之の就学を控え、保育園のある団地に中古を買って移った。それまでの家は義妹に買ってもらった。

働く人たちがみんなで運動を重ねて作ったゼロ歳児共同保育所、公立保育園に加え、共同運営の学童保育所があることが、木造一戸建ての家を捨てる決意を促したのだ。

四度目の家は、いま住んでいる家である。テラスハウス型は鉄骨で湿気が多いこと、押し入れが少ないこと、家が狭いことなどから大借金をして建てた家である。ただし子どもたちの生活に変化をきたさないよう団地の隣接地である。

その三度目の家へ移って一年半の春であった。真面目氏は上に二文字つく真面目である。

「ただの真面目ならいいわよ。上に二文字つくと

よね。あなたは。バカとかクソとか。たまには若い人にまかせて早く帰ってゆっくりすれば？」
「そうはいかないよ。頼られるとほっともおけないだろう」

そしていまに体こわすから、と言っていたのが言い当てたようにダウンである。

病名は十二指腸潰瘍。入院、手術で半年間の休職。私が悩んだあげく転動した直後のことである。

夫はいないわ、子どもは小さいわ、自分は職種転換、と悪条件のすこぶるつきパンチであった。

幸いだったのは団地へ住まいを移したことである。保育園の父母会でのつながりで周りにたくさん仲間がいるのである。

夫の手術の日、術後の様子をみとどけ、代々木から青梅街道を車を走らせ、所沢へ帰り着いたのは深夜一時を過ぎていた。家へ入ると近所の大野さんが三人とも夕食からお風呂まで世話をしてくさり、子どもたちはそれぞれの布団で何事もない顔で眠っていた。

涙が出るほど嬉しかったことが昨日のことのように想い出される。

——つづく——

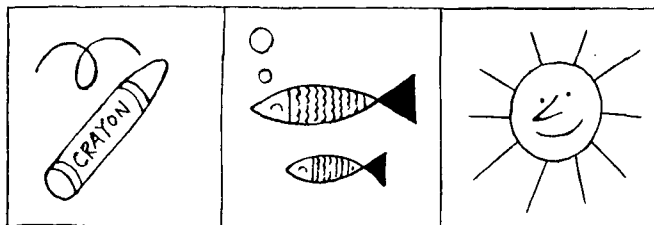
(え・田沼千恵)

Mother's 1st Book

楽しい育児のための基礎知識と
これまた楽しい育児グッズを満
載しました。お母さんも赤ちゃ
んもしあわせになる育児絵本。

赤ちゃんへの贈りもの

育児絵本 0から1歳向



監修／松田道雄

●定価3,500円(税込)
B5判上製・ケース入り

発行
婦人画報社

〒105
東京都港区西新橋2-9-1
Phone: 03-501-6211(代)
振替番号 東京2-40010

労働教育センター

東京都千代田区神田駿河台三二一
〒一〇一 〇三三(二五三)三三六二

最新刊 ●910円

子どもと健康

●No.19 特集Ⅱ やってよいのか心のテストⅡ なぜ
心理テストブームなのか・山下恒男／心理テス
トのベールを剥ぐ・小沢牧子／篠原睦治 他

女子教育もんだい

●No.41 特集Ⅱ 性と政治Ⅱ 「女性進出と政治状況の
変化」 室田康子／ゆのまえ知子／金井淑子／ア
ジアの買春春に対する男たちの会／吉武輝子

現地からの報告に加え、さまざまな女たちが想いを
述べ、語り合う。伊藤ルイ／千葉仁子／小木曾美和子
／松浦雅代／落合誓子／伊藤至頼／堤愛子／三輪妙
子／石塚友子／添野ふみ子／村田まり子／水沢靖子

女たちの 反原発

三輪妙子編著

四六判並製
240頁、1339円(税込)

原発いらない！ 熱い想いをこめて

女と男

幼きころの思い出

女体の美しさを知りはじめたころ

福島県福島市

並木 勲

今年はおくのはそ道三百年。

紀行文を見ながら、ふと、幼いころを思った。

終戦の翌年、小学五年生。私は須賀川にいた。官舎は十念寺の境内にあった。

この寺は、町の中心近くにある浄土宗の名刹で、「おくのはそ道」奥羽行脚の際、芭蕉が弟子の曾良とともに立ち寄ったという。

当時の和尚さんが俳諧をよくし、芭蕉の知己の一人だったとか。

白川の関で名高い白河から三十キロほど北にある町、かつての奥州探題、さらには中世大名二階堂氏の居城地であった須賀川。

近世になってからの須賀川は、もっぱら商業の町・宿場町として栄え、その自由な町人中心の空気が俳諧の隆盛をもたらした

ものと思われ、俳人が続出している。

ここで芭蕉は俳友（気を許せる兄弟子格のひとつであったという）相楽等躬宅に一週間も滞在したことはよく知られている。彼の案内で近郊の名所を見たり、俳席にも出たのであろう。

十念寺には「風流のはじめや奥の田うえ唄」と刻された句碑があり、いまから約百五十年前、本県一の女流俳人市原多代女が建立したもの。彼女は慶応元年に没した。行年八十九歳。当寺に墓がある。

彼女の句「終にゆく 道はいづくぞはなの雲」……私が好きな句の一つである。そのようなことは当時は知るべくもなかったし、やんちゃな年代であったから、いろいろと思い切って好きなことをして遊んだ。

高い鐘楼から下の砂地へ飛び降りたり、杉の木によじ登って景色を眺めたり、本堂の縁の下にもぐり込んでの蟻地獄捜し。或いは、猿すべりの木で女の子とたわむれたり危険一杯の、お墓でのかくれんぼや、心臓が凍るような夜中の肝だめしなど……。夏の暑い日には、釈迦堂川に遠足兼水泳に出掛けたものだ。

裏手の坂を下ったところに遊廓街があった、進駐軍の兵士たちがよく来ていた。

彼等は明るくやさしかった。ガムやチョコレートを貰えることもあったので、よくそこへ出かけて行ったものである（今にして思えば哀れなことだが、たべものが少なく、常時腹を空かしていた時代であったのだから）。

暑い頃、そのころは扇風機さえ殆んどなかったのであるが、遊廓の二階が開け放たれ、中で女郎さんが着物を脱ぎ着したり、裸になるさまがよくみえた。当時十一歳の私には意味の判らぬままに、夢のように美しい、遠い思い出として残っている。

愉快なことに、むしろ強烈に覚えているのは、兵士たちが面白がって、よくチン振

りをして見せたことだ。今では考えられないこと。あかくて、とても太くみえた。触るとチョコレットを買えたが、さすがにその気にはなれなかった。

まちを走っていたジープが、とてもとてもなつかしい。

官舎には、水道も風呂もなく、水は近くの井戸から汲んで使い、風呂は前の家に、毎日入れて貰いに行っていた。

そこには、二十一、三歳（「出戻り」……戦争のせいだと母は言った）の姉妹が住んでいて、帰校後遊びに行くと、着物姿の二人がとても歓迎してくれた。

いま考えてみると、この二人には相当鬱積したものがあったのかも知れない。ちょうどそこに現われた私は、美少年ではないにしても絶好の玩具だったのであるうか。

あれは、もう肌寒い十一月ごろだったろうか、翠ヶ丘公園の五老山へ「松明あかし」を見に連れて行って貰った。

あのころだったから、多分私も着物を着て行ったような気がするのだが、真昼のようには明るいかがり火に映えて、着物姿の彼女たち二人の顔が蕩たけて、まるでお姫様

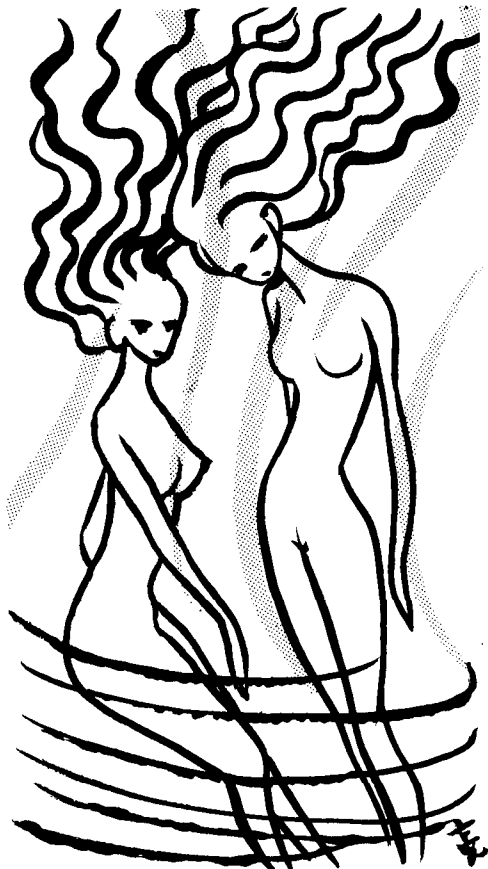
のように見え、美しいな！と感じたことを覚えていた。春五月、三百種四千株もある優美な牡丹園へ。また五月雨のころ、滝降りうずむ「乙字ヶ滝」へ訪れたことも思い出深い。

冬の遊びは「かるた」であった。随分やったもので、いやでも覚えてしまった。あとは何を楽しんだらうか。暗い六畳の部屋に煉炭の匂いのする掘り炬燵があって、そこに皆がいて……暖かい炬燵だった。

そして夕方には、母が幼い弟とともに入

浴させてもらいに来る前に、二人が毎日交代で、私を風呂に入れてくれるのが日課になっていた。古びた風呂小屋に五右衛門風呂がどっしりと据え付けられていて、一方、これまた頑丈に作られた洗いの褐色に光る厚板の上に腰を下ろして、私は毎日、まわりのくすんだ雰囲気とは全く対照的に真っ白に光り輝き、しかもいくらかタイプの異なった、二人の異性の裸身に対面させられたのであった。

幼いころのことだし、かなりの年月も過



「土」に帰す

東京都多摩市 たかのようこ

ぎているので、細かい記憶は薄れてしまっ
たが、あのとき強く感じた部分は今でも鮮
明で、かつ徐々に美化され、決して消える
ことがない。

確かお姉さんのほうは、ほっそりタイプ
であった。色は真っ白というよりは、いく
らかうつすらと赤みを帯びていて、肩から
腰にかけての拋物線と胸の隆起の曲線がす
ばらしく、自分もこんな風になってみたい
なと憧れを感じたことを覚えている。

妹は透き通るような真っ白い肌をしてい
て、小太りであった。乳房はお姉さんより
大きくふくよかで、なんだかとても懐かし
くて、「吸ってみたい!」と思ったものだ。
そしてふと、触れてしまったおなかの膨ら
みや、あの白いお尻の、なんとやわらかか
ったことか。

そんな日々がどのくらい続いたのか今は
忘れてしまった。境内にある梅の花が咲き
はじめたころ、父の転勤で私達はこの家を
去る。別れの日、ふたりは奇麗に化粧して
見送ってくれた。美しかった!

万感の思いを込めて、私はふたりに、そ
して十一歳に別れを告げたのであった。

都広報で「都営霊園の使用者募集」を目
にしたとき、故郷の寺に納骨したままの
「彼」を近くに連れてこられると思いまし
た。

彼は死に際して、実家の神葬でなく仏葬
を望み、「ほんとうの息子にして下さい」
と私の母に言いました。結婚のとき、一人
娘の私の姓になることをかたく拒んだ
彼でした。その後容態の悪化で、戸籍上の
息子は実現しませんでした。彼の言葉に感
激した母は、寺の手配から戒名まで「私
がお金を出すから」と、遺された者の自己満
足かもしれないが、実の娘が嫉妬するほ
ど一生懸命でした。月命日には納骨堂へ手
作りだんごを供えに通っていると聞き、彼
も本望だろうと思っていました。

八月の新盆を前に、墓所のめどがついた
との便りに戸惑っています。遺骨はカルシ
ウムとリンと……単なる「物質」で「彼」
ではないはずなのに、いざ故郷の「土」に
帰すとなるとためらいがあります。彼と私

の故郷は特急で二時間余り、日帰り可能な
土地ですが、都内のようにには行けない距離
感が決断を鈍らせます。

条件項目の中に、申請資格者(私)が「都
内に五年以上継続して居住」とあり、単身
赴任ならば資格があったのに、家族で転勤
地へ行ったために申し込みできません。
近くなら経済的理由からも都営霊園と思
ったのです。彼は、病死したのが北埼玉の



転勤先なら安住の地もまた東京から拒否さ
れたようです。

迎え火に「彼」を待ちながら、憧れた東
京からも華々しい本社からも飛ばされて、
「湯本(私の実家のある町名)で死にたい」
と言った彼を思うと、故郷の「土」へ帰す
のが最善かもしれないと思い始めました。

割りカンに揺らぐ女心

兵庫県神戸市 岩田 佳子(52歳)

ある新聞の投稿欄に「いい男が少なくな

った」と題して、仕事の帰りに男三人、女

二人で喫茶店に入ったところ、コーヒード

を割りカンで払うことになった。合計金額

千七百五十円ぐらい男性が払えば、男が立

つのに。と皮肉っぽい感想を述べた文が掲

載されていた。

投稿の主は四十代の女性であった。

私の身近に、現在不倫をしている中年の

一組がいる。彼らは食事代などデートの費

用すべて割りカンにしている。

先日、誰かがあの二人はきつとホテル代

も割りカンにしてるに違いないと、言い始

めた。

彼女は、女にも性処理が必要だと、日ご

ろからわれわれに公言している。まして、

収入の高いキャリアウーマンだ。男性のほ

うも、所帯の匂いを感じさせない冷めたタ

イプだ。

割りカンでホテル代を払っている二人の

姿をありありと思ひ浮かべることができた。

話に加わっていた女性軍の反応はと言え

ば、概ねキャリアウーマンに同情心を示し

た。ホテル代ぐらい男性が持つべきと、言

いたいのだ。

男性軍のほうは、応分の負担で、割りカ

ンは理にかなってるとるんじゃないかと、われわれ女性の顔を伺いながら言った。

合意の上での違い引きの費用を割りカン

にするのは当然だとは思っている。だが、

われわれ女性には、なんとなく釈然としな

いものが残る。

それは、何故なのか。

私たちの気持ちの中に、男性に保護され

たいという潜在的欲望があるからなのか。

男性にかしずかせたい誇り故か。

結局、「従来、社会から受けた教育によ

るもの」が私たちにそう思わせるのではな

いかということに、私は落ち着いたが、話

しているうち、なんだか男性がかわいそう

に思えてきた。

弥栄之郷共同体著 定価二六四八円／千二六〇円 俺たちの屋号は「キョードータイ」



九月二十日 新刊

自然食通信43 隔月刊／定価570円 発売中 千210円

特集 治したいときに 草も野菜も 自然の妙薬

村に楽しい農業と暮らしを——島根・弥栄之郷共同体の17年

「人間が自立しうる暮らしのあり方」を求め中国山地に入った若者たち。深刻さを増す環境破壊と、不確かな豊かさに見える都市との連携を強めつつ、有機農業に自然と人の魅力を夢みるキョードータイが村ひととともに印した足跡と、新たな展望。

農場の作物、草、木の実など身近なもの力を生かして自然に逆らわず、自分で治す。一条ふみさん(岩手県)の知恵の数々。第二特集は生落花生の魅力。

書店でのご注文は発売元・新泉社で

東京都文京区本郷2-6-10

03(816)3857 振替・東京5-78026

自然食通信社

レストランにて

宮城県仙台市

立花 由利

新設団地が続く、緑が多い丘陵地のいちばん上に三階建ての大きなレストランができた。ネオンのアウトラインが不思議な感じの、うす紫みたいなベージュみたいな色の建物だ。遠くに太平洋が見える、その店にPTAの打ち合わせの後、ランチを食べに行った。

ピカピカの部屋でバイキング式のランチを食べて、食後のコーヒーを飲み出したとき、その話は始まった。

「先週ね、ダンナがフィリピンにゴルフをしに行ったのよ。遊びに行ったら、必ず、やってくるからさ、抗生物質、渡しとくのよ。病気だけは怖いからね」

買春ツアーの話だった。私にとって身近に聞くことは初めてだったので、思わず、ドキドキしてしまった。私は買春ツアーは日本人として恥じるべきものと信じていたもので、よけいに、ドキドキしたのかもしれない。（それにしても、抗生物質は薬局で買えないのどこで手に入れるのだろう？）

「日本ではさ、絶対、浮気なんか許さないけど、外国でなら、どんどんしいいって言うてるのよね。まあ、男だもんね」と、「ギャハハハ」と豪快に笑っている。さらに、「あっちの女の人って、あそこが小さくて、とってもいいんだってダンナが言うのよね。おまえと大違いだって言うんだからさ」と、また、ギャハハハ。

四人のうち一人だけかと思っていたら、もう一人、かわいい感じの小柄な奥さんが、にこっと笑いながら、

「うちのまさ、『もう髪の毛の黒いのは全部したから、金髪のともし、是非、やってみたい』って言ってんのよねえ」と、言うのだった。

私は何だか、あせりにあせてしまったが、何食わぬ顔でコーヒーを飲むしかなかった。ものすごい話を聞いたせいか、どっと疲れを感じた。

いまたとえば、妻たちが、フィリピンにゴルフツアーに行って来て、帰って来るな



り、「フィリピンの男のあれは最高だったわよ」と、ダンナに打ち明けたら、どんなふうになるだろう？（女はシタカだから黙っているだろうけど）

そのうち、女が強くなった頃には、妻が東南アジアツアーに行くとき、

「抗生物質とピルを忘れずに飲むんだよ」なんていう、物わりの良い夫がいたりするかもしれない。……と、変なことをいまだに考えている私は、あのレストランでの会話について、夫には、言う気になれない。言ってみたくないような気がするのだけれど……。

（え・田井亮子）

OPINION ● オピニオン

消費税を考える

高知県高知市・山中 宮枝

平成元年の四月一日から消費税が実施されました。

三月末の庶民の姿、竹下さんは全くご存じではないでしょうね。

スーパーへ行きますと、山のような買い物をしている人々を見かけました。日用品だとか缶詰とか保存食のような物ばかりです。でもこんなに女の人が精いっぱい買い込んだとて、何年分も買えるわけのものでもありませんよね。

私もそのころ考えました。消費税は恐怖に感じられましたから、四月に入らないうちに欲しい物は買ったほうが得かもしれないとあれこれ考えてみました。

欲を言えば果てしがありませんが、結局何も買いませんでした。ちょうど月末で懐が淋しかったせいもありますが、前

にあった石油ショックのことを思い出したりして、まあ何とかなるんじゃないかと思っているうちに三月は終わってしまったという訳で、正直ちょっと惜しいような氣もしました。

消費税実施を前に蟻の如く

雑貨を買い込む年金生活

これは福井県の人のお歌です。

さて四月になりました。桜の季節とはうらはらに主婦は頭の痛いことです。一日から何を買ってもビシビシ税をとられます。これだったら、少しでも買っておいたらよかったなあと思っても後の祭りです。スーパーでは代金の上に容赦なく税が加算されますので、こちらはもうハラハラして見えています。

次からは一品控えむスーパーに

消費税打つレシート眺めつ

愛知県の人が詠んだ歌です。実感がこもっていると思いませんか？

これからの話は八十歳になる一人暮らしのお婆さんの話です。若いころ労働だけで貯めたお金を少しずつ使っています。老齢年金がほんの涙ほど入りますが、それはお小遣い程度です。体が動けるうちは人の世話にならないと言って、子供のころへは行こうとしません。市の生活保護などはもってのほかです。はたで見ているも本当につましい生活をしているのがわかります。お魚などいつ買うのでしょうか、たいていは芋やら大根やら煮て食べているんです。豆腐が好きなので、今まではときどき一丁買っていたのですが、税がかかるようになってから半丁になりました。お婆さんはこんなことを言っていました。

「わたしらの買うもんはしれたもんじゃけんど、やっぱり税金がつくけん豆腐でも減らさなきゃあ減らすもんがない」と。

お婆さんの買い物には何一つ無駄なものがないんですね、だから減らすとなると

豆腐しかないのです。八十歳にもなって大好きな豆腐さえ思うまま食べられないとは少し酷と思われませんか。

また若いお母さんは幼い子供のオヤツ代を心配していました。オヤツ代って見た目にはそう大したお金には思えないかもしれないけど、年が若いだけご主人の給料も安くてあれでなかなか負担がかかるのですって。

広い世間にはマイホームを建てるために苦勞している人もあれば、子供の学資に一生懸命の人もあると思います。似たりよったりのやりくりはみなしているのです。

いずれにしろ消費税は食費ばかりでなく生活費一般にかかってくるから困るのですね。

いくら生活が苦しくなったとか何とか言っても若い人はまだいいと思います。現役でバリバリ働けるのですから。ご主人の給料だって年々上がってくるでしょう。ボーナスも入ってくる。希望があると思うのです。そこへくると惨めに思えるのが年金暮らしの老人です。そりゃあ月々

年金はもらえますけど大したものではないのです。年寄りはお金はいらないと若い人は思うかも知れませんが、案外そうじゃあないのです。なるほど子供等は一応成長して手はかかりません。けれど子供等と別居しておりますと交際費は戸前いるのです。

若い人から年寄りまでいろいろな形で悩ませた消費税。七月の参院選で自民党は惨敗しましたね。これは国民の怒りの表われだと思えます。あたりまえのことですよね。大勢の中にはすかつとした気持ちを味わわれた人もあるでしょう。

これからは土井たか子さんの活躍が見

「アブナイ」

神奈川県藤沢市・上野由紀子(26歳)

最近のウチの夫婦の会話のテーマはもっぱら、「アブナイ」である。ほとんどコレばかりだ。「アブナイ」というのは、「危ない道路」等の危ない、ではない。アブ・ナイなのだ。

連続幼女誘拐殺人の犯人が逮捕されて

ものですね。参院選のときたか子さんは消費税全廃を高々ととなえられました。あのときはどたか子さんが頼もしく思えたことはありませんでした。この人はきつと豆腐半丁しか買えないお年寄りの味方だと思いました。

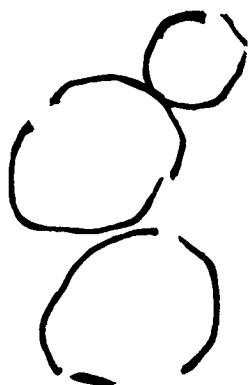
政府自民党のお偉方は些細なこんなことには「何を細かいことを、慣れれば済むことじゃ」と取り上げないでしょうね。来年は衆議院の選挙があります。どうサイコロが振られるかわかりませんが、その後の消費税の行方に注目しなければならぬと思います。女には女でしかわからないことがあるのですから。

からというものの、我が家の食卓であの犯人の青年のアブナさが話題にのぼらぬ日はない。彼は我々の言うアブナさのまさに典型と言えよう。

主人が定義する「アブナイ」とは、男性の場合、身長が低い↓自分の容姿等に

対するコンプレックスが強い↓大人の女性と正常な恋愛ができない↓自分の世界に閉じこもる、ということらしい。彼のアブナさは自らの異常な世界を極め尽くし、あのようなむごたらしい事件を引き起こした。

では女の場合はどうなのだろう。数年



前、「青春の巨匠」の異名をとる俳優が司会をする番組の見学に某TV局へ行ったときの話。ロビーには、彼の親衛隊とおぼしき異様な一団が集まっていた。本番前、外で待たされている間彼女達と話をする。みんな人なつこく親しみやすい……のはいいが、年を聞いてビックリ!! ある女性は堂々と「私、三十七ヨ」着ている服が余りにも子供っぽかったのかわからなかったが、よく見ると顔がヒネ

ている。大きなボストンバッグを提げていたので「ソレ何が入ってるの?」と尋ねると「Mさん(その俳優の名)のプロマイドや雑誌の切り抜き、何でも入ってるの」と言う。どこへ行くにも持ち歩いているらしい。何でもデビュー当時からの大ファンで、彼の主演映画にエキストラとして出演したこともあるとのこと。会社からもらったお給料はほとんど彼のため(追っかけの交通費など)に使ってしまうそうだ。もちろん彼女は独身である。ここまでやるとファンというより信者というべきだろう。うーんスゴイ!!

帰り道、一緒に行ったまだ結婚前のうちのダンナはしきりに「アブねェァ」を繰り返していた。光GENJIに夢中になっている女子高生だって一種のハシカと同じである。ある年齢になれば急に熱がさめるもの。あれはあれでいいのだ。

普通、人はある年齢になれば将来のことをおぼろげにも考え始める。働いてれば貯金をしておこうぐらいの心掛けは自然に湧く。ところが何かの間違いでいったんソノ道にのめり込んでしまうと、

年のことなどすっかり忘れて(アンタそろそろ年を考えないと……とも、親は言わないのだろう)しまうアブナさ。別に結婚なんかしなくたっていい。ただ、いつまでもこんなことやってられないナと本人が気付いてからでは遅い。いや一生気付かないかもしれないからアブナイのである。

何か夢中になれるものがあるということとはそれ自体生きがいになるし大いに結構だが、物事には程度ってものがある。

別に私があればこれ言う筋合いはないのだが、実は私の友人のほとんどが独身で、

みなアブない要素が濃い。結婚しない女性、結婚できない男性が増えているというが、その言葉のカゲにこうしたアブナイ男女の存在があることを知って欲しい。

ちなみに彼女達に共通していることは、ずっと親元住まいで、親掛かりのラクチンな生活を続けていることだ。だから世の中の本当の苦労というものをほとんど知らないと言っている。苦労といったってせいぜい職場に意地の悪いセンパイがいるだとか、夏のボーナスが思ったより

少なくて頭に来たとか、その程度のことだ。強い結婚願望はない代わりに、いつか自分の前に王子様が現われるのを待っているようなところがある。

かといって二十六歳という年齢にしてこれといった恋愛経験ナシ。誰か紹介しようとしても一対一の「おつき合い」となると尻ごみしてしまう。勤め先に不満があるくせに、やめてから別の所を探すのが面倒なばかりに何となく会社に通う毎日。ええい、こうなりや不倫でもいいからとにかく一度男と恋愛してみろと言いたくなる。しかも、年はとっていても挨拶一つ口クにできないし、社会的ジョ

いま、結婚式は

東京都練馬区・芹沢茂登子

子ども達がいつのまにか結婚する年齢になった。となると親の世代である私達が集まるとき、話題はしげんに娘や息子の結婚式のことと及ぶことが多い。

私達親の世代が結婚したのは、一九五〇年代だったから、今にくらべればまこ

ーシキは欠落している。テレビ局で会った三十七歳の女性とはやや路線は異なるものの、もうすぐ三十だぜ、アブナイよ。そう言えば、私が長男（一歳）を産んだときの話をその中の一人にしたらブツ飛んでいた。ちょっと刺激が強過ぎたのだろうか。

断っておくが、これは結婚云々の話ではない。テーマは「アブナイ」である。いくつになっても子供のような純粹さは失いたくないが、ちっとも人間的に成長していないことは「アブナイ」のであって、そのためには理屈抜きで恋愛の一つもするべきだということである。

とに質素なものが多かった。第一今と違ってホテルなども数少なく、設備としても簡素な区や大学関係など公共の会館で行なう例が多かったのだ。

しかし、それよりも私の周辺の仲間達は、結婚は家と家が行なうものでなく、

二人の合意によって成立させ、新たなスタートを自分達のスタートにふさわしいものにしたいという気持ちに満ち満ちていたように思う。

戦後民主主義の実現の中で、神前でもなく、仏前でもなく、自分達の親、きょうだいや友人達の前で結婚を誓うというやり方が結婚式の新しいスタイルとして生み出された。そして、その費用も参加者の会費でまかなわれたから、低収入の若い世代に経済的負担がかかるということもなかったのである。

ところが今、見聞きする結婚式はどうだろう。いまだにイエ制度の名残りでもある両家の結納のとりかわし、当日ともなれば新郎新婦ともども、二度三度のお色直し、超大なウェディング・ケーキカットの儀式にキャンドルサービス、なかにはゴンドラに乗って新郎新婦が登場するものもあって、これでもかこれでもかといった具合に演出がこらされ、その分莫大な費用が加算されていく。その上、引き出物の数々……。

どうもこれは若い二人が「結婚式をし

「ようかな」と、目ざすホテルの相談係の前に座ったとたん、魔法にかかったように判断力をなくしてしまうところから出発する。このとき、母親も心配になっについて行く例が多いようだが、その母親こそどうも真っ先にこの魔法にかかってしまうのが問題なのである。

「ねえ、お母様、一生に一度のお嬢様の結婚式じゃございませんか。やはり最初は文金高島田の花嫁姿、これはご両家のご両親様ならぜひご覧になりたいのじゃございませんか。その後ウエディングドレスになさって、最後は可愛いピンクのドレスもきつとお似合いになりますよ。そうそう花婿さんもそれに合わせてお色直しなさいませんか……」

引き出物は当ホテルと契約しておりますこの品々がございます。この中から数点お選び下さいませ。ええーこれとこれとこれと……」

かくして母親を筆頭に三人は魔法にかかり、結婚式の費用は果てしなくふくらんでいく。

こうした傾向は都会のみならず地方で

はさらにエスカレートしている。結婚する当人達とはまったく関係のない人々が招かれ、招待客は三百人以上という披露宴も多いのが地方の現状。なんとかして古い因襲にとらわれない結婚式を行いたいと思いつつ、親側の世間体をはばかる思惑や見栄に押されて、結婚する当事者が意志を放棄してしまう例も多い。

さて、こんな状況の中、地方都市で行なわれた若い友人大久保貴美さんとその夫となる細居俊明さんの結婚を祝う会



は、まことに爽やかなものだった。

まず、二人の手づくりのご案内状とその文面に感銘を受けた。その一部をご紹介しよう。

「……私たちは昨年暮れ、結婚の約束を交わし、二人で人間らしい豊かな共同生活築いていくことを誓いました。」

私たちにもようやく春が訪れてきたようです。

二人の新たな生活は、何よりも私たち自身の力で創り上げていかなければならないものです。しかし、これまでの私たちそれぞれの歩みがそうであったように、これからの二人の歩みも周囲の方々とりわけ皆様との関係なくしては考えられません。

そこで、これまで私たちを力強く支えて下さいましたことへの感謝の気持ちをこめて、皆様の前で、結婚の誓いを新たにするともに、今後とも末長く心の通うおつきあいをお願いいたしたく、ささやかなものでありますが、右記のように結婚の式と披露の宴を行いたいと考えております。ご多忙のこととは存じますが、ご来席を賜りますようお願い申し上げます。新たな出発の時を皆様とともに過ごすことができればたいへん幸せです」

ご両人の結婚を祝う会は、このような形で行ないたいというお二人の意志と友人達の協力によって準備され、実施された。

会はずまず二人の自己紹介を兼ねた挨拶に始まり、次いで誓いのことばが述べられた。

誓いのことばを受けて、次には「二人へのメッセージ」が出席者代表から述べられ、次に「婚姻届」への署名と結婚指輪の交換が行なわれた。

私達夫婦は婚姻届の立会人として、本人達が署名するのを見守り、私達も証人欄に署名捺印した。婚姻届は直ちに友人によって、すぐ近くにある区役所に届けられ、走って帰ってきた友人は「午後三時×分たしかに婚姻届が受理されました」と報告して、出席者達になごやかなどよめきが起こった。

仲人という形でなく、婚姻届の証人という立場に徹するというのもまことに明快であった。壇上に座るのは若い二人だけ、そばに立つ友人代表男女二名の司会で、第二部はまず乾杯、お祝いのことばやフルート独奏やらがなごやかに続く。

ウェディングケーキカットのかわりに行なわれた「二人による苗木の鉢植え」というのもよかった。司会者のS氏が遠

方まで行って買いたいちいの木（アララギ）を準備し、二人で土を加え、植樹をした。

最後はご両親からの挨拶や二人からの

お母さん 自分を責めないで

石川県小松市・田辺佐智子（31歳）

思春期の子供達のことを、「疾風怒濤時代」とも言う。自分の職場は中学校であるが、幼い顔の制服ばかりが大きかった新入生が、わずか三年で背丈もグンと伸び、ヒゲまではえて、ほぼ大人の体つきになって卒業していく。その体と心のアンバランス。中学生の心は傷つきやすい。登校拒否や非行に走る子も、何人か見てきた。

そんな子供達を家庭訪問し、母親と接してみても、強く思うことがある。それは、「おかあさん、そんなに自分の過去を責めないで」ということだ。

ご主人と二人で床屋をやっておられるお母さんがいた。息子さんが中学三年になって荒れた。そのときお母さんは、ひ

挨拶があつて閉会、記念品としては地元Y氏制作の小さな銅版画をいただき、いちいの木の成長とともにお二人の幸せを願って、幸せな気持ちで帰路についた。

たすら自分を責めた。「この子がこんなになったのは、私のせい。小さいころに、店を切り盛りするのに必死で、母乳も与えず、あまり抱くこともしなかった。それが今になって……」と。登校拒否の子を持つ母親も同じく涙ながらに自分を鞭打つ。どうして、こんなに母親は我が子に罪悪感を抱かなくてはならないのか。

生徒指導研究会に出席したときのことだった。男性講師は、登校拒否の主因は母親にあるとし、母親と子の生育歴を再考察すべしと述べた。聴講していた自分は、思わず反論してしまった。「自分自身をむやみに責めさいな母親の不安をとりのぞき、アドバイスし、応援することこそ大切なのではないか」と。

自分が子をもってみて、今まで見えなかったことが見えるようになってきた。母乳絶対論、母子相互作用、母子のスキンシップ、これらの言葉が上のほうから威圧感を持って世の母親達にふりかかっていないだろうか。働く母親にとって、それらの言葉はいつも胸の奥にズシリと響く不安の種だ。しかし、「大切だから」

と我が子を抱くのではなく、「ああ、愛しいな」と我が子を抱くのが自然ではないか。たとえわずかな時間であったとしても。

お母さん、自分自身を責めるのはやめよう。あなたは生きることには必死だった。それで充分ではないか。前をむいていっしょに歩きましょう。

病気とプライバシー

栃木県鹿沼市・神山 寿子

病院ってプライバシーのない所だと思いませんか？

私はネが丈夫なもので、めったに病院には行きませんが、行くたびに恥ずかしくなったり、とまどったりしてしまうのです。

ボウコウ炎で総合病院へ行けば、カーテン一枚の向こうで何人もの患者さんが聞いているのに、「オシッコをするたびにとても痛くて血がまじります」と説明しなくてはならないとか、生理不順で産婦人科医院に行けば、ついたての向こう

で順番を待っている人がいるのに「もっと大きく足を広げるように」指示され、「ここはどんなふうですか」と尋ねられたりするのです。

この間中耳炎で耳鼻科に行ったときは、診察台の横にベンチがあり、前の患者さんが舌を出させられたり、耳をほじくられたり、鼻の穴を広げられたりするのを見ながら、順番を待つようになっていました。

診察する側からすれば、合理性、迅速性や診察室の広さ、人手不足など理由が

あるのですが、他人につつぬけの診察では言いたいことも言えず、聞きたいことも聞けずということも多いはずですが、実際にいくら私がズーズーしくても、他人に（知人もあるかもしれないのに）聞こえているのが分かっている所で、「性交時に（排便時でもよいが）カクカクシカジカの問題が起こり、コレコレコウコウの場所が痛い」などと平気で言えるとはとても思えない。

それとも病人は相身互い。「あなたの苦しみは私の苦しみ」で分かちあえと言うのでしょうか。

思わず聞いてしまった他人の病状にこっぴどく動揺してしまうのが関の山の私にとって、「病人にプライバシーを」というのは、マナーとしても最少限度必要なことだと思われれます。

オシッコの入ったコップを持ってウロウロするぐらいは我慢しますが、どうしてもそういうハメになったかは他人に知れない程度のプライバシーはあってよいと思います。

（え・岡田正子）

読・ん・で・み・ま・し・た

自然食は安全か

(農文協健康双書)

高橋昴正著

東京都八王子市 和田 好子

著者は東大医学部の講師であった医学博士。というより、反公害運動のリーダーとして名高い人である。

それが、自然食運動に対して鋭い批判をした。

まず、「帰るべき自然はあるか」と彼は問う。消費者運動と大学改革運動とが結び付いて生まれた自然回帰思想は、近代の科学によって構築された社会をすべて悪いものとし、自然に戻れと訴える。しかし自然とはすべて善いものだろうか。科学は自然を知り、変革することによって、人間を病気や、短命や、苦しい労働から解放した面があるではないか。原始の自然は人間に対して非常に厳しいものなのだ。そこへ戻れというなら、堅

穴住居に住んだらどうか。電気冷蔵庫や電話、テレビを持ち、買って来たマスの口の衣服を着け、外出には電車やバスに乗る。それで、自然食・運動とはこれいかに。都合の良い自然のツマミ食いではないか。

科学によって人間が病気を克服してきた歴史のあらましを述べて、人間が今さら自然に戻って、困窮と重労働に耐えることはありそうにないし、原始的な生産で数十億にも及んだ人口は養えないだろう、と彼は説く。

現在、自然食とよばれて流行し、多少高価な食品を総まくりで点検してあるが、玄米食の害作用から、脂肪、塩漬魚などの発ガン性の真偽、ニンニクなどアリナ

ミン信仰のうそ、化学塩と自然塩の比較——自然塩といっても今では輸入もので、赤穂の海で採れたわけではなく、化学塩と変りがない——など、我々がつねづね信じ込んでいる常識？が次々くつがえされていく。

野菜の残留農薬は、現在ではほとんど検出されず、稲の除草剤もクキの途中までしか浸み登らないので、米には入らないというのだから驚く。

しかし著者は公害がなくなったというのではない。農作物からは検出されない農薬も、河川や海に流れ入る。有機農業も放射能汚染があつては危険農法だ。対処法は自然に帰ることではなく、公害をなくす内省的科学の確立である、と。強烈な説得力を持つ一冊である。

農山漁村文化協会 一一〇〇円



メダリスト

水の女王 田中聡子の半生

佐々木博子著

東京都品川区 宇野 佳子(36歳)

ローマオリンピック、百メートル背泳ぎで三位の銅メダル。東京オリンピックで、四位入賞を果たした田中聡子の半生記である。

かつての「水の女王」も四十の半ばを過ぎた。一九六六年のアジア大会で三連覇の偉業を花道に引退、翌年、結婚生活に入り、三人の娘に恵まれた。

六年間は普通の主婦として子育てに専念し、平凡で幸せな日々を過ごしていたが、「いまの生活を続けていていいのだろうか。何かしなければ、このまま年をとってしまふ」という思いにかられる。

長女が小学一年のとき、激しいせんそくの発作に襲われて入院。この体験が、「せんそく児水泳教室」に関わることとなり、聡子を社会へ進出させるきっかけになった。

現在、「サトコ先生は四割主婦」と言

われながら、月、金曜日は新宿、火曜日は江戸川、木曜日は高井戸のスイミングコーチをしている。月一回は、福岡へ「せんそく児水泳教室」の指導に行く。講演の依頼もある。そして、自分は、世界マスターズ大会で水泳を楽しむ。「水の中にいるのが、楽しい。水泳をしてよかった」という聡子。

十七歳で初めて樹立した二百メートル背泳ぎ二分三十七秒一の世界新記録。それを自ら書き直し続けて二分二十八秒二。最後の世界新は二十一歳だった。四年間に八・九秒一。

聡子の人生を支えたもの。それは「八・九秒に燃えた青春」。それをバネに、聡子は歩み続けている。

東京オリンピック以後、日本の水泳界は低迷が続いている。どうすれば、世界に伍する力をつけることができるのか。



血のにじむような毎日の練習、試合経験。そして言い訳を許さない作戦。この三つがそろって初めていい試合展開、満足のいく結果が得られる。ところが、同じにやっても、力を出せる人と出せない人との差がある。「その差はなんだろうと考えると、わたしは自分を信じられるか、信じられないかの差だと思う」と、勝負度胸のあった聡子は言う。

私は、この本を読み終えて「我が人生を振り返ってしまった。自分を信じられるか信じられないかの差で、その人の一生が決まってしまうのかもしれない。どうせ同じ一生なら、私は、自分を信じられるというまで、力を出し尽くす人生を送りたい、と思った。

毎日新聞社 一二〇〇円

登校拒否の娘とともに

愛知県 匿名

足が立たなくなつた

本誌にも、以前、「登校拒否になりかけた息子」という投稿がありました。とびつような思いで読んだことでした。娘の場合、なりかけてからもう二年以上、完全に行かなくなつてから八か月になります。本来なら高一ですが、中三を留年しています。



娘は私立中学校に入り、普通にやっていたが（と、親が思っていただけなのですが）、中二の五月初めより、登校を渋るようになりました。家庭科で使う布を失くしたとか、鼻血が出そうだから、と言いつつ、どんなに行かせようとしても、もう足が立たなくなっていました。

二週間ほど後、学校で紹介されたカウンセラーを、私ひとりで訪ねました。娘はどこへも出かけようとはしませんでした。この先生は、子どもは来られないのが当然だ、お母さんひとり来てください、とのことで、週一回通い始めました。この間、娘はずっと休んだままです。

十回目ぐらいから、このカウンセラー氏、子どもが来なくては話にならん、とだんだん風向きが



変わってきました。そして何とか一緒に連れて来るようにと、言われるので、引っぱるようにして連れて行ったのです。行くには行ったのですが、娘は、学校が嫌な理由など聞かれても、はっきり答えないので。すると、この先生、ついにしびれを切らして、娘に向かって「どうして返事をしないのだ、何というわがままで」私に向かって「何としても学校へ出さない」「えらい苦勞ばかりさせられて」

教員を退職後この仕事をしている高名な先生ということでしたが、これらの言葉を浴びたとき、私は、何がカウンセラーだ、と腹の底から怒りがこみあげてきました。料金は一時間三千円以上、あとは志のままで、と最初に言われましたので、少しでも上乗せして払っていましたが、その「志」の分が足りなかったのかなどと、勘ぐりさえしたくなりました。回を重ねるごとに、先生の態度が少しずつ変わってくることに気はついていました。が、このときの見舞には驚き、そしてあきれてしまいました。もう二度と行く気にはなれませんでした。

した。

その後、とびとびながら何とか登校するようになり、二年から三年に進級ができました。進級できるとわかったとき、私は力がぬけて、台所の床にへなへなと座りこんでしまうほどでした。ああ、よかった、進級できた、と、心から嬉しかったのです。

しかし、それは、娘の気持ちを察することなく、親が勝手に喜んでいただけだったのでした。娘は嬉しいことは嬉しかった、でもそれ以上に苦しかったのでした。五月の連休明けから、再び行けなくなっていました。

ユーモアもある色白の乙女

「ゆっくり休ませなさい」とか「子どもに任せなさい」とか、ラジオの教育相談でもくり返し言われています。でも、実際に、自分の子が毎朝毎朝ぐずぐずとしてベッドに腰かけたままとか、制服は着たけれど玄関に座りこんで動かない、ということが続きますと、もうだめです。私は、だめでした。「お母さんと一緒にもう死のう、死ねば楽になる、学校へもう行かなくてもよくなる」と、叫びました。ある日は「もう、今日も行かないのなら、お母さんは首をつって死ぬから」と泣き

登校拒否の娘とともに

喚きました。自分のしていることは愚かしいとは思いつながら、自分にブレーキがかからないのです。「教室に行かなくても良い? カウンセラー室でも良い?」と、ぼそっと小さい声で娘は聞き、昼ごろに学校へひとり出かけていきました。

今、思い出しながら、これを書いていきますと、そのときの娘の追いつめられた悲しさ、誰にも自分の気持ちを知らせてもらえない寂しさが思われて、泣けてきてしまいます。

このころから、娘は、学校のカウンセラー室へボランティアで週一回来てくださったカウンセラーのY先生に、少しずつなじむようになりました。四十歳ほどの、それはやさしさに満ちた女の先生です。「お母さん、Y先生はね、黙っているときでも目が笑っているんだよ」と、娘が私に言いました。この子の求めているものは、言葉ではなく心なのだ、と今にして思います。早く教室へ出られるようにと、慰め、励ますことは、この子にとっては苦痛以外の何だというのでしょうか。そんなことより、まず、自分のこの苦しい気持ちを少しでもわかってほしいのに……。Y先生が、そっとそっと子どもに寄り添って、ひたすらその心をわかろうとしてくださっている、ということも、ようやく今ごろになって私に見え始めてきたことで

す。Y先生は、登校させることよりも、子どもの心を知ることには力を注いでくださったのでした。週の半分ほど、時間はまちまちでしたが、カウンセラー室へ出かける日が十二月まで続きました。その後、もうばったりと行かなくなっていました。三学期も一日も行けませんでした。



学校は、卒業させても良いとのことでしたが、子どもといろいろ考えたり、方々へ相談したりした結果、留年をお願いしました。学校へ籍は残して、今もずっと家にいます。身長一五九センチ、体重五十三キロ、髪は腰まで垂らし、手足の長く伸びた、色白の乙女です。本が大好き、書くことも好き。ひよいひよいとユーモアをとばし、動作が生き生きしていて、話していても面白くてたまりません。飼っている小犬をそれはそれは可愛がり、一緒に寝るほどです。朝は六時半に起きます。

朝、昼、晩、それにおやつもしっかり食べます。私が疲れているときなど、「やってあげる」と、後片づけを手伝ってくれます。

「えらい？　すごい？　りっぱ？　こんなに良い子を持って幸せ？　生きていて良かった？　親孝行の子？　自慢の子？」と、甘えて私に寄りかかりながらたずねます。

カウンセラーのK先生

話は前後しますが、昨年の五月、中三になって再び休み始めてから、カウンセラーのK先生に会いました。K先生は、県の教育センターで開かれた「登校拒否相談会」に講師として来られていた方です。私もその相談会を新聞で知り出席しました。このときのご縁で、今回は個人的にカウンセリングをお願いしたわけです。やはり娘は行きませんがらないので、私が週に一回出かけています。また、八月には、学校の勧めで、精神科へ通いました。学校の上のほうの先生は、

「病気を治すのはあくまで医師である。カウンセラーはカウンセラーでしかない。どうして今まで病院へ行こうとしないのか、先生方も不思議がっている」

と言われました。娘を説得して、精神科へ三、四

回行きました。先生の顔を見ただけで治ると言われるほどのN先生に相談をしました。私も心を打ちわって話せる先生と思いましたが、何しろ大きな病院なので、十分に話す時間はありません。それで、病院のカウンセラーの先生のところへ回されます。娘は、この先生が若い男性ということや、話しくい感じがするために嫌がります。この先生は子どもが来ないと手の打ちようがない、いつでも待っているから、と言って、ときどき私が出かけて話すのをじっと聞いてくださいます。

半年ほど続きましたが、娘に行く気は起こらず、自然に私の足も遠のいてしまいました。女の先生だったら、娘も心を開くかも知れないと、別の病院の精神科の女医さんも訪ねました。

「だめっだめっ、あせっちゃあ。男も女も関係ない、N先生ほどうにかかって、こんな所へ来る必要ない。治るのに最低三年はかかるから、じたばたしない／＼」

その後、同じような子どもを持った親の会の存在を新聞で知り、登校拒否の子ども達を集めたフリー・スクールという所へも、顔を出しました。娘は、嫌だと言って出かけませんが。

話は、K先生のところへ戻りますが、カウンセリングは、もう一年以上続いています。どうして

娘が登校拒否となったのか、原因がわからないのです。K先生は、原因はカウンセリングを続ける中で明らかになってくる、と言われます。子どもは大人の気づかない種々の矛盾を感じ取り、それを今、登校拒否という形でまわりの大人につきつけている、だから、こういう子は世の中を変えるというエネルギーを持っているのであり、こういう子がいるからこそすばらしい、と力説されます。子どもが感じとり、動けなくなっている——子どもをそうさせたものは、

何でしょう。生まれてから十五年間、家庭の中で、伸び伸びと自分を出し切って生きてこれなかったこの子の無念さではないか、私にはそう思われなくなりません。それに大きくかわっているのが、母親である私の性格や生き方や子育ての姿勢であり、家族六人（私の両親、夫、長男、娘、私）のあり様ではないかと考えられるのです。もちろん、



この子の素質もありましょう。だって、同じように育てた二歳上の息子は、普通に学校へ行き、普通の生活をしていますから。

どうして、伸び伸びと育ててこれなかったか——過保護にならぬよう気をつけながら、かわいがって育ててきたのに。結局、この子の感じ易さに、私が迂闊であったということでしょうか。親に反発して、それをぶつけてくれればよいのですが、何も言わず、どんどん自分の小さな胸にためこん

できてしまった。カウンセリングの中で思い出したのですが、小さいとき、幼稚園のころは伸ばしていた髪を、学校へあがるときに、短いほうがよく似合うからといって、私が床屋さんへ連れていき切ってしまったのです。子どももどうしても嫌だとは言わなかったし。でも、本当は嫌だったのです。髪を切ったからの写真のアルバムは、いまだ

に見ようともしません。
今、長く長く伸ばしているのも、このことと無関係ではないでしょう。
髪など好きなようにさせてやればよかったのに、私が強く自分を出しすぎて、子どもにノーと言わせられなかったのです。

また、七五三のときに、祖母から贈られた晴れ着が身体が大きくなって着られなくなったので、私はたんすにしまっておくよりもとと思って、小さい姪にあげてしまったのです。娘に話してからそうしたのですが、やはり娘は嫌だとは言えなかったのです。大切な大切なお気に入りのたった一枚の晴れ着、それは娘にとって、たとえ着られなくても宝物だった、たんすの中にあるだけで嬉しかったのです。なのに、私は、「あげてもいいでしょう」と一言話したからいいと思って、いとも簡単に人にあげてしまったのでした。着物に寄せる娘の深い気持ちに気がつかなかったのです。つい最近まで、呉服屋の前を通ったり、着物の広告を新聞などで見るたびに「着物買って」とねだっていました。私も「成人式に作ろうね」と軽く受け



流していましたが、ふつと、どうしてこんなに着物をほしがるとのだろうと考えてみたとき、この小さかったころの着物のことに思い至ったのです。それで、どんなに高価でもいい、一番欲しい着物を一そろいこしらえようと、主人とも相談して、子どもに告げたとき、娘は、

「お母さんが、買ってあげると言ったら、もう着物なんかどうでも良くなった」と答えました。着物を買ってよ、と娘が言っていたのは、自分の胸の内に気づいてほしいというサインだったのです。

力をぬいて、のんびり暮らす

カウンセリングというのは、ああしなさい、こうしなさい、と直接指示されたり、答えを教えてもらうのではなく、相談者である私が、面談の中で、気づき、進路を見出していくというやり方です。さっと教えてもらい、はいっと言ってその通りにやるほうが楽だと思いますし、時間もかから

ないでしょう。K先生が言われるように、カウンセリングは、木でいうなら、ただ傷んだ葉を取ってきれいにしたり、一時しのぎに葉をかけて良しとするのではなく、葉や花や幹の状態を見ながら、木の根っこにその病気の原因をさぐるのに似ています。ですから、短時間に解決はできないのですが、そこからやっと見出す解決への糸口は、もう消えない強いものだと思います。なぜなら、人と言われたのではなく、やっと自分が、この目でこの手できがし出した方向ですから。

一年以上カウンセリングを続けてきて、私の知ったことは、私自身が肩の力をぬいて、のんびりと暮らす、ということに尽きるような気がします。……しなければならぬ、……するべきである、という考え方をやめて、できたらやればよい、自分がやりたいからこうする、というように、自分が主人公となって生きるということでしょう。私自身が、世間に、理想に、そして自分自身に縛られすぎて、がんじがらめの中で生きてきたようです。この世の中に、努力して成し遂げられないことはないのだ、と自分に鞭打ってきたのですが、努力したってできないことはできないのだ、と思えばホッとできます。一分一秒たりとも私はむだにしないぞ、と気を張りつめて生きてこそ人間にふさ

わしいのだと、自分を叱咤激励してきました。でも、一秒をむだにしたからといって、それが何だというのでしょうか。

一時間だって、一年だって、いや一生をむだに過ごしたって、それが自分にとって楽しく、さほど人に迷惑をかけていないのなら、それでよいではないか、と思えるようになってきました。K先生は、自分を肯定することが大切で、それができると、人を許すことができると言われます。私は、今あるこの自分を、ありのまま肯定することなど考えたこともなく、常に何かを追い求め、ついには、自分が追われ続けていたような気がします。四方八方に目を配り、最高の道をこそ見つけるのだ、と窮屈に生きてきたことと、娘の登校拒否とのつながりが、おぼろげに浮かんできたようです。娘の登校拒否よりも、まず私自身が生き返りたいと思います。そしたら、きっと娘も息をふき返し、今まで生きられなかった分をとりもどすのではないのでしょうか。

根っ子の病巣を取り除かれた木は、大きく枝をひろげ、たくさん葉を繁らせ、たくましく成長するに違いありませんから。

(え・堀切潤子)

アンケート・主婦の自己活動

1980年、柏サークルの会員の方たちが、横浜サークルの協力をえて実施した「主婦の自己活動」についてのアンケートを覚えていらっしゃいますか。あれから九年、「わいふ」編集部では、この度全読者を対象として、同じアンケートを再び試みることに致しました。この九年、夫と妻の意識がどのように変わったか、楽しみにお返事をお待ちしています。

家事・育児以外の妻の活動に対して次の問にお答え下さい。

質問 妻へ：次の活動のうち、①どの活動がやりたいですか。また②あまりやりたくないものはどれですか。①にはマルを、②にはバツをつけてください。(いくつでもOK)

夫へ：次の活動のうち、①妻にやらせたいのはどれですか。また②あまりやらせたくないものはどれですか。①にはマルを、②にはバツをつけてください。(いくつでもOK)

●無記名でも結構です。(なるべくなら記名してください)

●結果は次号で発表したいので、締切りは十月二十五日。厳守してください。

●この頁を切り取ってご郵送ください。

妻の回答欄 (やりたい活動、やりたくない活動) レジャー(旅行・芝居など) 趣味・教養・習い事など スポーツ 市民運動・消費者活動 おしゃべり(近所づきあい) 読書 テレビ 昼寝 園芸・家庭菜園 ショッピング・おしゃれ ボランティア活動 収入につながる活動(多少家事が犠牲になっても収入の多いもの) 収入につながる活動(家事と両立できる、こづかい稼ぎ程度のもの)	夫の回答欄 (妻にやらせたい活動、やらせたくない活動) レジャー(旅行・芝居など) 趣味・教養・習い事など スポーツ 市民運動・消費者活動 おしゃべり(近所づきあい) 読書 テレビ 昼寝 園芸・家庭菜園 ショッピング・おしゃれ ボランティア活動 収入につながる活動(多少家事が犠牲になっても収入の多いもの) 収入につながる活動(家事と両立できる、こづかい稼ぎ程度のもの)
---	---

あなたの年齢	歳	夫の年齢	歳	子どもの数と年齢	人	歳	歳	歳
あなたの仕事	あり	なし	夫の職種(具体的に)		夫の年収		万円	
氏名	住所							

ありがとうございました。

子育て新時代

仕事にあうお母さんへ



全国私立保育園連盟・編

核家族が進行する現代、保育園という集団で育つことのメリットは大きい。

この意識が浸透しつつある今日、がんじがらめの密室育児に終止符をうち、再び社会にくりだした母親は「三歳までは母の手で」神話がまだまかり通る一般意識の未熟さにぶち当たる。結局「がんばるっきゃない」の試行錯誤に悪戦苦闘、「オトコ

は外・オンナは内も外も」の孤軍奮闘トライアスロンの図ができ上がる。

「何故もっと明るく軽くフレキシブルに、楽しいな楽しいな、と思いつながら育てられぬのか。疲れはてなければ子育てができぬのか」。女も働くのが当然という意識が生まれ、「アグネス論争」があり、保育の問題を一

育てがすべての人の地域や生活の問題である」というところまで論が発展しなかった。「育児って一人ぼっちでやれば地獄。でも夫婦でやれば天国だしも」と地域の人があつたかく見てくれたら本当に素晴らしいのに」という素朴な疑問と、「第二のアグネス論争」を呼び覚ましてくれる書。発行 ユック舎

発売 批評社 一三六〇円 (F)

いま女の権利は

女権先進国フランスとの比較から



林瑞枝編著

生まれてくる子どもの五人に一人が、フランスでは「自然子」つまり、法的な結婚によらないカップルのあいだに生まれた婚外子だという。ちょっと信じられない割合だ。日本では、たしか最近でも一％。

著者たちは、制度にとらわれない自主的な男女の結びつきを「自由婚」と呼んでいる。自由婚は、いまでは「家庭」の一つのありかたとしてごくふつうの

ことになって、社会もそれを認めているという。

いま日本で問題になっている婚生子、非婚生子の差別も法律上はなくなったそう。

女性の姓は、生まれたときから一生変わらない。

出産もタダ。もちろん健康保険料は納めているが。

結婚も出産も女性の自主的な選択が実際にできるような仕組みになっている。そのことがこ

の本では具体的に説明されていて、フランスの女たちの自由さが羨ましくなった。

でも、これはほんの二十年ほどのことか。それまでは、フランス革命の人権宣言は女を「市民」にはいれず、ナポレオン法典が女を夫に従属させてしまった長い歴史があった。

感心したり、驚いたり、わが身を省みたり。考えさせられた。

学陽書房 一九〇〇円 (H)

高齢化社会は本当に危機か



川口弘著
川上則道

人口のなかに占める高齢者の比率が加速度的に増えていく。それゆえ現在国民六人で一人を扶養しているのに、二〇二〇年には三人で一人を扶養しなければならぬ——というのが「消費税」実施をすすめる論者の主

張であった。しかしこの主張は、ほんとうに正しいのだろうか。指標のとりにかたにあやまりはないのか。また未来の社会的変化を把握した上での主張なのか。この作品は、高齢化社会に冠

する政府サイドのさまざまな論拠を、正確なデータに基づいて論破していく。女たちに福祉の肩代わりが押しつけられそうになっているいま、読みこなしておくべき一冊。あけび書房 二〇六〇円（Ｔ）

あるフェミニストの告白



ナワル・エル・サードウィ著
鳥居千代香訳

故ホメイニ師がイスラム教を侮辱するものとして「悪魔の詩」の著者に死刑を宣告したのは記憶に新しい。この事件が教えてくれるように、戒律厳しいイスラム社会での宗教批判や女権拡張がどんなに勇気のいることか。本書は、エジプト女性として

初めて公然と女子割礼を非難したフェミニスト（女権拡張論者）サードウィの最初の作品である。女らしく育てられることの不自由に反発した「私」は医学を志すことで男女間に本質的相違のないことを知る。が、全知の神と映った科学でも説明しきれ

ない人生の不可思議にもがき苦しむ、社会生活、私生活上での女であるが故の抑圧と闘い、ついに巡り会えたのは、「私」の体ではなく、心と精神に語りかけてくれる、ひとりの異性であった。未来社 一二三六円（Ｓ）

五十代の幸福



倭萌子著

人生には幾つかの節目がある。中でも五十代は、これまでの生き方に一区切りをつけ、来たるべき老後への備えを計る大事な時期だが、これがなかなか思うようにはゆかず、惑い多き年代でもある。ここに一人、みごと

な転換を試みた女性がいる。筆者は昭和一ケタ世代の頑張り人間。ライターとしてまた教育改革に女性解放運動にと現在も活動中だが、五年前から赤城山麓に、大きな森の小さな家を作り、生活の拠点を徐々に移

しつつある。自然とのふれあいの中で今まで見えなかったほんものの豊かさが見え、遊び心の大切さがわかってきたという。読んでいて惑いも消えそうだが、これも彼女の人の魅力だろう。海竜社 一二五〇円（Ｔ）



公民館大会へのおさそい

第二十八回東京都公民館大会が、十一月二十六日(日)昭島市民会館(分科会十時二十分)昭島市公民館・瑞雲中学校)で開催されます。

「女性問題の学習と公民館」の分科会で、私が事例発表いたします。誌面だけでなく素顔が見ないほうが良かった?)見られます!

◆申し込み先 〒196 昭島市つじヶ丘三三十七 昭島市公

民館

Ⅷ〇四二五―四六一―七二一

栃木県南

周辺の方へ

栃木県南周辺、または東武線沿線(春日部・東武動物公園・栃木・宇都宮など)にお住まいの方、わいふ仲間になりませんか。

当方二歳の娘を持つ二十六歳の主婦。育児のかたわら、新聞・ラジオ・わいふ等に投稿するのが趣味です(わいふの他に知る人ぞ知る「公募ガイド」も愛読しています)。

ですが大好きな投稿も、育児と同じように家の中の一人作業に感じて、物足りなく思う時もあります。

わが家は東武線の快速が止まる「新大平下駅」から三十秒ぐらいの所です。専業主婦で終わりがたくないと思っている夢いっ

ばいの方、書くのが好きな方、そんな人達とたくさん知りあえたらいいな、と思っています。

まだ子どもが小さいので、負担にならないハガキや手紙のやりとりから始められたら、と思います。どなたか気が向いたらご連絡下さい。

◆〒329-44 栃木県下都賀郡大平町
富田六二〇一五 前田仁美

第九回イキイキ

子育てセミナー

テーマ 子育ても、生きぬくのもパワーアップしかない。あなたの自家発電能力どのくらいですか。

一部、基調報告

・子どもを愛する、人間を好きになるってどんなこと?

Heart And Art 主宰 関口怜子
・幼稚園保育園に子どもを預けてから親は何をすればいい?

「幼稚園一〇番」主宰 森本

邦子

二部、ワークショップ分科会形式での話し合い

幼稚園問題と子育てと女の自立他。

参加者みんな、いっぱいしゃべろう。女の今とこれから。

◆日時 十月二十二日(日) 十二時―五時(受付十一時)

◆場所 飯田橋婦人情報センタ

◆参加費 千円(保育室あり)

◆主催 「幼稚園一〇番」

◆問い合わせ先 事務局山田淳
子Ⅷ〇四七四―九一―〇六七六

講演会

働く女性の

子育て論

―母親って何?―

市川市の自主サークル「女性セミナー」が、田中喜美子編集長をお招きして、講演会を開きます。

子育てを一身に背負っている

現代の母親は、あふれる情報を前に、これで良いのか、といつも揺れているのではないでしようか。本当の意味での豊かな子育てとは、何でしょう。一緒に考えてみませんか。

◆日時 十月十七日（火）AM 10時～12時

◆場所 市川大野パークハイツ（総武線西船橋から武蔵野線乗り換え、市川大野駅下車、徒歩約十分、大野公民館隣）

◆託児あり

◆申し込み先 Ⅷ〇四七三―三三―五二一九（犬伏）

お願い！

二一九号に「駐輪場にて」を書いた者です。その内容にある幼児を乗せた自転車の事故に関して、今も非常に胸を痛めています。こうした事故では、身を守るすべのない幼児が犠牲にな

ります。

しかし、本来、自転車の二人乗り禁止が前提であって、補助椅子での幼児のみ例外的に認められているものに過ぎません。だから、幼児の安全ばかり強調すると、この例外措置そのものの見直しさえ誘発しかねません。

とはいっても、母と子の自転車風景の現状はあまりに簡便に過ぎて、見過ごしにはできない状態ではないでしょうか。今、無事である、無事に過ごした、といっても、それは、お互い、薄水を渡ってきたに過ぎないものでしょう？

で、とりあえずとしては、もっと頑丈なスタンドの普及を考えていますが、どうでしょうか？現状の、一本足の棒のスタンドはもちろん、スタンド全体がともチャチすぎて、とても幼児の体重を支えるしろものとはいえないでしょう。

このほか、そして、この点で、いい提案、情報がありましたら、ご教示ください。

たくさんの方の知恵と努力で、子育ての安全性が向上したとしたら、どんなに素敵でしょう。よろしく願います。

◆送り先 〒560 豊中市本町六一四―三六―一〇四岡部佐智子

福岡市および周辺にお住まいの方 交流会を 持ちませんか

「わいふ」の合評、情報交換、最近気になることなど気軽に話しあい、怒りや笑いを共有する時間を持ちたいと思います。

◆連絡先 川谷由紀子

Ⅷ〇九二―五六六―一―一六四



●情報コーナー

もっとご利用を！

情報コーナーは皆さんのコミュニケーションのためのページです。もっともってご利用下さい。

お友達を求める、ゆずりますあげます、本探し、求職、求人、臨時のお手伝いを頼む、など、いろんなことで、読者相互の助け合いをしましょう。趣味でお作りになった作品なども、PRして販売なさってけっこうです。

但し継続的に、しごととしてのPRをなさる場合には、広告料をいただくことがあります。金額はご事情をうかがい、ご相談の上とりきめします。



連載 5

シンガポールとの出会い
早川裕子

● 国民みなバイリンガル

この国の人たちは、ほとんどが二か国語以上話せる。英語と中国語（北京語）を話す人が一番多いが、他に、家族の出身地によって、マレー語、タミール語、さらには、中国語の方言である福建語、広東語、海南語、潮州語などをあやつれる人が多い（中国は広いせいか、それぞれの地方の方言は外国語みたいに通じない。以下、「中国語」というときは「北京語」を意味する）。

ちなみに、リー首相は、英語、中国語、マレー語、福建語で演説ができるし、阿媽のアチューは、日本語、英語、中国語、福建語、マレー語が話せる。この二人のちがいは、リー首相が読み書きもできるのに対して、アチューは、中国語以外は読み書きのできない、カタコト会話だということだが、二人とも必要に迫られて習得したという点では一致している。首相はできるだけ多くの国民の心を掴むために、アチューは、自分が接する人たちとの意志疎通をはかるために。

かくて、多民族国家は多言語国家となる。この国の公用語は四つ——英語、中国語、マレー語、タミール語——と定められ、学校では、英語を第

一言語とした場合は、他の三つを選択必修、この三つのうちどれかを第一言語とした場合は、第二言語として英語を必ず履習することになっている。ここで「第一言語」というのは、その言語を使っ

て何もかも教えるということである。ちなみに現在、人口の五一パーセントが英語で教育を受けた人たち、三二パーセントが中国語の学校出身（在学）者だといわれる。

一九七一年から実施されているこのバイリンガル政策は成功だったと、最近首相は述べた。シンガポールのような小国が国際社会のネットワークに入っていくには、英語を利用する必要がある。たし、同時に、英語教育を受けたエリートと、他の国民との間のギャップを埋めるためには、二言語政策が肝要だったと……。多民族間の共通語としての英語を覚えさせ、同時に各民族の伝統を守るために各民族固有の言語も保持する——これを実行することなしに、この国を築き上げることはできなかっただろう、と彼は言っている。

一口に実行といっても、それにはいろんな問題があった。二言語の習得は子どもたちに負担が重すぎるという論議に対しては、大多数の子どもは二か国語を同時に習得する能力があるといい、ただ、家庭で方言を話すと、子どもは事実上三言語



国民に訴えかけるリー・クワン・ユー首相

を覚えなければならなくなるからと、方言を禁止し、北京語（マンダリン）に統一したのであった。こうして一九七九年に「スピーキング・マンダリン・キャンペーン」が始まった。店名や個人名のローマ字表記も、方言読みからマンダリンの読み方に改められたりの大キャンペーンの末、家庭内での会話もだんだん北京語がふえてきたという。テレビは方言による放送を段階的に解消し、一九八二年からは皆無になったのである。

シンガポールが、こうして中国語を北京語に統一しおおせたことは、中国の方言しか話せない老人たちを孤独に追い込み、子どもや孫との間に断絶を生んだという、影の面はあったにせよ、バイリンガル政策を、すっきりと、実行しやすいもの

にしたことは事実であろう。

そしてこの、二言語政策の快挙!! 共通語として、どの民族の言葉でもない、全く異質の英語をもってきて、全国民に覚えさせた、この思いきった政策は、まさにアタリであったと私は思う。これによって、たてまえ上、どの民族も平等に扱われて、国内の民族間もまるくおさめ、同時に国際社会への進出もスムーズにして、経済発展に大いに寄与したのであった。

ところが、である。ここに落とし穴があった（と政府は見ているように私には思える）。

●失われた国家理念を求めて

昨年八月あたりから、リー首相は、このままではシンガポールは、エセ西洋社会になる危険があると、警告を発し始めた。英語教育によってむしろに西洋の影響を受け、「勤勉」と「儉約」というアジアの美德が損なわれてきたという。さらに、現在は核家族になり、見合い結婚もほとんど姿を消し、子は親より教育程度が高いので、親の言うことをきかなくなってしまったと……。家族の絆を強めて、子どもにアジアの価値観を伝えなさいというのである。

アジアの価値観とは、つまり儒教の教えである。リー首相は、「親子間の愛」「主従間の義務」「夫妻間のけじめ」「長幼の序」「友人間の信頼」の五つをとりあげ、とりわけ、家族が社会の基本単位になるようにと強調した。

戦後の日本からはとうに葬り去られたと思っていた「儒教」などという言葉が、国の最高指導者の口から語られたとき、私は驚き入って、テレビに写る彼の口もとを眺めた。日本の戦後教育のせいかどうか、儒教なんて、唾棄すべき女性の敵と思っている私は、何人かのシンガポール人たちに、これをどう思うかきいてみた。彼らの答えは判で押したように、儒教には今の世の中に合わない面もあるけれど、今の若い人たちが失いかけているよい教え（親孝行など）もあるという優等生的なものであった。政府批判が当局の耳に入ると罰せられるという噂（？）を恐れてのことなのかどうかはわからないが……。

なにしろ家族のような国のことから、この首相の発言以来、まず第一副首相が、そうだ、えせ西洋社会になるのを防ぐため、この国のナショナルアイデオロジー（国家理念）を作ろうではないかと呼びかけると、他の大臣たちも一せいにその方向に向かって動き始めた。文部大臣は、それを

学校で、特に小学生に教える必要があると説き、それを決定する委員会が作られたり、それを探るため、教育担当大臣の一人が台湾や日本に派遣されたりした。

そう、この論議の中で、日本はしばしば、お手本のような形で登場したのである。（日本の西洋化ぶりだってすごいのに）日本人は、企業内でも家族のように一致団結して仕事に邁進するから、これだけ生産性をあげることができるなどと……。それは確かにそうかもしれないが、個人の生活も家族をも犠牲にして、ひたすら会社に忠誠を尽くす、日本の男たちの生き方は、決して自分にも周りの人間にも幸せをもたらしてはしないのにと、私は複雑な気持ちであった。一体これは儒教と関係があるのか、日本独特の精神風土なのか、私にも分からない。日本へ視察に出かけた女性大臣がもち帰った結論は、とうとう発表されずじまいであった。

さて、政府首脳たちが一番心配しているのは、多数派を占める中国人たちが、英語化、西洋化されつつあることであろう。マレー人はイスラム教という宗教をもっているから一番西洋化されにくい。インド人も、中国人よりはお寺に行くし、習慣も守る。現実主義的な中国人は、有利と知れば



独立記念日の飾りつけをした女子中学校

簡単に中国語から英語にきりかえ、西洋風俗にも染まっていく。漢字の書けない中国人が増えていくという。

お隣の四歳の坊やは、中国人の家庭に育ちながら、中国語を覚えようとせず、英語のほうが簡単

なので、英語ばかり話したがって困ると、祖母にあたるグレースは嘆く。幼稚園も英語だし、メイドたちも英語を話すからだ。「あなたがいつも中国語で話しかけて、中国語を覚えさせればいいじゃない」と言っても、「それがダメなの」と、ついに中国語の家庭教師を雇うことになった。その彼女が、日本を羨ましがする。「だって、ちゃんとみんな国語である日本語をマスターした上で、外国語として他の言語を学ぶわけでしょ？ こちらみたいに、自分のルーツであるはずの言葉が分からなくなってしまうことがないじゃない」

「うーん、そんなものかなあ」と、日ごろモノにならない、日本の外国語教育のあり方に疑問を抱いている私は、モノになりすぎる外国語というのも困るんだなど、苦笑してしまうのである。

とにかく言葉は最も端的な伝統文化である。アジアの価値観を教えるには、もっと中国語教育に力を入れねばと、政府からも民間からも叫ばれ、これまたす早く政策が打ち出された。小学校四年から第一言語のレベルで中国語を教える学校の数をふやし、いくつかの高校で、中国語を効果的に教えるプログラムが導入されたのである。

スピーキング・マンダリン・キャンペーンも昨年の一時期くり広げられた。特にオフィス用語に

的を絞って、毎日新聞に五語ずつ発音や意味とともに囲みで掲載され、切り抜いてよく見る所に貼っておくよう、指示されたりした。

一方で、昨年後半から今年はじめにかけて、この「国家理念」をどうするか議論が、政府サイドでも民間でも（ただし投書欄のみ。一般の人たちが巷で論じているようすはなかった）、かまびすしく新聞紙上を賑わせた。

「西洋化は、シンガポールにとって禍か福か？」のパネルディスカッションが多方面の識者によってなされたり、「儒教と民主主義との接点」が、学者によって論じられたりした。が、識者たちの意見は一樣に、「西洋と東洋の両方から良い点を取ってバランスのとれた社会に」といった観念的なもので、説得力もなく面白くもなかった。

議会では、例の唯一の野党議員チアム氏が、「西洋民主主義の理念が、シンガポールを独立に導いたものであって、これからも法律に則った民主主義と自由が、国を築いていく大切な要素。今さら国家理念などひねり出す必要はない。強いていえば、愛、親切、正直、勤勉といったユニヴァーサルな価値観が教えられればよいではないか。儒教を持ち出すことは特に中国を取りあげること、人種間の調和が崩れる」と反論した。

民衆の声は、大体において年輩者に賛成意見、若者に反対意見が多かった。反対意見の中から主なものを拾ってみると、

「西洋の音楽をきいたり、ジーンズをはいちゃいけないの？ 自分は英語教育を受けてよかったと思っているし、祖先崇拜もしていないし、見合い結婚も絶対しないだろうけど、自分が変わっているとは思わない。多くのシンガポール人にとって、昔の中国の伝統は、インカ文明と同じくらいなじみにくいものだ。我われ独自の文化を育もう。それは、えせ西洋でもえせ儒教でもないだろう」

「みんなまるで西洋の生き方はみだらで悪いものみたいに言うけど、東洋にだって望ましくない価値観はある。例えばお金への執着心、権威への盲従、個人の抑圧など」

「アジアの美德として『親孝行』を挙げる人が多いけど、それはキリスト教の教えにもある。西洋人も彼らなりのやり方で、親の幸せを考えて行動している」

「これからもシンガポールが発展を続けていくためには、創造性とか、論争する力など、西洋の価値を取り入れねばならないだろう。別の価値観を認める、開かれた心こそ必要。伝統的価値観を抑しつけるのは、特に若い人達には逆効果」（女子

高校生より大臣への手紙

こうして、一年にわたるすったもんだの末、今のところ出てきた「国家理念」は、「社会を個人に優先」「家族を社会の基本単位に」「争いより合意による問題解決」「多民族の融合と寛容」の四つ。大山鳴動してねずみ四匹といった感がある。これをイスラム教グループが認めた、というところまではいったが、その先はいつこうに進んでいない。

今度ばかりは、この大おじいさんのやりかたに、若い子どもたちはついていけないんじゃないかな、と思いながら私は見ている。

根強いシングリッシュ

目を転じて、老人以外はほとんどのシンガポール人が話している、その英語なるものに、目、いや耳をあててみよう。



まずアクセント、イントネーションが独特で、すべて尻上がり。それにやたら「キャン」が耳につく。「コレコレしてもいい？」とか「やってくれる？」とかきいたとき、主語はなく、ただ「キャン、キャン、キャン」と、まるで犬みたい（しかもそれが、安請け合いの場合が多いのだ）。そして、語尾にやたらやだのうだのなのをつける。 「サンキューヤー」「ソーリーヤ」「ユー・ゲーム・ラ」「ホールド・オン・ナ」（電話で）といった具合。これぞシンガポール・イングリッシュ、つまり略してシングリッシュなのである。

テレビを見ると、子どもから大人まで、はては学校の先生や政治家、大臣まですべてシングリッシュのアクセント。まともな英語を聞かせてくれるのは、アナウンサーと、留学経験のある一部の政治家くらいである。

一体学校ではどんな英語を教えているのかと思、ある日、飛行機で隣席に座ったシンガポール大学生にきいてみると、学校でもみな、友達同士ではシングリッシュで話しており、先生もシンガポール人はほとんどシングリッシュ。英語圏から来ている先生の授業のときは、シングリッシュで答えると注意されるが、学生たちは誰も、日常会



ゲートで飾られたインド人街



アラブストリートの服地屋

話までそれを改めようとは思っていないという。はじめのうち、このシングリッシュなるものがイヤでたまらなかったが、そのうちに、なぜこれがそんなに根強いのがわかってきた。これは、シンガポール人であることの、パスポートみたいなものかもしれないと……。つまり、これ話をすると、シンガポール人同士仲間意識が芽生えて、ぐっと親しくなれるのではなからうか。

ちやうど日本語の方言の語尾に「……ズラ」「ナモ」「……ケン」「……サカイ」などをつけると、それぞれの地方でその土地の人たちとずっと話しやすくなるように、ここではヤヤラを英語の語尾につけて、親しみをもたす。アクセントも、仲間うちだけの独特なふしまわしにして仲間意識をかきたてる。そうしないと、この国の中で一人だけよそ者みたいに浮き上がってしまうのではないだろうか。ある調査によれば、このシングリッシュを正しい英語にたき直すのは到底不可能と判明したという。

私が洋服の仕立てを頼んでいる中年女性メイは、とてもいい英語を話す人だと思っていたら、ある日、シンガポール人の友人がやって来たら、とたんにパッとシングリッシュに切りかえて話し始めたのである。私ははじめ、あまりの切りかわりぶ

●——シンガポールとの出会い



マールにサリーを着せてもらうところ（背後はすでに着終わった原田さん）

りに、英語ではなく、中国語かと思って聞き流していたのだが、そのうちに英語の単語らしきものが耳にとびこんできて、オヤオヤとなったのである。

ちなみに、語尾につけるラは、中国語の完了を表わす「了」からきているようだし、ヤはマレー語からきているという。この国が多民族国家で、しかもさらにいろんな外国人が流れ込んできていることが、英語をくずしていく原因の一つになっているのだろう。単語をただ並べただけで、時制も何もあつたもんじゃないような英文が横行していて、文法的に正しい、完全な文章で言うところ、かえって通じなかったりするのである。

わが家のメイドたちも、英語をくずしている最たる者であろう。アチューもマールも、英語を習ったことなど一度もないのに、数少ない英単語を駆使して二人でおしゃべりし、初対面の人たちともわたり合っている。

二人とも、電気をつけることを「オーブン・ライト」などというので、注意するのだが、いっとうに改まらない。マールによれば、よくなることは、「ナイス・カム」、床を磨いてもきれいならないと、「ノー・ナイス・カム・マダム」と訴える。

三月末、わいふ・に縁の深い原田静枝さんと高野貴子さんがわが家を訪れてくれたとき、遊び心旺盛な三人のこと、マールにサリーを着せてもらおうということになった。サリーはマールのを三人とも借りたのだが、中に着るブラウスに困った。原田さんは何とか持ち合わせの、色のマツチするＴシャツがあったが、高野さんと私は、しかたなく夫のアンダーシャツをチョイと拝借することに相成った。

ところが、体格の良い高野さんにはピッタリだったのだけど、細い私にはどうもうまいかない。サリーの場合、上腹部の肌を十センチくらいあけて見せなきゃならないのに、私にはシャツが長すぎて、折り込んでみてもすぐ下がってきて、どうしてもうまく開けられないのである。マールは着せながら、他の二人は「ナイス・カム」なのに、私だけは「ノー・ナイス・カム」だと、嘆くことしきりであった。

またマール英語では「持って行く」が「テーク・ゴー」「車の中にはない」が「カー・インサイド・ノー」、「急いで洗えば（汚れが）落ちる」が「ハリーヤウオッシュ・カムアウト」なのだが、このあまりなブロックイングリッシュが、私にはとてもよくわかるのである。日本語と語順が全

く同じで、すーっと頭に入り、ハテ、正しい英語では何ていうんだったっけ？と、考え込んだりしてしまふのだ。

夫にはわからなくて、「マールは今何て言ったの？」ときかれて、得意になって答えたりしている。この調子でいくと、私もそのうちにマール英語をしゃべりだすのではないかと、内心おびえている。ことほどさように、正しい英語は広まりにくく、簡単なブロックイングリッシュは浸透しやすい。マールもこちらへ来て、私が直す英語はなかなか覚えられないのに、シングリッシュのアクセントはすぐ覚え、やたら語尾にラをつけて、「マダムラ」「イエスラ」「ノーラー」などと連発している。ヤレヤレ……。

●日本人は言葉の胃弱？

ひるがえって、日本人の英語はどうだろうか？
こちらでは、日本人は全般的に英語は話せないし、理解できないと思われている。「あなたは日本人にしては英語がうまい」と何回言われたことか。「日本では学校で英語を教えていないのか？」ときかれたこともしばしば。そのたびに、「いいえ、教えていますとも」と答えるとき、なぜかく



左から原田さん、筆者、高野さんの母上、高野さん

やしいような恥ずかしいような気持ちになるのだ。こちらへ観光やショッピングに来ている大学生やO.Lたちは、カタコト英語をまくし立てている。こちらの連中の何十倍も英単語や英文法を知っているはずなのだ。なのに、どうして使おうとしないのか？ もしかしたら、英文法をやりすぎて、文法的に間違っていないか気になって、口に出せないのか？ あるいは、難しい受験英語をやらされすぎて、自分は英語ができないものと思いつているのか？

日本のような英語教授法では、耳から入る英語

に慣れていないのも一因であろう。先日、あるレストランで食事をしていたら、そばのテーブルで食事をすませた若い日本人女性二人が、困ったようにもじもじしている場面にぶつかった。支払いを日本円でしたいらしく、それは伝えられたのだが、ウェイтрレスの言う「スリー・サウザンド・イェン（三千円）」がわからないらしい。しかたなくシンガポールドルで払おうかと一生けんめい請求書をのぞいているのだが、どうやら足りないようで途方にくれている。

「三千円ですってよ」と言うと、「あっそうですか。ありがとうございます」と言われて私までホッとしたのだが、少なくとも六年は英語を学んできた人たちであらうに、日本人はどうしてこうなんだらうと、はがゆくなってしまう。聞きとれないければ紙に書いてもらうとか、もう少し積極的になれないものだらうか。

マールは、日本語などまったくわからないはずなのに、夫と私が話しているのをそばで聞いていて、必要なものを持ってきたりすることがあって、驚かされる。人のようすをよく見ていて、何を考えているのかわかろうと努力しているようなのだ。語学の真髄とは、これかもしれないと、妙に感心したりしている。



インド美人(?)が三人揃ったところで

幸か不幸か、日本人が英語を話すより先に、シンガポール人のほうが日本語を話し始めてしまった。最近、日本人がよく行く店では、店員たちがさかんに日本語を使い始めたのだ。その日本語だって、どこで覚えたのか、あやしげなものが多いが……。

どこへ行っても「チョトマテ」と言われるのは閉口する。こちらの人はつまる音が苦手だから「ちょっと待って」がこうなるのだが、接客用語として覚えるのなら、「少々お待ちください」のほうを普及させてほしいものだ。しかしそれは、無理な注文というものだろう。イージーゴーイン

グな彼らの生き方からすれば、簡単なのが一番、通じればそれでいい、と誰もが思っているにちがいない。

現在この国に滞在する日本人は一万五千人とも二万人ともいわれる。彼らは相対的に金持ちで、買い物好きである。さらに昨年一年間にこの国を訪れた日本人観光客は約七十万人。それは、全観光客の六分の一にのぼる。彼らがまた、大変な金離れのよさで、シンガポール人百人分に当たる金額を、日本人一人が使うといわれる。

このドル箱日本人をつかまえない手はない。英語のできない日本人の心をつかむには、こちらから日本語を覚えてやれというわけなのだろう。最近日本語ブームで、日本語コースに通っているレストランやデパート、みやげものの店の従業員も多いようだ。そこではどんな日本語が教えられているのか知らないが、実際に広まっている言葉は、「チョトマテネ」「コレヤスイヨ」である。

この勢いで、そのうちにシンガポール・ジャパニーズ、ちぢめてシンパニーズといった言葉ができ上がるかもしれない。多民族国家は、あらゆる言葉を自分流にこなしてしまう、強じんな言葉の胃袋を持っているようだ。その辺の欠如が、「恥」を知る我われ日本人の弱点かもしれない。

— つづく —



区民教室

東京都豊島区・藤 輝美

区民教室へ参加したのは何年ぶりだろう。

ここ数年来、寝たきりの母を抱え昨年の春にやっと開放されてからは、毎月三回発行される区報が待ち遠しい。定期的な文学散歩や講演、講習会の他に毎年、春と秋に開催される区民教室は、和洋裁から茶の湯、陶芸、心理学に至るまで各地域ごとに

内容も多彩だ。

今回は久びさの参加でもあるので、夜間教室を含めて四講座と欲張った。

夜の教室はどちらかといえば勤め帰り中心の若い層、昼間は老人クラブの集い？とたじろぐほどに年輩者が多い。しかも半数近くが老男性とは意外だった。

一昔前まではどこへ行っても中年初老の女性ばかりで、たまに男性が混じっていても影の薄い存在だったと記憶しているが、ここへ集った老男性たちは「やあやあ」と弾んだ声で合図を送っている。たぶんあちの成人大学、こっちの区民教室仲間になりがいない。

お互いに手帳を示しながら「いついつは能のはなし」この日は……などの情報交換だ。

そんな有様を横目に、きょうびのご隠居は盆栽作りより外へ出ておべんきょうか、などと苦

笑していた。が、いざ授業開始となると申し合わせたようにこくりこくりが始まる。

つられてでもあるまいが、隣席の老婦人も新しいノートを広げたまま、水晶？のイヤリングがゆれている、と思っていいたら「年寄り朝が早うございまして」とハッと体を起こしながらの弁明だった。

二時間の講義終了前の数分は質問にあてられるが、その都度「はいッ」と立ち上がるのは決まって老男性。それも個人的な意見に終始する。例えば食文化のなかの「米」がテーマであれば「食管制は？」「農政はかくあるべき」などの「老人の主張」に、素朴な疑問や質問を抱えていてもいつも時間切れ。正直いって腹が立つ。

いつだったか区民センター内の食堂で、馴染みのお年寄りと同席した。このひとはたぶん八

十に手が届くだろうが毎回、不自由な足を引きずりながらの参加である。

「ご熱心ですんねー」と声をかけると「いやあー」と照れていた。

「三年前にバアさんに置いて逝かれちゃって、暇をもてあましていますよ。どうせ居眠りばかりですけど……」

と邪気のない笑顔を見せている。「こうして外へ出ればあなたのようなお若い麗人ともおはなしができる」

麗人などとカビの生えた言葉もさることながら、五十代初老の女にお若いとは恐れ入る。

「午後からはまた別の教室がありますから」と立ちあがった。

夜になって友人から試写会に誘われたが、区民教室を理由に断わると、

「へエ……あなたが？」

とん狂な声に驚いた。彼女の
ご亭主も停年退職後はずっと区
民教室へ通っているとか。

「一日中ゴロゴロされるよりと
思っネ、主人の名前で私がせ
っせと申し込むのよ。だってハ
ガキ代だけであとはタダなもの」

タダとなに気ない言葉にハッ
とした。そういう私だって参加
費用はもちろん、教材費の実費
ゼロを承知で欲張った四講座で
はなかったか、と今さらながら
ちよっぴり後ろめたい気持ちに
させられた。

趣味を求めて

神奈川県厚木市・前田道子（56歳）

一人になってあり余る自由時
間。一日の勤務時間八時間、通
勤時間を入れて十時間は外出、
そして五、六時間の睡眠時間、
残り八時間もある有効持ち時間。

どうしようか。

誰に問いかけてみても同じ返
事。自分の好きなことすれば、
趣味をもてば。わかってます自
分自身のことだから。でも実際
には何を……。

何十年来主婦業と勤めを両立
させ、一日中いちいち頭で考え
なくても、決まったペースに合
わせて体がリズムを自然に作り
出した精巧な機械のようであっ
た生活。ある日突然、パチッと一
つの要が切れてバラバラになっ
てしまった。

再生しよう。いや全く新鋭機
械にと……。

でも設計できないのである。
いろいろ試みるが、通信学習
では書道、校正、仏像彫刻、ア
ニメ、囲碁等あれこれと。編み
物、手芸等は全く興味が無い。
主婦業の延長のようなものでな
い何か新鮮味あるものを求めて、
一昨年は夜間部のある福祉専門

学校に一年間通学した。ここで
は十歳台から六十歳台までの幅
広い学生との交流が、今までに
ない収穫となり、そのときの学
友からこの「わいふ」も紹介さ
れ、今は私の楽しい支えとなっ
ている。

その後老人福祉のボランティア
活動などしたが、これは趣味
ですものではない。看護婦と
いう職業を持っていたので、そ
の延長ともいえるものである。

いわゆる趣味らしく持てるも
のが、結局見当たらないのであ
る。草木は眺めるのは好き、し
かし世話が……。

一例であるが、主人が残して
くれた盆栽、半分は人々に分け
て育てていただいたが、残り半
分はお水のやり過ぎ、「あっ忘
れた」、朝霜がかかってぐった
り、今では鉢のみが残っている
始末。庭木はのび放題、草むし
りするのが精一杯となる。

我が家にいる一匹の犬、これ
は私とは相互扶助関係にある。
趣味とはならない。

もったいない時間をどうした
らよいかしら、このぜいたくな
悩みを、どなたかアドバイスし
て下さいませんか？

忘れのプロセス

香川県小豆郡・広瀬サカエ

学業を終えた息子が下宿をひ
き払って、持ち帰った荷物が部
屋の隅に置いてある。

そのダンボール箱のひとつを
開けて、ファイルを取り出しパ
ラパラと繰っていると、銀行の
封筒に入った真新しいお札が出
てきた。

「パツカ、親がシニコ、シニコ
働いて仕送りの金を何と心得
とるか」

朝抜き、昼、学食で、夜自炊

という食生活を送っていた息子にとって、一万三千円という金額は、半月分の食事代にも相当したはずである。

色を失って探し廻ったであろう息子の姿を想像しながら、迷わず着服する。

はたち過ぎの息子にして、このていたらくなのだ。このごろ、とみにど忘れがひどくなった自分をかえりみて、
「当然のなりゆきだ」
と弁解してみる。

最近、同年輩の友人達に会うと、お互いの健忘ぶりを披露しあって、同病相哀れむ。

「へえー、そりゃまた重症」と、相手のいさぎよい忘れっぷりにスッコケてみせたり、自分のとんなま忘れ様を、ゼスチャ入りで紹介して、

「おみごと／＼」と喝采をあびたりで、結構、ストレス解消になる。

私達の年齢になると、身近なお年寄りの言動が話題にあがることがしばしばある。

一人の友人が言う。

久しぶりに実家を訪ねたら、「アンタさんは、どなたさんでしようか」

なんて、実の母親によそゆきの言葉で聞かれて、

「ギョッとしたわよ」と言えば、他の友人が、「うちのお姑さん、

よくガスにものをかけっ放しにして危ないのよ、だからお湯が

沸くと、笛が鳴るおやかん買ったの、そしたらね、『いつまで

たってもピューって鳴らないので、ジューと見ていたら、おや

かんのまわりが黒くなってきた』って言うのよ、あったりまえで

しょう。お水を入れるの忘れてるんだもの」

また、別の友は言う。

「うちのお義父さんたらね。朝ごはんのとき入れ歯がないって、

大さわぎするのよ、だから『お

義父さん、朝起きて、どこと、どこへ行ったの』と聞いたら、

『トイレと、洗面所、それから

仏様にお参りした』と言うんでしょう。三か所くまなく探して

みたけれど、見当たらないのよね、家族中で首をひねっていて、

ふと、『お義父さん、口を開けてみて』『アーン』『あった』

口の中を探すの忘れていたのよ』これらの話は聞いている分には

限りなくおもしろいんだけど、自分の将来をのぞいている

ような気持ちにさせられる。

人は始めに名詞を忘れ、次に形容詞、そして動詞を忘れると

何かの本で読んだことがある。名詞、ことに固有名詞を忘れる

のは、自分の経験からよく解る。形容詞は忘れたとて、意味は通

じるだろう。しかし動詞を忘れるとどうなるのだろうと疑問に

答を出してくれた。

「好物の水羊かんを持って、入院中の母を見舞ったのよ、枕元で、

『さあ、お母さん口を開けて』と言うと、

『わたしや年とって、口を開けるって、どんなにするのか忘れ

たわ』と言うんだもの、

こちらは、開いた口がふさがらなかつたわよ」

と、その知人は眉根をよせて、なげいた。

いぬきモヤモヤ

長崎県島原市・下田恵子

仕事と育児と家事に追われ、自分の時間がないと不満、胸の中はいつもモヤモヤがあり、これじゃ精神衛生上良くないと思っていた矢先、このわいふとの出逢い。今の気持ちを活字にし

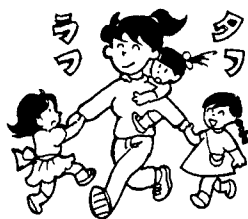
て、心の整理をし、うまくやりこなしていきたいと、思いきって投稿することにしました。

愚痴はたくさんあるが、まずは、跡継ぎの次男に嫁ぎ、周囲は男子が生まれるのを期待したが、長女、次女、三女と裏切った。三人目のときは、私も落胆し、涙で一夜を明かし、産婦人科の先生もさぞかしびっくりされたことであろう。

時が経ち、なぜ女の子でいないのか自問自答してみる。男子優先で何事もかたづけられる今の社会。女性自身の自覚のなさや責任のなれ、これは幼少時代から、女の子は、素直でかわいければ、頭はそこそこでよいと、甘い考えを植えつけられ生活してきた。だから、男性依存の生活をせねばならない。男の子がたよりになるのかな――。あれから四年、男子をもつこともふっきれ、女の子で良かつ

たかもと考えるようになった。主人は、まだあきらめきれず、男をもう一人と、子育てに協力せぬ無責任な発言をしている。

女の子が育つ過程をみても、とても、たのしくたくましい。三人三様で、怒りの長女は思いやりがあり、泣き虫次女はひょうきん者、いつも笑顔の三女は力



持ち、けんかは絶えないが、とても仲良し姉妹です。今思えば泣いたことがなさけなく、自分の視野の狭さを残念に思う。

これからは女性の時代といわれるが、良い面ばかりではない。一人の人間として、自覚と責任をもち、彼女等とともに、自

信をもって生きていきたい。連れ合いと姑に、理解してもらうには、しばらくかかりそう。

私の人生、タフでラフに行こう。

血液型気質論に もの申す

東京都大田区・藤田みどり

この間新聞を見ていたら「年齢は公表しない主義」という人がいて、なるほどと思った。そんなに隠すことではないという意見もあるだろうが、人はとかく「もう〇〇歳だから」「まだ××歳」と色メガネで人を見がちである。

年齢ならまだいい。許せないのが血液型である。なぜか女の人はこの話が大好きであると思っていたら、会社での男の話題にもなっていると聞いた。

私の行っている会社でも先日

「〇〇さんはA型でしょ？」

「××さんはきつとB型よ」の類の話で盛り上がり、聡明なはずの管理する立場のMさんまでが「今度血液型順に皆の席を変えようかな、（仕事がパソコンの入力なので）血液型によってエラーの出方が違ったりしてネ」なんてもうワイワイと騒がしいこと。私も努めて平静を装ってはいたけれど、延々と続く話にその場にいるのが苦しくなってきた。

いつもは隣の人とベチャクチャの私がシラーとしているのに気がついたのかMさんが近づいてきて「藤田さんはA型でしょ」ときた。「え、いえ私Oです」とついホントのことを言ってしまった。それから、しまったと思った後の祭り。

世間の相場ではA型は常識的で体面を気にする、B型はひらめきがある、ABはムラがあり、

Oは単純情熱的(詳しい方、ま
ちがっていたらごめんネ)、と
そんなふうなので「A型」と言
われたことは何か平凡な感じな
のだと納得した。

まあ職場では意見を言う場も
ないしほとんどネコをかぶって
はいるのだけれど……。

Mさんいわく、「私A型だか
らB型の人が好き」だそうで、
「A B型は頭がいいんだってね」
まだまだ何やかやと評論を加え
た後、だれか自分の血液型言え
ます? もう一人きかれて「忘
れた」と答えた人がいて、私は
内心拍手を送った。この場は元
談ばい雰囲気だったからまだい
いけれど、夫と妻または彼との
微妙な話のときに「それで彼、
何型?」とか真剣にきいている
人がいる。アホか! そして自
分の思ったのと違おうと「変ねえ」
私の知る限りこの「変ねえ」が
結構多いですよ。

まったく「血液型」も社会の
中で力をもったものである。こ
の人までと思うような人が気に
するものね。でも親友のKさん
に言わせれば「血液型って、あ
ると思うな。私の友人はあなた
もそうだけれどほとんどOよ」
そこで私は「でもね血液型は
A B O型だけじゃなくてまった
く違う分類もあるそうよ。それ
をA B O型式だけで判断するの
はおかしいってどっかに書いて
あったわよ」と反撃に出る。こ
の件に関する限りまわりがほと
んど信者だから、我がつれあい
とだけの孤独な戦いになる。ち
なみに夫は会社で「A」で通し
ている「O」である。

こんなにカッカする私のほう
がおかしいのかなー、血液型性
格ってあるのかなーなどとチラ
ちと思うのだけれど、一体私は
何に腹をたてているのだろうか?
よくよく考えてみれば、よく

知りもしない人に対して血液型
でその人を計ろうとするその無
神経さに対してである。「A B
型の人にはむら氣で極端なんです
ってよ」と言う話にひどく傷つ
いたA B型の人を知っている。
そして人は先入観をもつとこれ
が案外根強いのだ。

かりに百歩譲って血液型性格
があるにしろ、それを人に決め
つけられるのはいいものじゃな
い。その氣質を自分が氣にして
いたらなおさらである。自分の
ことぐらい自分が一番よく知っ
ている。それに神経質と鈍感、
安定と氣まぐれがごっちゃにな
っているのが生身の人間。精巧
に組み立てられていているこの心、
そんなに単純に分類されてなる
ものか。

一日カッカしたあげく、私は
翌朝Mさんに言った。「私ね、
本当はRHマイナスA Bなんで
す」「そう」「今年はこれでい

きます」「どうして?」「だっ
てカッカいいもの」

Mさんは妙な顔をしていたけ
れど、「A Bの人って頭がいい
んだって」ときのう言ったのを
お忘れか? 私はやはり頭がい
いのがイイ。今年はA Bでいく
ことにした。そしたら友人のK
さんがとどめの一撃。「そうや
って血液型に反抗するのがOな
んだって」だと。ああ!



再就職の道

茨城県稲敷郡・中村道子(37歳)

長男が二歳半のとき、ひよんな
話から主人が隣町で喫茶店を任
されることになり、そろそろ働

わいわいガヤガヤ

きたくてウズウズしていた私は、喜び勇んでウエートレスを申し出た。以来、三男出産間際までの八年間、パート勤めをした。

養家が商売をしていたせいもあり、働くことは苦にならず、人間との出会いが好きだった。

ところが越してきたこの村には保育園がない。通勤のための足がない。焦っても仕方がない。今のうちに何か資格を取り、あわよくば家でできる仕事を——と思い立ち雑誌の広告から二、三の通信教育の案内を取り寄せた。が、今一つ、ウソっぽく、私にとっては大金の何万かを送金しきれずにいた。

そして、遂に校正に的を絞ったところ、新聞に、「女の再就職——有効な資格取得法教えます——との広告。かの原田さんが書いているのだから確かだろう、ダメ押しにこれを読んで決断しよう」と思い、即、隣の書店に

電話で注文。到着までの二週間が待ち遠しかった。

自宅校正を——と決めていた私は、田舎でも大丈夫だろうか、どこの通信教育が確かだろうかを答えて欲しかった。そして、すぐにでも始動したかった。——が、答えは明快。「——発行所（主に東京）から遠いところに住んでいては仕事にはなかなか結びつかない」「将来は先細り」はたまた「赤エンピツ一本で副収入を、などという講座にはかわらないことです」とあるではないか。ウーム、やはりそうかという思いで、通信教育による資格取得は断念した。

プロローグ、まず働いて必要なら資格を、第一部、外に出て働いてみようと思ひ、まず自分に合った働き方を求め、とにかく飛び込んで体を動かしてみることだ——再就職は転職自由、キャリアアゼロから出発しよう——

と励ましてくれる。確かに成功例として出ている人達の行動力はすごい。家で二歳の息子を遊び相手にウジウジボーッとしている私には、ため息ものだ。だが、同時に、私にもまだ何かできるかも知れない、という望みを抱かせてくれる。

良くも悪くも体験に基づいた報告で、履歴書の書き方から税金の問題、職場での保障と、かなり細部まで明確に記されており、納得させられる。

一時は、今何か突破口をみつけておかねば遅くなる——と焦っていたが、四十、五十代でも自分に合った仕事に出会えれば、そのときに働きどきだと思えてきた。そのときを、心静かに（？）待とうという心境になりつつある。

（え・小宅昌枝）

お友達にへいわふを
おすすめください

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さることに、誌代プラス送料とも一回延長。

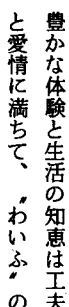
（六人ご紹介下されば、翌年の誌代・送料とも無料になります）

へいわふ年間分をプレゼントにお使い下さい。

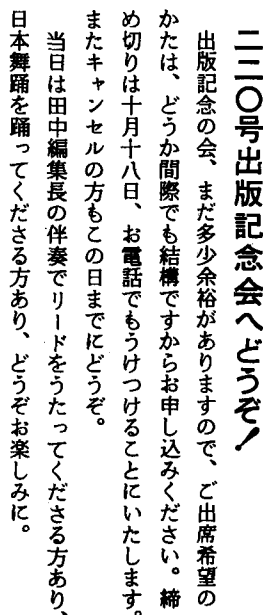
●結婚のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。

お申込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。



で連絡します。



会費 5000 円

次号投稿募集

▼特集テーマ原稿

●二二二号の特集テーマは、「私の上司」です。

出世した男性がよく、「私の履歴書」などというコラムで、「よい上司に恵まれたので」ということを言っています。

女はまだまだ、キャリアとしてはこるべきポストを手に入れてはいませんが、それでも「上司」というものはすべての職場でかなりの重要性があるのではないのでしょうか。

これまでのご投稿のなかにも、やりきれない上司とのトラブルや、反対に、頭がさがるような温かい女性の上司の姿などが描かれていたものがありました。

●現在おつとめの方、そうでなくても、過去に心に残る上司との関わりがあった方、

どうかあなたの「上司」を語ってくださいませんか。もちろんびっくりするような、突拍子もない人格でもけっこうです。

長さは四百字詰原稿用紙、十枚—十五枚、締切り十月二十五日。

▼ワンポイント情報

●二二一号ではお休みいたします。というのは、「主婦の自己活動」のアンケートを、ワンポイント情報のかわりに掲載することにしたしますので。

●皆さんどうか、アンケートにできるだけ協力ください。夫に書きこませるのはなかなか大変ですが、ほとんど手間のかからないアンケートですので、その点は比較的快乐だと思えます。

とくに九年前、アンケートにご協力くださったカップルはぜひどうぞ。お互いの変化がわかって面白いと思います。



△氏名、住所を秘密にしたい方△

誌上匿名は自由です。原稿への書き方は投稿規定をごらん下さい。

さらに住所（県、市、町）もあきらかにしたくない場合は、その旨原稿の最初に（らん外にでも）お断り下さい。「地域の会員を知りたい」というお問い合わせがときにあります。その場合も住所氏名を知られたくない方は、あらかじめ編集部へお申出下さい。

「この文を書いた方に連絡を取りたい」という問い合わせには、書き手の方にハガキでご連絡し、直接返事をしていただいています。

△仕事をしたい方へ△

以前首都圏内の読者へ（どんな仕事か）がしたいですか」というアンケートをお送りしたことがありました。その後の新会員、以前と状況が変わって、働けるようになったという方にも、ご希望があればお送りします。編集部までご一報下さい。

わいふ 投稿規定

●書くもヨシ 書かぬもヨシヨシ

ドンドン書いて
グイグイ送って
グイグイ載せます！

を、たっぷり味わわせてくれるよい文章をお待ちします。

・ホビー&レジャー 今や余暇時代。趣味のない人は老後がミジメとか。楽しい体験を募ります。ガイド的なもの、こんなことをして面白かった、どこそこへ行ってきた、どこそこ何を食べておいしかったなど、情報もお寄せ下さい。

・生む・生まない・生めない 妊娠・出産避妊など、女の性にまつわるさまざまな体験をお寄せ下さい。

・読んでみました 書評のコラム。どんな本についてでもけっこうです。女性問題に限らず、視野の広い読書体験をお知らせ下さい。

・わいわいガヤガヤ どこにもあてはまらないものを、押し込むのが例になっているスペースですが、気軽に短いものをお寄せ下さるのに好適。初心投稿者はぜひまずこへ。

・サープレッシュ 本誌の投稿や記事についての、反響をおのせします。感想、反論、何でもどうぞ。

・情報コーナー おしらせ、募集、お願い

●定期購読者になればどなたでも（もちろん男性でも）投稿できます。誌上匿名・仮名も可。ただし原稿には住所本名を明記すること。（無記名のものは受け付けません）

●次のコラムへご投稿をどうぞ！

・女と男 夫について、恋人について、友達について、職場の人について、または行きずりの人についてでも。女から見た男、その人との関係。とにかく女と男についてのすべて。

・家族の肖像 あなたの親、夫の親、それぞれの兄弟、子供たち、その他親戚、いろんな家族についての観察、批評、驚嘆など、よそでは言えないホンネを言って下さい。もちろんホメても結構。

・子ども中ども大ども 親子関係についてのコラムです。子育て苦心談、失敗談、後悔談、親子ゲンカ、反対に親子の楽しいふれあいについてなど。

・狂育ニッポン 幼稚園、小中高の学校、塾、受験、大学、専門学校に至るまで、教育についてのすべてをのせるコラムです。

・職場は多面体 あなたの職場レポートをお寄せ下さい。フルタイムはもとより、パートでも内職でも、職業体験をどうぞ。

・オビニオン あなたの主張を公開するページ。人に知らせたい切実な体験について、政治、社会、マスコミへの批判、その他何でもこれだけは言いたい、ということ。・エッセイスト・クラブ ずいひつのよさ

をおのせします。探しもの、交換、相談、何でも皆にたのみたいことならここへどうぞ。

・サークルだより 読者が連絡をとりあい、自主的につくるサークルがあります。サークルを作りたい、という募集や、結成してこんなことをしています、という報告のページ。

●以上、エッセイスト・クラブのみ千六百字まで、ほかのものはすべて八百字まで。オーバーしていても、内容がよければ掲載します。ただし情報コーナーは、なるべく短く、要件をまとめて下さい。

締切りは偶数月二十五日。それ以降に着いたものは、次号に回します。

・特集テーマ原稿 テーマ原稿募集欄をお読み下さい。

・ワンポイント情報 一つのもの、または事柄に関する読者の情報の徹底収集。テーマはそのつど設定しますので、募集欄をごらん下さい。

・特別寄稿 ルポルタージュ、自分史、伝

記、旅行記、その他の体験記、評論、小説、どんなジャンルのものでもけっこうです。枚数も自由。

本誌に適当と思われるものは掲載します。長篇なら連載になります。

本誌には合わないが、価値ありと思われるものは、出版社に紹介、推せんします。

自分史などの自費出版のご相談にも応じます。本誌掲載の場合は薄謝をさし上げます。

・絵・カット・イラスト・写真 コミックも含めて募集しています。ご自分の投稿にイラストや写真が用意できる方は、合わせてお送り下さい。

●投稿は一号ごとに一人一篇に限りです。ただし次のコラムへのご投稿とはだぶって

かまいません。情報コーナー・ワンポイント情報・サブプレシブ・サークルだより

●投稿は原稿用紙に。本誌はタテ組みですので、ヨコ書きはご遠慮下さい（書き直すことになるので）。

●原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送り下さい。

●匿名、ペンネームは原稿の最初に、住所

・本名はそのすぐあとに並記して下さい。

●匿名、ペンネームの場合には、理由をお書き下さい。とくに理由がない場合は、本名でお願いします。ペンネームをいくつも使い分けるのも、ご遠慮下さい。居住地もとくに理由がなければ記載したいのでよろしく。

ただし匿名・ペンネームは原則として自由であり、書くことの自由を守るためであれば、むしろ積極的に評価したいと編集部では考えています。濫用は避けていただきたい、ということです。

●おたよりで掲載ご希望でない場合は、必ず私信とお断り下さい。

●年齢をお書きそえになりたい方は、名前の下にアラビア数字で。

●二重投稿は固くお断りします。

●ワープロ打ち原稿の字づめは、二十字でお願いいたします。



編集だより

「わいふ」の読者を

ふやしてください！

これまでも度々お願いしていますが、何とも心苦しいのですが、「わいふ」はまだまだ一人前の雑誌とはいえない状態から抜け出せずにいます。編集に関わっているスタッフはもとより、イラストを書いてくださる方、座談会のリライトをしてくださる方、世間並みの報酬にはほど遠いお値段で仕事をしてくださっています。

この状態をめげだすのは、会員をふやす以外にありません。

「わいふ」を面白いと思って下さる方、どうか新しい読者をご紹介ください。また「わいふ」は赤ちゃんをお生みになった若いお母さまへのプレゼントとして最適です。家にとじこもらなくてはならない若いお母さまに、「わいふ」を通じて社会の風が入ってきます。

お一人がお一人の読者を！ どうぞよろしく願いたします。

●いつまでも何という暑さがつづくことでしょう。みなさまどんな夏休みを過ごされましたか。

●編集部は目下、「わいふ傑作選」の編集作業でオーバーワークです。十三年間の投稿のなかから選ぶとなると、あっという間に予想した二〇〇ページを越し、結局三〇〇ページ近くにふえてしまいました。お値段もそれに伴って到底一三〇〇円ではおさまらそうもなく、申しわけなく思っております。（最終的にまだ未定ですが、多分一六〇〇円以内におさまると思います）

選考は皆様のご推薦をできるだけ参考にさせていただきます。

●「わいふ二二〇号出版記念会」

は投稿者、読者相互のお知合いになれる又となないチャンスです。「わいふ」を通じて仕事を始めた方のご体験もうかがえます。

次回パーティーは五年後になりますので、この機会を逃さずどうかご出席を。（一四〇ページにお知らせが出ています）

●夏の疲れがでる季節です。お元気で！

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますので、折返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。二冊以上とまりますと送料が半額以下になります。

WIFE

（隔月刊） 220号
1989年 11月1日発行
印刷・平河工業社
定価 460円（本体 447円）
（年間購読料送料共 4020円）
発行所・（株）グループわいふ
編集・わいふ編集部
東京都新宿区市谷加賀町2-5-23
〒162 TEL (03)260-4771・4773
郵便振替 東京 5-110430
加入者名 わいふ編集部

□購読継続・中止は……

購読料が切れたままご送金のないとき、往復ハガキでご案内を申し上げます。お手数ですが、継続・中止のご連絡を返信ハガキで必ずどうぞ。

■これからの夫婦関係を考える

素敵に

おとなのための性教室

コミュニケーション

村瀬幸浩著 46判・1300円

子育て真最中、そして子育て後、夫婦の関係はしっくりいって
いますか？そして、この先
どんな夫婦になりたいと思
いますか？本書は、「性」を
窓口に男と女、夫と妻のヒ
ューマンな「いい関係」をどう育てるか
を大胆に語ります。



離婚・再婚と子ども

■弁護士と法学者の姉妹がつづる夫と妻へのアドバイス
椎名麻紗枝・椎名規子著 46判・1400円

子どもの人権を大切にしながら、離婚・再婚にともなう
さまざまな問題について具体的な事例をもとに解説する

子育てのなかの性教育

山本直英著 ひらかれた性意識をはぐくむなかで子ども
を伸ばす。家庭での性教育読本。国民文庫・520円

定価は
税込
消費
費で
す

シリーズ・いまを生きる 12

結婚「難」の風景

(仮題)

一〇三〇円

「良い結婚」の二つの意味。江原由美子 近ごろの「結婚で
きない男」について。村田基 結婚のメリット・デメリット
福島瑞穂 三十代後半の女性と結婚。尼川洋子 インタヴ
ュー。駒尺喜美 「結婚」の中身が変わってきた。杉山由美子
シングルマザーから見た結婚。川田文子 対談・結婚をとり
まく社会。柳谷あき子・宮原昭夫他。

桜井陽子著

一三三九円

ポストファミリー

「その他の
関係」

夫は子連れ赴任。妻は単身居残り。大胆でユニークな家族関係、
生活スタイルを築いてきた元氣な女のイキイキ体験レポート。

飯山信子・ユック舎編集部編

一三三九円

いい男交友録

秋山さと子、柴門ふみ、河野貴代美ら17人の女が描くそれぞ
れのいい男。座談会「女と男の『いい関係』とは？」も収録。

千野境子編著

一三三九円

あなたもシングル？

増大するシングルの女たちは、何を考え、どう生きていくの
か——10人の手記、落合恵子氏のインタヴューも収録。

フリス・チエスラー著 河野貴代美訳

二〇六〇円

女性と狂気

女性の狂気が精神分析理論でどう定義され、臨床医にどう扱
われてきたか。理論と実態に心理学者が迫る。著者、今秋来日。

「女の人権と性」シンポジウム有志編

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
〒607 ☎(075)581-5191代

ミネルヴァ書房

価格は消費税こみです

沈黙を やぶつた 女たち

青木やよひ
芦野由利子
金住 典子
草野いづみ
駒野 陽子
田中喜美子
堂本 暁子
丸本百合子
宮 淑子
ヤンソン由実子

●映画「中絶—北と南の女たち」をめぐる

中絶の問題に真向から取り組んだ映画に寄せられた女たち
男たちのホンネの声をもとに、中絶と女の人生、女の選択、
生命を考える、女と男の関係性、国家と性、などの視角から
中絶の現状と今後を考えます。

シリーズ〈女・いま生きる〉29・最新刊・1545円

ふたりで

地球を

気まま旅

来栖琴子著 見たい、話したい妻と話せる夫が今日もまた
旅に出る バックツアーに入らず、お金もかけず、行きあたりばつ
たりで続ける旅は、フツウの町ほどワンダーランド、アクティブ
夫婦がくりひろげるフルムーン海外版!!
一八五四円



福永隆子著（あかねクルーズ）

老婚ばんざい

※八十おんな奮戦記※

80年となった長い人生、つれあいに先立たれ老親を抱えてのボラン
ティアの日々のなかで、新しい伴侶と巡り逢い、周囲の冷たい目と
奈落の苦悩を跳ねのけ、ついに老婚成功、高齢社会の重いテーマ・
女性の自立と老いに挑戦する波瀾の手記
一六〇〇円

OP叢書67

森 幹郎著

老いとは何か・老い観の再発見

OP叢書68

社会は老いをどう見ているのか。老人自身はどうか。老人福祉法は
「老い」についてどう規定しているのか。「敬老の日」はどのよう
な意味を持つのか。歴史的にも国際比較的にも著しく異なる「老い
観」の史的变化を辿り、現代の「老い観」を死の問題も含め、老年
学者である著者がユニークに考える。
一四〇〇円